

北海道大学

総合博物館年報

平成 24(2012)・平成 25(2013)年度

北海道大学総合博物館年報 (平成24・25年版)

目 次

第1部 博物館の活動記録

I. 沿革	1
II. 組織	1
III. 学術標本・データベース	9
IV. 高等教育	33
V. 展示活動	37
VI. 社会教育・普及活動	45
VII. 各種協定締結状況	59
VIII. 刊行物等	59

第2部 博物館教員の活動記録

＜平成24・25年度の新聞報道記録＞	128
＜平成24・25年度の予算状況＞	130

第1部 博物館の活動記録

I. 沿革

北海道大学の前身、札幌農学校は1876(明治9)年に開校した。その翌年にはクラーク博士が『札幌農学校第1年報』において、将来の自然史博物館の基礎が着々と出来つつあることを述べている。博士が去って7年後の1884(明治17)年に札幌農学校は開拓使より植物園とともに園内の博物館を譲り受け、ここに附属博物館が実現した。

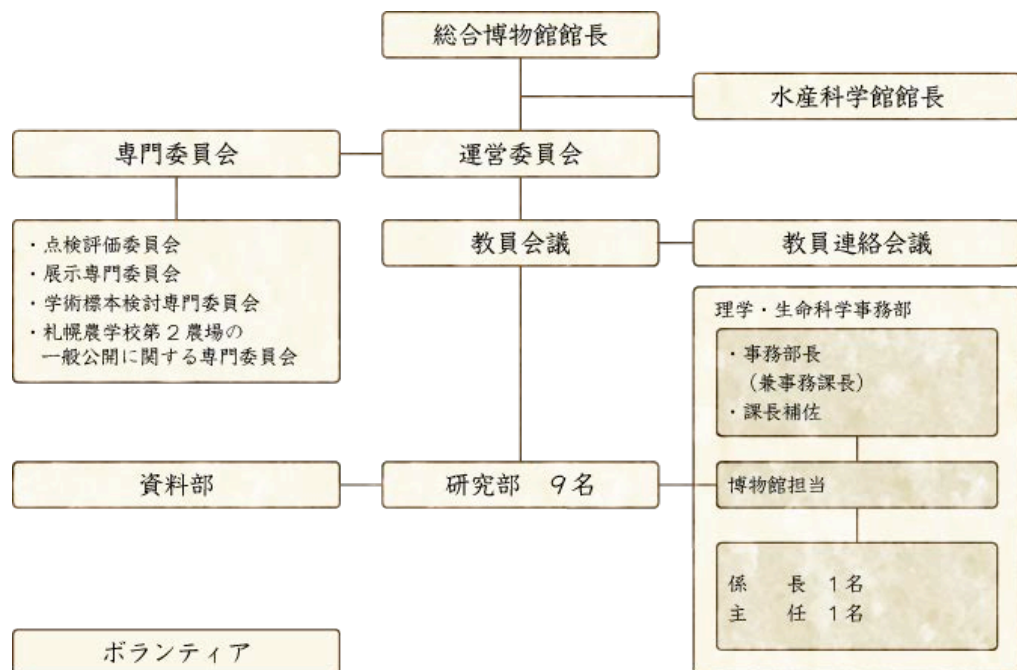
札幌農学校開校以来135年の研究成果として、現在400万点を越す学術標本が学内に所蔵され、その中には1万3千点以上のタイプ標本が含まれている。

これら貴重な学術標本を良好な状態で集約管理し学内外に情報を発信するために、1966(昭和41)年から総合博物館設置が検討されてきた。理学部本館建物を総合博物館として再利用し、延べ約9,000㎡の総合博物館にする構想がまとまり、1999(平成11)年度、文部省より設置が認められた。2001(平成13)年には、本学創基125周年次事業の一環として、第1期工事分3,000㎡の改修が行われ公開展示が開始された。しかしながら引き続く第2、第3期工事分6,000㎡の改修工事は現在目途が立っていない。それにも関わらず北大の教育・研究の成果を広く一般に公開する場として、また、貴重な学術標本を整理・保管し教育・研究に利活用する場として、総合博物館の役割はますます大きなものとなっている。

なお、2007(平成19)年には、水産科学研究院の水産資料館が、水産科学館として総合博物館の分館となった。

II. 組織

1. 組織(平成24～25年度)



2. 総合博物館運営委員会(平成24年4月1日～平成26年3月31日)

・運営委員会

平成24(2012)年4月1日～

総合博物館	館長	津曲 敏郎
	副学長	山口 佳三
附属図書館	館長	新田 孝彦
大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
大学院経済学研究科	教授	蟹江 章
大学院獣医学研究科	教授	坪田 敏男
大学院工学研究院	教授	但野 茂
低温科学研究所	教授	古川 義純
大学院歯学研究院	教授	川浪 雅光
遺伝子病制御研究所	教授	上出 利光
大学院理学研究院	教授	中川 光弘
大学院水産科学研究院	教授	矢部 衛
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	准教授	湯浅 万紀子
総合博物館	准教授	小林 快次
総合博物館	准教授	山本 順司
総合博物館	講師	阿部 剛史(24.11.1～)
総合博物館	講師	江田 真毅

・運営委員会

平成25(2013)年4月1日～

総合博物館	館長	津曲 敏郎
	副学長	川端 和重
附属図書館	館長	新田 孝彦
大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
大学院法学研究科	教授	白取 祐司
大学院情報科学研究科	教授	高橋 庸夫
大学院農学研究院	教授	秋元 信一
電子科学研究所	教授	石橋 晃
大学院医学研究科	教授	岩永 敏彦
北海道大学病院	教授	生駒 一憲
大学院理学研究院	教授	中川 光弘
大学院水産科学研究院	教授	矢部 衛
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	准教授	湯浅 万紀子
総合博物館	准教授	小林 快次
総合博物館	准教授	山本 順司
総合博物館	講師	阿部 剛史
総合博物館	講師	江田 真毅

運営委員会は以下の通り開催された。

(2012年度)

第1回 24.6.18／第2回 24.7.24 メール持ち回り／第3回 24.8.29 メール持ち回り／第4回 24.10.2／第5回 25.2.1／第6回 25.3.14

(2013年度)

第1回 25.6.14／第2回 25.11.27／第3回 26.3.13

3. 総合博物館点検評価委員会(平成24年4月1日～平成26年3月31日)

・点検評価委員会

平成24(2012)年4月1日～

総合博物館	館長	津曲 敏郎
大学院理学研究院	教授	中川 光弘
大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
大学院歯学研究科	教授	川浪 雅光
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	教授	大原 昌宏
理学・生命科学事務部	事務部長	片岡 平和

・点検評価委員会

平成25(2013)年4月1日～

総合博物館	館長	津曲 敏郎
大学院理学研究院	教授	中川 光弘
大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	教授	高橋 英樹
理学・生命科学事務部	事務部長	片岡 平和

点検評価委員会は以下の通り、開催された。

(2012 年度)

第 1 回 25. 3. 14

(2013 年度)

第 1 回 25. 11. 27／第 2 回 26. 3. 13

4. 展示専門委員会(平成 24 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

・ 展示専門委員会

平成 24 (2012) 年 4 月 1 日～

大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
大学院文学研究科	准教授	鈴木 幸人
大学院理学研究院	教授	中川 光弘
アイヌ先住民研究センター	准教授	山崎 幸治
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	准教授	湯浅 万紀子
総合博物館	准教授	小林 快次
総合博物館	准教授	山本 順司
総合博物館	講師	阿部 剛史 (24. 11. 1～)
総合博物館	講師	江田 真毅

・ 展示専門委員会

平成 25 (2013) 年 4 月 1 日～

大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
大学院文学研究科	准教授	鈴木 幸人
大学院理学研究院	教授	中川 光弘
アイヌ先住民研究センター	准教授	山崎 幸治
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	准教授	湯浅 万紀子
総合博物館	准教授	小林 快次
総合博物館	准教授	山本 順司
総合博物館	講師	阿部 剛史
総合博物館	講師	江田 真毅

展示専門委員会は以下の通り、開催された。

(2012 年度)

第 1 回 24. 7. 9／第 2 回 25. 2. 6

(2013 年度)

第 1 回 25. 7. 17／第 2 回 26. 2. 28

5. 学術標本検討専門委員会(平成 24 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

・学術標本検討専門委員会

平成 24 (2012) 年 4 月 1 日～

大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
大学院農学研究院	准教授	吉澤 和徳
大学院理学研究院	教授	中川 光弘
大学院理学研究院	教授	杉山 滋郎
大学院理学研究院	准教授	柁原 宏
大学院医学研究科	教授	寺沢 浩一
大学院獣医学研究科	教授	坪田 敏男
大学院水産科学研究院	准教授	綿貫 豊
大学院地球環境科学研究院	教授	大原 雅
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	准教授	湯浅 万紀子
総合博物館	准教授	小林 快次
総合博物館	准教授	山本 順司
総合博物館	講師	阿部 剛史 (24. 11. 1～)
総合博物館	講師	江田 真毅
総合博物館	助教	河合 俊郎
総合博物館	助教	藤田 良治

・学術標本検討専門委員会

平成 25 (2013) 年 4 月 1 日～

大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
大学院農学研究院	准教授	吉澤 和徳
大学院理学研究院	教授	中川 光弘
大学院理学研究院	教授	杉山 滋郎
大学院理学研究院	准教授	柁原 宏
大学院医学研究科	教授	寺沢 浩一
大学院獣医学研究科	教授	坪田 敏男
大学院水産科学研究院	准教授	綿貫 豊
大学院地球環境科学研究院	教授	大原 雅
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	准教授	湯浅 万紀子
総合博物館	准教授	小林 快次
総合博物館	准教授	山本 順司
総合博物館	講師	阿部 剛史
総合博物館	講師	江田 真毅
総合博物館	助教	河合 俊郎
総合博物館	助教	藤田 良治

学術標本検討専門委員会は以下の通り、開催された。

(2012 年度)

開催なし

(2013 年度)

第 1 回 26. 2. 4

6. 札幌農学校第2農場の一般公開に関する専門委員会

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

・札幌農学校第2農場の

一般公開に関する専門委員会

平成 24 (2012) 年 4 月 1 日～		
大学院文学研究科	教授	白木 沢旭児
大学院理学研究院	教授	中川 光弘
大学院工学研究院	助教	池上 重康
大学院農学研究院	教授	柴田 洋一
北方生物圏フィールド科学センター	教授	近藤 誠司
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	資料部研究員	高井 宗宏
総合博物館	資料部研究員	松枝 大治
総合博物館	資料部研究員	天野 哲也
理学・生命科学事務部	事務部長	片岡 平和
施設部環境配慮促進課	課長	長井 一夫

・札幌農学校第2農場の

一般公開に関する専門委員会

平成 25 (2013) 年 7 月 1 日～		
大学院文学研究科	教授	白木 沢旭児
大学院理学研究院	教授	中川 光弘
大学院工学研究院	助教	池上 重康
大学院農学研究院	教授	柴田 洋一
大学院農学研究院	教授	近藤 誠司
大学院農学研究院	准教授	片岡 崇
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	准教授	山本 順司
総合博物館	講師	江田 真毅
総合博物館	資料部研究員	高井 宗宏
理学・生命科学事務部	事務部長	片岡 平和
施設部環境配慮促進課	課長	長井 一夫

札幌農学校第2農場の一般公開に関する専門委員会は以下の通り開催された。

(2012 年度)

第 1 回 24. 7. 20 / 第 2 回 25. 2. 27

(2013 年度)

第 1 回 25. 7. 22 / 第 2 回 26. 2. 19

7. 総合博物館水産科学館専門委員会

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

・水産科学館専門委員会

平成 24 (2012) 年 4 月 1 日～		
大学院水産科学研究院	教授	矢部 衛
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	助教	河合 俊郎
大学院水産科学研究院	准教授	綿貫 豊
大学院水産科学研究院	准教授	清水 晋
大学院水産科学研究院	准教授	東堂 孝
大学院水産科学研究院	准教授	水田 浩之
大学院水産科学研究院	准教授	岸村 栄毅
大学院水産科学研究院	准教授	山口 篤
大学院水産科学研究院	准教授	今村 央
大学院水産科学研究院	助教	李 大雄

・水産科学館専門委員会

平成 25 (2013) 年 4 月 1 日～		
大学院水産科学研究院	教授	矢部 衛
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	助教	河合 俊郎
大学院水産科学研究院	准教授	綿貫 豊
大学院水産科学研究院	准教授	清水 晋
大学院水産科学研究院	准教授	東堂 孝
大学院水産科学研究院	准教授	水田 浩之
大学院水産科学研究院	准教授	岸村 栄毅
大学院水産科学研究院	准教授	山口 篤
大学院水産科学研究院	准教授	今村 央
大学院水産科学研究院	助教	李 大雄

8. 総合博物館研究部

<研究部>

平成 24(2012)年度 (研究部長 高橋)

○資料基礎研究系

教 授 高橋 英樹 (植物体系学)
教 授 大原 昌宏 (昆虫体系学)
講 師 阿部 剛史 (海藻分類学) (24. 11. 1~)
助 教 河合 俊郎 (魚類分類学)

○資料開発研究系

准教授 小林 快次 (古生物学)
准教授 山本 順司 (地球科学)
講 師 江田 真毅 (考古学)

○博物館教育・メディア研究系

准教授 湯浅 万紀子 (博物館教育学)
助 教 藤田 良治 (博物館映像学)

<研究部>

平成 25(2013)年度 (研究部長 大原)

○資料基礎研究系

教 授 高橋 英樹 (植物体系学)
教 授 大原 昌宏 (昆虫体系学)
講 師 阿部 剛史 (海藻分類学)
助 教 河合 俊郎 (魚類分類学)

○資料開発研究系

准教授 小林 快次 (古生物学)
准教授 山本 順司 (地球科学)
講 師 江田 真毅 (考古学)

○博物館教育・メディア研究系

准教授 湯浅 万紀子 (博物館教育学)
助 教 藤田 良治 (博物館映像学)

教員会議は、館長および研究部の教員によって構成される。

教員会議は、以下の通り開催された。

(2012 年度)

第1回 24. 6. 13 / 第2回 24. 7. 19 メール持ち回り / 第3回 24. 8. 29 / 第4回 24. 9. 26 / 第5回 24. 9. 28 メール持ち回り / 第6回 24. 10. 31 / 第7回 25. 1. 23 / 第8回 25. 3. 6

(2013 年度)

第1回 25. 6. 5 / 第2回 25. 11. 13 / 第3回 26. 3. 5 / 第4回 26. 3. 26

9. 資料部研究員

平成 24 (2012) 年度

大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
大学院文学研究科	助教	高倉 純
大学院理学研究院	教授	中川 光弘
大学院理学研究院	教授	堀口 健雄
大学院理学研究院	教授	Matthew H. Dick
大学院理学研究院	准教授	川村 信人
大学院理学研究院	准教授	小亀 一弘
大学院理学研究院	特任准教授	新井田 清信
大学院理学研究院	准教授	増田 隆一
大学院理学研究院	講師	沢田 健
大学院理学研究院	准教授	柁原 宏
大学院工学研究科	助教	池上 重康
大学院工学研究科	助教	小野 修司
大学院薬学研究院	助教	田中 直伸
大学院農学研究院	助教	宮本 敏澄
大学院農学研究院	准教授	吉澤 和徳
大学院水産科学研究院	教授	矢部 衛
大学院水産科学研究院	准教授	今村 央
大学院水産科学研究院	准教授	綿貫 豊
大学院地球環境科学研究院	教授	大原 雅
低温科学研究所	教授	戸田 正憲
低温科学研究所	教授	古川 義純
北方生物圏フィールド科学センター	教授	近藤 誠司
北方生物圏フィールド科学センター	助教	東 隆行
北方生物圏フィールド科学センター	助教	四ツ倉 典滋
創成研究機構	准教授	Gautam Pitambar
アイヌ・先住民研究センター	教授	加藤 博文
埋蔵文化財調査室	特定専門職員	守屋 豊人
北海道武蔵女子短期大学	非常勤講師	小野 裕子
北海道教育大学	准教授	高久 元
帯広百年記念館	学芸調査員	持田 誠
秋田大学工学資源学部	助教	高橋 亮平
北海道大学	名誉教授	大泰 司紀之
北海道大学	名誉教授	小笠原 正明
北海道大学	名誉教授	片倉 晴雄
北海道大学	名誉教授	加藤 誠
北海道大学	名誉教授	末永 義圓
北海道大学	名誉教授	諏訪 正明
北海道大学	名誉教授	仲谷 一宏
北海道大学	名誉教授	藤田 正一
北海道大学	名誉教授	前川 光司
北海道大学	名誉教授	増田 道夫
北海道大学	名誉教授	松枝 大治
北海道大学	名誉教授	馬渡 駿介
北海道大学	名誉教授	吉田 忠生
北海道大学	名誉教授	天野 哲也
本学退職教員		在田 一則
本学退職教員		高井 宗宏

平成 25 (2013) 年度

大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
大学院文学研究科	助教	高倉 純
大学院文学研究科	助教	守屋 豊人
大学院理学研究院	教授	中川 光弘
大学院理学研究院	教授	堀口 健雄
大学院理学研究院	教授	Matthew H. Dick
大学院理学研究院	准教授	川村 信人
大学院理学研究院	准教授	小亀 一弘
大学院理学研究院	教授	増田 隆一
大学院理学研究院	准教授	沢田 健
大学院理学研究院	准教授	柁原 宏
大学院工学研究科	助教	池上 重康
大学院工学研究科	助教	小野 修司
大学院薬学研究院	助教	田中 直伸
大学院農学研究院	教授	近藤 誠司
大学院農学研究院	助教	宮本 敏澄
大学院農学研究院	准教授	吉澤 和徳
大学院獣医学研究科	教授	片倉 賢
大学院水産科学研究院	准教授	今村 央
大学院水産科学研究院	准教授	綿貫 豊
大学院地球環境科学研究院	教授	大原 雅
北方生物圏フィールド科学センター	助教	東 隆行
北方生物圏フィールド科学センター	准教授	四ツ倉 典滋
創成研究機構	准教授	Gautam Pitambar
アイヌ・先住民研究センター	教授	加藤 博文
北海道教育大学	教授	高久 元
帯広百年記念館	学芸調査員	持田 誠
札幌第一高等学校	教諭	高橋 芳枝
北海道大学	名誉教授	大泰 司紀之
北海道大学	名誉教授	小笠原 正明
北海道大学	名誉教授	片倉 晴雄
北海道大学	名誉教授	加藤 誠
北海道大学	名誉教授	末永 義圓
北海道大学	名誉教授	諏訪 正明
北海道大学	名誉教授	戸田 正憲
北海道大学	名誉教授	仲谷 一宏
北海道大学	名誉教授	藤田 正一
北海道大学	名誉教授	増田 道夫
北海道大学	名誉教授	松枝 大治
北海道大学	名誉教授	馬渡 駿介
北海道大学	名誉教授	吉田 忠生
本学退職教員		天野 哲也
本学退職教員		在田 一則
本学退職教員		高井 宗宏
本学退職教員		新井田 清信
本学退職教員		春木 雅寛
本学退職教員		山本 玉樹
総合博物館		伊藤 誠夫

本学退職教員
総合博物館
総合博物館
総合博物館
総合博物館
総合博物館

山本 玉樹
伊藤 誠夫
稲荷 尚記
越前谷宏紀
岡田 大岬
小林 孝人

総合博物館
総合博物館
総合博物館
総合博物館
総合博物館

稲荷 尚記
越前谷宏紀
岡田 大岬
小林 孝人
小野 裕子

資料部会議は、以下の通り開催された。

(2012 年度)

第 1 回 24. 7. 18／第 2 回 25. 1. 16

(2013 年度)

第 1 回 25. 8. 1

10. 客員教授・外国人研究員（平成24～25年度在任）

○平成24年2月20日～平成24年5月19日・特任教授

Svetlana Ivanovna Chabanenko（地衣類分類学・分類地理学）

（ロシア・科学アカデミー極東支部サハリン植物園）

○平成24年4月1日～平成24年6月30日・特任教授

Artur Viktorovich Kharinskiy（考古学）（ロシア・イルクーツク州立工科大学）

○平成24年9月1日～平成24年11月30日・特任准教授

Mi- Jeong JEON（昆虫学）（大韓民国・国立環境庁生物資源館）

○平成24年12月1日～平成25年2月28日・特任教授

Djunijanti Peggie（昆虫分類学）

（インドネシア・科学省生物研究センター・ボゴール動物学博物館）

○平成25年1月1日～平成25年3月31日・特任教授

Yuong-Nam Lee（古生物学・地学）（大韓民国・韓国地質資源研究院地質博物館）

○平成25年10月7日～平成26年1月31日・特任教授

Hsuan-Ching Ho（魚類分類学）（台湾・国立東華大学）

○平成25年10月24日～平成26年2月19日・特任教授

Ke-Zhang Qin（資源地質科学）（中華人民共和国・中国科学院地質地球物理研究所）

○平成26年1月1日～平成26年3月31日・特任教授

Vadim Bakalin（コケ植物分類学）

（ロシア連邦・ロシア科学アカデミー極東支部ウラジオストク植物園・研究所）

11. 国内研究員（平成22～23年度在任） なし

III. 学術標本・データベース

1. 陸上植物標本コレクション (SAPS)

【利活用】

北大総合博物館植物標本庫利用者数（人・日）記録

年度	学内	学外	総計
2012	13	18	31
2013	11	37	48

標本庫は学内の院生・学生により日常的に利用されている。「学内」とした記録はゲストブックに記録されている者のみで、実際の利用者の一部である。

1-1) 標本庫利用者記録（学外者のみ: 2012-2013 年度）

2012.04-20 内田暁友（知床博物館）Ericaceae
2012.04.20-21 高嶋八千代（釧路市）*Salicornia*
2012.06.01 井部真理子（ライヴ環境計画）フタバラン属
2012.06.20 田村実（京都大学・理学）ユリ科
2012.06.22 中山祐一郎（大阪府立大学・生命環境）ヒエ属、アブラナ属
2012.07.12 李瑞宗（台湾輔仁大学・生命科学）Kudo Collection
2012.07.12 蔡思薇（台湾政治大学台湾史研究所）Kudo Collection
2012.07.19 黒沢高秀（福島大学・共生システム理工学）*Scirpus*
2012.07.19 首藤光太郎（福島大学・共生システム理工学）*Pyrola*
2012.09.11 梅沢俊（植物写真家）シダ類
2012.10.22 持田誠（帯広百年記念館）十勝産植物
2012.11.02 五十嵐博（北海道野生植物研究所）マメ科
2012.11.08 細川音治（美幌町郷土研究会）
2013.01.11 五十嵐博（北海道野生植物研究所）ゴマノハグサ科
2013.01.11 村山良子（枝幸町文化財保護委員会）サクラソウ科
2013.01.24 新田紀敏（北海道森林総合研究所）ジンチョウゲ科
2013.03.29 高嶋八千代（釧路市）*Aster*
2013.04.25 高嶋八千代（釧路市）*Coptis*
2013.05.08 梅沢俊（植物写真家）シダ類
2013.06.18 北村孔志（静岡大学）カンガレイ類
2013.06.18 泰中啓一（静岡大学）イースト菌
2013.07.23 朴宣柱（Yeungnam Univ.）

2013.07.23 孫五庚 (Yeunnan Univ.)
 2013.07.23 Jin Hyang (Yeungnam Univ.)
 2013.07.23 崔京鉄 (Yeungnam Univ.) *Aster*
 2013.08.02 邑田仁 (東京大学小石川植物園) *Vaccinium*
 2013.08.02 黒田萌子 (東京大学小石川植物園) *Vaccinium*
 2013.08.02 岡田美知子 (東京大学小石川植物園) *Vaccinium*
 2013.08.20-25 持田誠 (帯広百年記念館) 十勝産植物
 2013.09.07 武田千恵子 (札幌市) *Cyperaceae*
 2013.09.14 武田千恵子 (札幌市) *Cyperaceae*
 2013.09.27-28 石原あえか (東京大学) 伊藤有標本
 2013.10.01 加藤ゆき恵 (釧路市立博物館) *Carex*
 2013.10.18 佐橋紀男 (東邦大学理学部) *Ophioglossum, Botrychium*
 2013.10.31 新田紀敏 (北海道総合研究機構) サクラソウ属
 2013.11.25-29 支倉千賀子 (神奈川県植物誌調査会) タケ亜科
 2013.12.09 加藤ゆき恵 (釧路市立博物館) ルイヨウショウマ、エゾウコギ、
Scirpus
 2013.12.21 武田千恵子 (札幌市) シダ類
 2014.01.14 山崎真実 (札幌市博物館活動センター) カラフトグワイ
 2014.01.17 武田千恵子 (札幌市) シダ類
 2014.01.17 丹羽真一 (さっぽろ自然調査館) ヤツガタケムグラ
 2014.01.28 山崎真実 (札幌市博物館活動センター) ヒロハズギナモ
 2014.02.10 山崎真実 (札幌市博物館活動センター) タデ科、スギナモ科、
 ミクリ科
 2014.02.20 新田紀敏 (北海道総合研究機構新業試験場) *Q. mongolica*

1-2) 貸出・送付標本、研究用試料提供記録 (2012-2013 年度)

2012.07.27 (解析用試料提供) 択捉島産植物植物標本 7 点 (北大農学部 森
 本淳子・大坪心)
 2012.11.05 (展示用標本貸出) 十勝産植物 5 点 (帯広百年記念館 持田誠)
 2013.01.28 (研究用貸出) *Puccinellia hauptiana* 2 点 (国立極地研究所 伊
 村智)
 2013.04.03 (研究用標本画像提供) *Geranium yesoense* のホロタイプ標本画
 像データ
 2013.07.02 (研究用標本貸出) *Geranium yesoense* 166 点 (名古屋大学博物
 館 西田佐知子) (Real Jordin Botanico, Madrid, Dr. Carlos Aedo)
 2013.11.27 (研究用標本寄贈) 日本産植物 50 点 (Yeungnam Univ., Dr. Seonjoo

- Park)
- 2014.03.24 (研究用標本寄贈) 日本産イチヤクソウ科植物 5 点 (Ohio State Univ., Dr. Freudenstein)
- 2014.03.24 (研究用標本貸出) エゾツツジ標本 (University of Alaska, Dr. S. Ickert-Bond)

1-3) 受領標本記録 (2012-2013 年度)

- 2013.10.22 人間環境大学より植物標本 193 点寄贈受入
- 2014.02.13 福井総合植物園植物標本庫 (FUK) より植物標本 67 点交換標本受入

1-4) SAPS 標本が引用されている主な論文 (2012-2013) (2012 年)

1. 高橋英樹. 2012. 北大総合博物館陸上植物標本庫 (SAPS) からみた利尻島・礼文島の植物標本史. 北方山草 (29): 5-17.
2. 丸山まさみ. 2012. 北海道大雪山国立公園、然別湖の植物 III. 大雪山系でヒダカキンバイソウ (キンポウゲ科) を確認. ひがし大雪博物館研究報告 (34): 13-17.
3. 山崎真実・丸山まさみ・持田誠. 2012. 北海道大雪山国立公園、然別湖の植物 IV. 然別湖および東雲湖の水生植物相. ひがし大雪博物館研究報告 (34): 19-26.

(2013 年)

4. 持田誠. 2013. おびひろ動物園から記録されたエゾヒメアマナおよび十勝における標本記録について. 帯広百年記念館紀要 (31): 25-32.
5. 持田誠. 2013. 本別町歴史民俗資料館の植物標本. 北方山草 (30): 73-80.
6. 高嶋八千代・照井滋晴. 2013. 北海道標茶町釧路川河畔に出現したキク科の一種について—北海道初記録か—. 標茶町郷土館報告 (25): 43-46.
7. Fujii, N., Ueda, K., Watano, Y. & Shimizu, T. 2013. Taxonomic revival of *Pedicularis japonica* from *P. chamissonis* (Orobanchaceae). Acta Phytotax. Geobot. **63**: 87-97.
8. Kadota, Y., & Miura, N. 2013. Taxonomic studies of *Cirsium* (Asteraceae) in Japan XXIV. Five new species from Hokkaido, northern Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. B, **39**: 107-129.

2. 菌類標本コレクション (SAPA)

【利活用】

2-1) 標本庫利用者記録 (2012-2013 年度)

2012.04.11 岩佐範子 (北方山草会)
2012.04.11 長尾憲子 (北方山草会)
2012.05.10 小野義隆 (茨木大学教育学部)
2012.06.30 和田洋子(函館市)
2012.11.09 矢島由佳 (産業総合研究所)
2012.11.21 北原涼子 (北大・農学院)
2013.01.16 宮本敏澄 (北大・農学研究院)
2013.04.04 栃原行人 (北大・総合理系)
2014.02.14 細谷剛 (国立科学博物館)
2014.02.14 宮本敏澄 (北大・農学研究院)

2-2) SAPA 標本が引用された主な論文 (2012-2013 年)

1. 小林孝人 2013. 北方四島のアセタケ属菌について. 北方四島調査報告, 22 p. 北海道大学総合博物館.
2. Fan, Y.-G., T. Bau & T. Kobayashi, 2013. Newly recorded species of *Inocybe* collected from Liaoning and Inner Mongolia. *Mycosystema* 32(2): 302-308.

2-3) 受領標本記録 (2012-2013 年度)

(2012 年度)

- ・つくば大学山岡裕一博士より研究用 *Melampsora* 標本 7 点返却

(2013 年度)

- ・弘前市原田幸雄博士から研究用 *Uromyces* 標本 5 点返却

3. 海藻標本コレクション (SAP)

【利活用】

3-1) 標本閲覧 (2012-2013年度)

2012年度 学内0件 学外7件 国外1件 計8件

2013年度 学内0件 学外14件 国外6件 計20件

※学内の藻類関連研究室の教員・学生による利用は日常的に行われており、上記記録には含まれない。

2012.05.28-29 栗林貴範、北海道立総合研究機構水産研究本部中央水産試験

場

2012.07.14	寫田智、お茶の水女子大学
2012.07.16	新山優子、国立科学博物館
2012.07.16	辻彰洋、国立科学博物館
2012.07.16	宮田昌彦、千葉県立中央博物館
2012.07.16	Wendy Nelson, National Institute of Water and Atmospheric Research, New Zealand
2012.08.11	若菜勇、釧路市教育委員会
2012.12.17	川井浩史、神戸大学
2013.02.26-27	寺田竜太、鹿児島大学
2013.05.28	Louis Druehl, Bamfield Marine Science Centre, Canada
2013.05.28	Nina Klochkova, Kamchatka State Technical University, Russia
2013.05.28	Sung Min Boo, Chungnam National University, Korea
2013.05.28	Shao Jun Pang, Institute of Oceanology, Chinese Academy of Science, China
2013.05.28	Dmitry Galanin, Sakhalin Research Institute of Fisheries and Oceanography, Russia
2013.05.28	桐原慎二、青森県産業技術センター
2013.05.28	川井唯史、稚内水産試験場
2013.05.28	Rae Hopkins, Canadian Kelp Resources, Canada
2013.05.28	木下康宣、北海道立工業技術センター
2013.07.16	林裕一、岡部株式会社
2013.07.23	鯨坂哲朗、京都大学
2013.08.10	鯨坂哲朗、京都大学
2013.09.13	寫田智、お茶の水女子大学
2013.09.13	川井浩史、神戸大学
2013.09.17	広瀬裕一、琉球大学
2013.09.30	栗原暁、九州大学
2013.10.03-04	鈴木雅大、東京大学
2013.10.11-16	須田昌宏、岡部株式会社
2013.11.22-23	北山太樹、国立科学博物館

3-2) 標本貸出 (2012-2013年度)

2012年度 件数3件 標本数37点

2013年度 件数9件 標本数127点

(内訳)

- 2012.04.02- (研究用) 島袋寛盛 (水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所) *Sargassum tosaense* (9 sheets)
- 2012.06.20- (研究用) 島袋寛盛 (水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所) *Sargassum* (20 sheets)
- 2013.02.28- (研究用) Priscila B. de Jesus (Campus Universitario de Ondina, Brasil) *Hypnea* (8sheets)
- 2013.04.19- (研究用) Ga Hun Boo, c/o Sung Min Boo (Chungnam National University, Korea) *Gelidium tenue*, *G. koshikianum* (5 sheets)
- 2013.08.05- (展示用) Veera Vilasri (National Science Museum, Thailand) *Udotea argentea* 他レッドデータ掲載種 (19 sheets)
- 2013.09.13- (研究用) 川井浩史 (神戸大学) *Zonaria coriacea* Isoype (1 sheet)
- 2013.09.24- (研究用) K. G. Karol (The New York Botanical Garden, USA) *Heribaudiella fluviatilis* (6 sheets)
- 2013.10.02- (研究用) 栗原暁 (九州大学) *Meristotheca* (18 sheets)
- 2013.10.23- (研究用) Alison Sherwood (University of Hawaii, USA) *Porphyra vietnamensis* Holotype (1 sheet)
- 2013.11.23- (研究用) 北山太樹 (国立科学博物館) *Plumaria ramosa* 他 (73 slides プレパラート)
- 2014.02.14- (研究用) 川井浩史 (神戸大学) *Distromium decumbens* Type (1 sheet)
- 2014.03.20- (研究用) 栗原暁 (九州大学) *Meristotheca dakarensis* (3 sheets)

3-3) S A P 標本が引用された主な論文 (国際誌のみ : 2012-2013年) 〈2012年〉

1. Christian Boedeker, C., C. J. O'Kelly, W. Star & F. Leliaert, 2012. Molecular phylogeny and taxonomy of the *Aegagropila* clade (Cladophorales, Ulvophyceae), including the description of *Aegagropilopsis* gen. nov. and *Pseudocladophora* gen. nov. *Journal of Phycology* **48**(3): 808-825.
2. Suzuki, M., H. Nozaki, R. Terada, T. Kitayama, T. Hashimoto & Makoto Yoshizaki. Morphology and molecular relationships of *Leptofaucea leptophylla* comb. nov. (Rhodymeniales, Rhodophyta) from Japan. *Phycologia* **51**(5): 479-488.
3. Sun, Z., T. Hanyuda, P.-E. Lim, J. Tanaka, C. F. D Gurgel & H. Kawai, 2012. Taxonomic revision of the genus *Lobophora* (Dictyotales, Phaeophyceae) based on morphological evidence and analyses rbcL and cox3 gene sequences. *Phycologia* **51**(5): 500-512.
4. Win, N.-N., T. Hanyuda, S. G. A Draisma, E. Verheij, W. F. Prud'homme van Reine,

P.-E. Lim, S.-M. Phang & H. Kawai, 2012. Morphological and molecular evidence for two new species of *Padina* (Dictyotales, Phaeophyceae), *P. sulcata* and *P. calcarea*, from the central Indo-Pacific region. *Phycologia* **51**(5): 576-585.

〈2013年〉

5. Kato, A., M. Baba & S. Suda, 2013. Taxonomic circumscription of heterogeneous species *Neogoniolithon brassica-florida* (Corallinales, Rhodophyta) in Japan. *Phycological Research* **61**(1): 15-26.
6. Ichihara, K., K. Miyaji & S. Shimada, 2013. Comparing the low-salinity tolerance of *Ulva* species distributed in different environments. *Phycological Research* **61**(1): 52-57.
7. Ichihara, K., S. Shimada & K. Miyaji, 2013. Systematics of Rhizoclonium-like algae (Cladophorales, Chlorophyta) from Japanese brackish waters, based on molecular phylogenetic and morphological analyses. *Phycologia* **52**(5): 398-410.
8. Yamada, N., R. Terada, A. Tanaka & T. Horiguchi, 2013. *Bispinodinium angelaceum* gen. et sp. nov. (Dinophyceae), a new sand-dwelling dinoflagellate from the seafloor off Mageshima Island, Japan. *Journal of Phycology* **49**(3): 555-569.

4. 昆虫標本コレクション (SEHU)

【利活用】

年度	学外者国内	学外者海外	総計
2012	19	5	25
2013	19	9	28

標本庫は学内の学生・院生・ボランティアによって恒常的に利用されており、「学外者」のみ国内、海外に分けて記した。

4-1) 貸出記録（日付／貸出者住所または所属／氏名／貸出分類群） (2012-2013)

(2012 年度) 23 件

2012.2.2/ 鈴鹿市木田町 2399 / 生川展行 / Coleoptera: Erotyridae

2012.2.2/ 神戸大学農学研究科 昆虫機能学研究室 / 渡辺恭平 / Hymenoptera: Ichneumonidae

2012.2.2/ 港区西麻布 3-8-12 / 青木淳一 / Coleoptera: Colydiidae

2012.3.9/ 熊本県熊本市黒髪 森林総合研究所 / 末吉昌宏 / Diptera:
Mycetophilidae

2012.3.1/ 千葉県博 / 倉西良一 / Trichoptera

2012.3.2/ Department of Entomology, National Museum,
Czech Republic / Martin Fikacek / Coleoptera: Hydrophilidae

2012.4.5/ 愛媛大学 農学部 昆虫学教室 / 松尾進 / Coleoptera: Languriidae

2012.4.5/ 埼玉大学教育学部 / 林 正美 / Hemiptera : Auchenorrhyncha

2012.5.7/ Reseach and Planning Division
National Science Museum, Korea / Seung-Ho Oh / Hymenoptera :
Ichneumonidae

2012.5.8/ Division of Forest Biodiversity, Korea National Arboretum,
Korea / Jongok Lim / Hymenoptera : Bethylidae

2012.5.1/ Universitat de Barcelona, Facultat de Biologia,
Departament de Biologia Animal, Barcelona, Spai/ Mar Ferrer Suay /
Hymenoptera: Cynipoidea: Figitidae

2012.5.2/ 福岡市中央区梅光園 / 三枝豊平 / Lepidoptera: Psychidae

2012.6.2/ Univ. Montreal, Biodiversity Centre, Canada / Colin Favret / Hemiptera:
Aphididae

2012.7.9/ 神戸植物防疫所 / 杉本俊一郎 / Hemiptera: Aphididae

2012.8.1/ 大妻女子大学人間生活科学研究所 / 益本仁雄 / Coleoptera: Lgriidae

2012.9.2/ St. Petersburg / Vladimir Gonzdilov / Hemiptera: Issidae

2012.9.2/ 埼玉大学 / 林正美 / Hemiptera: Cicadellidae

2012.12./ 大阪府立大学生命環境科学部緑地環境科学科
昆虫学研究グループ o.jp / 吉田 貴大 / Coleoptera: Silvanidae

2012.12./ Department of Biodiversity and Evolutionary Taxonomy,
University of Wroclaw, Poland
/ Dr. Lech Borowiec / Coleotpera: Chrysomelidae

2012.12./ 茨城県水戸市千波町 / 市毛勝義 / Diptera: Platystomatdae

2012.12./ 神戸大学大学院農学研究科 生命機能科学専攻
昆虫多様性生態学研究室 / 伊藤 誠人 / Hymenoptera : Ichneumonidae

2012.12./ 茨城県水戸市千波町 / 市毛勝義 / Diptera: Syrphidae

2012.12./ Environmental Research Complex, National Institute of Biological
Resources(NIBR) , Incheon, Repu/ Sun-Jae Park, Ph D / Coleoptera:
Ptilodactylidae

(2013 年度) 21 件

2013.1.2/ Entomology Laboratory, Museum Zoologicum Bogoriense, Research Center

- for Biology, INDONESIAN I/ Hari Nugroho / Hymenoptera: Polistinae
- 2013.1.2/ 国立科学博物館 / 原秀穂、篠原明彦 / Hymenoptera: Argidae
- 2013.1.2/ 帯広市 / 鳥倉 英徳 / Hemiptera: Aphididae
- 2013.3.1/ 千葉県博 / 倉西良一 / Trichoptera
- 2013.4.2/ 札幌市西区 / 高橋誠一 / Hymenoptera: Crabronidae
- 2013.4.1/ 埼玉大学 / 林正美 / Hemiptera: Cicadidae
- 2013.5.1/ 国立科学博物館 動物研究部
/ 大和田 守 / Lepidoptera: Zygaenidae, Chalcosiinae
- 2013.5.6/ Plant Quarantine Technology Center, Animal and Plant Quarantine Agency,
Korea
/ KANG, Tae Hwa / Coleoptera: Canthalidae
- 2013.5.6/ 大阪府豊能郡豊能町光風台 / 安藤清志 / Coleoptera: Tenebrionidae
- 2013.5.2/ Research Entomologist, Hymenoptera Unit/ Systematic Entomology Lab,
USDA/ARS c/o NMNH, Smithsonian/ Elijah Talamas / Hymenoptera:
Scelionidae
- 2013.7.2/ 神奈川県平塚市ふじみ野 / 野津 裕 / Coleoptera: Curculionidae
- 2013.9.3/ 中興大学昆虫学教室 / Yang, MM (via. Tsai, JF) / Neuroptera:
Mantispidae
- 2013.9.1/ Zoological Institute, Russian Academy of Sciences, St. Petersburg, Russia /
Alexandr Emeljanov / Hemiptera: Fulgoromorpha
- 2013.9.2/ 九州大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻農業資源学コース
/ 吉田 貴大 / Coleoptera: Silvanidae
- 2013.9.2/ 愛媛大学農学部環境昆虫学研究室 / 甲斐達也 / Coleoptera:
Pyrochroidae
- 2013.9.2/ 横浜市青葉区 / 中村 紀雄 / Lepidoptera: Nymphalidae
- 2013.9.2/ 九州大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻農業資源学コース
昆虫学教室 / 有本晃一 / Coleoptera: Elateridae
- 2013.9.2/ Laboratory of Insect Taxonomy, Zoological Institute of Russian Academy of
Sciences / Sergey Belokobylskij / Hymenoptera : Pteromalidae
- 2013.9.2/ Laboratory of Insect Taxonomy, Zoological Institute of Russian Academy of
Sciences / Sergey Belokobylskij / Hymenoptera : Aphidiidae
- 2013.10./ 新潟市西区新通西 / 佐藤力夫 / Lepidoptera: Geometridae
- 2013.11./ 学研教育出版 科学・図鑑出版事業部 図鑑・百科編集室 / 里中 正
紀 / Coleoptera: Histeridae, Synteliidae, Leiodae

4-2) SEHU 標本が引用された主な論文

著者からの出版の報告が遅れることもあるため、最近になって発表が確認された論文も含めて挙げてある。

(2010 年度以前) 4 件

Sasakawa, K., & K. Kubota, 2006. *Nebria tenuicaulis* sp. nov., a sympatric species with *Nebria sadona ohdaiensis* Nakane, with studies on the phylogeny of the subgenus *Sadonebria* Ledoux & Roux (Coleoptera: Carabidae). *Zootaxa*, 1306: 41-50.

Yoshimura, M., Onoyama, K. & Ogata, K., 2007. The ants of the genus *Odontomachus* (Insecta: Hymenoptera: Formicidae) in Japan. *Species Diversity*, 12: 89-112.

青木淳一, 2009. 図鑑に載っていない日本産ホソカタムシ. *Kanagawa-Chuho*, Odawara, (165): 1-15.

Kawai, S., 2010. Notes on *Caccobius suzukii* Matsumura, 1936, a junior synonym of *Caccobius* (*Caccobius*) *boucomonti* Balthasar, 1935 (Coleoptera, Scarabaeidae). *Kogane*, Tokyo, (11): 89-92.

(2011 年度) 6 件

Imura, Y., & M. Matsunaga, 2011. Discovery of an Isolated Population of *Limnocarabus* (*Euleptocarabus*) *porrecticollis* (Coleoptera, Carabidae) from the Southern Foot of Mt. Fuji In Shizuoka Prefecture, Central Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 1(1): 1-14.

Hong, C.D., C. van Achterberg & Z.F. Xu, 2011. A revision of the Chinese *Stephanidae* (Hymenoptera, Stephanoidea). *ZooKeys*, 110: 1-108.

Novkovic, B., Mitsui, H., Suwito, A. and Kimura, M. T., 2011. Taxonomy and phylogeny of *Leptopilina* species (Hymenoptera: Cynipoidea: Figitidae) attacking frugivorous drosophilid flies in Japan, with description of three new species. *Entomological Science*, 14: 333-346.

Yamane & Jaitrong, 2011. A first species of *Tetramorium* (Hymenoptera, Formicidae, Myrmicinae) with a polymorphic worker caste. *Insecta matsumurana*, new series, 67: 61-74.

吉武啓 (2011) 「特定外来生物オオフサモを職害する日本産クチブトサルゾウムシ族 2 種に関する覚書」. さやばねニューシリーズ, (3): 1-7.

Okada, R., 2011. A new species of the genus *Platambus* (Coleoptera, Dytiscidae) from Hokkaido, Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 1(1): 31-38.

(2012 年度) 12 件

Akita, K., & K. Masumoto, 2012 [2011]. New or little-known tenebrionid beetles (Coleoptera, Tenebrionidea) from Japan. *Elytra*, New series, 1(2): 275-294.

- 箱崎陽一, 2012. 北海道札幌南高等学校林を活用した環境教育の実践 ―教育林・環境林として活用を開始した学校林―. 財団法人下中記念財団. 2012年報. 4-18 pp.
- Hemby, D. H., Okamoto, T., McCormack, G. & Gillespie, R. G., 2012. Phytophagous insect community assembly through niche conservatism on oceanic islands. *Journal of Biogeography*, 2012: Early view.
- Hoshina, H., 2012. Review of the tribe Sogdini and Leiodini from Japan and North Chishima Islands. Part II. Genera *Hydnobius* and *Leiodes* (Coleoptera: Leiodidae). *Acta Entomologica*, 52 (suppl. 1): 1-168.
- Harstmann, K., 2012. Revision of Nearctic Tersilochinae III. Genera *Aneuclis* Förster and *Diaparsis* Förster. *Spixiana*, 35 (1): 117-142.
- Hayashi, M., S. D. Song and T. Sota, 2012. Molecular phylogeny and divergence time of the water penny genus *Eubrianax* (Coleoptera: Psephenidae) in Japan. *Entomological Science*, 15: 314-323.
- 中谷充, 2012. 岩手県産ヒメバチ属のヒメバチについて. 岩手虫学会会報, (39): 7-16.
- Seung-Ho Oh, Seung-Lak An, Jong-Wook Lee, 2012. Review of Korean *Latibulus* (Hymenoptera: Ichneumonidae: Cryptinae) and a key to the world species. *Canadian Entomologist* 2012, 144 (4): 509-525.
- Svihla, V., & S. Kopetz, 2012. A review of the genus *Laemoglyptus* from the Himalayas (Coleoptera: Cantharidae). *Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae*, 52 (2): 443-466.
- Yamamoto, S., & M. Maruyama, 2012. Revision of the seashore-dwelling subgenera *Emplenota* Casey and *Triochara* Bernhauer (Coleoptera: Staphylinidae: genus *Aleochara*) from Japan. *Zootaxa*, 3517: 1-52.
- 矢崎康幸 (Yasuyuki Yazaki), 2012. ブータンの蝶類 (Butterflies of Bhutan). 268 pp. Kitami, Hokkaido. (自費出版)
- Zhao, K.-X., Achterberg, C. van. & Xu, Z.-F., 2012. A revision of the Chinese Gasteruptionidae (Hymenoptera, Evanioidea). *Zookeys*, (237): 1-123.
- (2013年度) 3件
- Lee, C.-F., & Y. Matsumura, 2013. On newly and recently recorded species of the genus *Lema* Fabricius (Coleoptera, Chrysomelidae, Criocerinae) from Taiwan. *ZooKeys*, 262: 17-37.
- Shinohara, A., M.C. Wei & G.G. Niu, 2013. Revision of *Siobla* (Hymenoptera, Tenthredinidae) from Japan. *Zootaxa*, 3746 (1): 1-40.
- Tselikh, E.V., 2013. Chalcid wasp of the family Pteromalidae (Hymenoptera,

Chalcidoidea) of the Kuril Islands. Entomological Review, 94 (1): 86-104.
(2014 年度) 1 件
佐藤力夫・福田輝彦, 2014. 日本と台湾の Doratoptera 属 (シャクガ科エダシャク亜科) に関する分類学的知見. 蛾類通信, (270): 493-498.

5. 魚類標本コレクション (HUMZ)

【利活用】

本学の魚類標本は、日常的に教員・学生の研究、および学生の教育に活用されている。その他にも、国内外から多数の標本借用の要望があり、本学以外の研究者にも活用されている。

5-1) 標本庫利用者記録 (学外者のみ: 2012. 4-2014. 3)

(2012 年度)

奥野哲史 (共和コンクリート工業株式会社アルガテック Kyowa 海藻技術研究所)

小谷健二 (青森県水産試験場)

片倉靖次 (北海道紋別市海洋交流館)

篠原現人 (国立科学博物館)

波戸岡清峰 (大阪市立自然史博物館)

三宅教平 (おたる水族館)

甲斐義晃 (京都大学)

天田未貴 (京急油壺マリンパーク)

(2013 年度)

Ian Greadall (東北大学)

須田健太 (岡部応用藻類学研究所)

三宅教平 (おたる水族館)

松浦啓一 (国立科学博物館)

竜田直樹 (和歌山県農林水産総合技術センター)

天田未貴 (京急油壺マリンパーク)

西田清徳 (大阪・海遊館)

藤井千春 (岩手県立博物館)

Peter Last (CSIRO, Australia)

William White (CSIRO, Australia)

Jeffrey Leis (Australian Museum)

Marcelo R. de Carvalho (Universidade de São Paulo)
Diego Francisco Biston Vaz (Universidade de São Paulo)
Sarah Tházia Viana de Figueirêdo (Universidade de São Paulo)
Flávia de Figueiredo Petean (Universidade de São Paulo)
Thomas A. Munroe (NOAA, USA)
Martha Nizinski (NOAA, USA)
何宣慶 (National Museum of Marine Biology & Aquarium, Taiwan)
Osman bin Muda (Marine Fishery Resources Development and Management
Department (SEAFDEC/MFRDMD), Malaysia)
Veera Vilasri (タイ国立科学博物館)
甲斐義晃 (京都大学)
矢頭卓児 (兵庫県立神戸高校)

5-2) 貸出・送付標本記録 (2012. 4-2014. 3)

2012.4.12:2 点 (北海道教育大学 後藤晃)
2012.4.12:23 点 (水産大学校 酒井治巳)
2012.4.18:1 点 (北海道大学 五嶋聖治)
2012.4.19:30 点 (国立科学博物館 篠原現人)
2012.4.24: 14 点 (Te Pa Pa Museum of New Zealand, Carl Struthers)
2012.5.1:8 点 (Museum Victoria, Martin F. Gomon)
2012.5.15:1 点 (弘前大学 大高明史)
2012.5.15:1 点 (岡山大学 中田和義)
2012.5.15:2 点 (University of Western Australia, Shaun P. Collin)
2012.5.16:2 点 (Museum national d'Histoire Naturelle, Bernard Seret)
2012.5.22:2 点 (Grice Marine Laboratory, Nicolas Straube)
2012.6.5:5 点 (Museum Victoria, Dianne Bray)
2012.7.13:2 点 (Smithsonian Institution, Jeffrey T. Williams)
2012.8.14:1 点 (National Sun Yat-sen University, Hin-kiu Mok)
2012.8.15:10 点 (高知大学 遠藤広光)
2012.8.31:7 点 (水産大学校 酒井治巳)
2012.9.18:1 点 (National Sun Yat-sen University, Hin-kiu Mok) DNA
2012.9.27:18 点 (Pukyong National University, Jin-koo Kim)
2012.9.18:7 点 (東海大学 武藤文人)
2012.10.9:1 点 (東京農業大学 松原創)
2012.10.5:10 点 (Harvard University, Karsten Hartel)
2012.11.8:1 点 (Pukyong National University, Jin-koo Kim)

2012.11.15:3 点 (University of California, 富田武照)
2012.12.20:3 点 (東京大学 小島茂明)
2013.1.8:1 点 (フランス Chappel Anthony)
2013.1.9:1 点 (東京農業大学 松原創)
2013.1.10:2 点 (Museum national d'Histoire Naturelle, Romain Causse)
2013.1.17:2 点 (国立科学博物館 篠原現人)
2013.1.29:3 点 (国立科学博物館 篠原現人)
2013.1.30:12 点 (小樽水族館 三宅教平)
2013.2.7:7 点 (Pukyong National University, Jin Koo Kim)
2013.2.22:21 点 (小樽水族館 三宅教平)
2013.2.26:6 点 (国立科学博物館 篠原現人)
2013.3.1:3 点 (国立科学博物館 篠原現人)
2013.3.11:1 点 (小樽水族館 三宅教平)
2013.3.11:7 点 (京急油壺マリンパーク 天田未貴)
2013.3.18:22 点 (University of Washington, Katherine P. Maslenikov)
2013.3.18:6 点 (京都大学 甲斐義晃)
2013.4.16:22 点 (岩手県立博物館 藤井千春)
2013.5.7:10 点 (国立科学博物館 田城文人)
2013.5.20:1 点 (北海道大学水産学部 阿部拓三)
2013.5.21:21 点 (国立科学博物館 篠原現人)
2013.6.11:1 点 (三重大学 木村清志)
2013.6.17:10 点 (福岡県保健環境研究所 中島淳)
2013.7.3:8 点 (福岡県保健環境研究所 中島淳)
2013.7.8:1 点 (University of Hawaii, David B. Carlon)
2013.7.8:19 点 (CSIRO, Peter Last)
2013.7.11:13 点 (CSIRO, Peter Last)
2013.7.17:4 点 (National Science Museum, Thailand, Veera Vilasri)
2013.7.19:1 点 (Pukyong National University, Jin Koo Kim)
2013.7.26:1 点 (三重大学 木村清志)
2013.7.31:30 点 (Universidade de São Paulo, Marcelo R. de Carvalho)
2013.8.21:13 点 (水産大学校 酒井治巳)
2013.8.29:20 点 (琉球大学 山平寿智)
2013.8.30:7 点 (応用藻類学研究所 須田健太)
2013.9.27:1 点 (Yale University, Thomas Near)
2013.9.30:1 点 (Australian Museum, John Paxton)
2013.10.31:28 点 (国立科学博物館 松浦啓一)

2013.11.1:1 点 (University of Hawaii, David B. Carlon)
 2013.11.13:2 点 (北海道大学水産学部 阿部拓三)
 2013.12.6:57 点 (CSIRO, Peter Last)
 2014.2.18:52 点 (おたる水族館 三宅教平)
 2014.2.26:5 点 (国立科学博物館 松浦啓一)
 2014.2.26:2 点 (茨城県自然史博物館 中川裕喜)
 2014.3.3:68 点 (おたる水族館 三宅教平)
 2014.3.5:2 点 (Pukyong National University Jin-Koo Kim)

5-3) 新規標本記録 (2012-2013 年度)

2012 年度 : 4,316 点
 2013 年度 : 4,195 点

5-4) 証拠標本として引用された主な論文 (2012-2013 年) (2012 年)

- Chaiyapo, C., H. Imamura & M. Yabe, 2012. Morphology and Function of Pectoral Fin Muscles in Lizardfishes (Actinopterygii: Aulopiformes: Synodontidae), with Comments on an Additional Muscle of the Fin. *Species Diversity* 17 (2): 161-167.
- Honma, Y., H. Imamura & T. Kawai, 2012. Anatomical description of the genus *Perryena*, and proposal to erect a new family for it based on its phylogenetic relationships with related taxa (Scorpaeniformes). *Ichthyological Research*, 2013 (DOI 10.1007/s10228-012-0321-z)
- Imamura, H. & Odani, K. 2012. An overview of the phylogenetic relationships of the suborder Trachinoidei (Acanthomorpha: Perciformes). *Ichthyological Research*.
- Imamura, H., 2012. Validity and redescription of the flathead fish, *Onigocia macrocephala* (Weber, 1913) (Teleostei: Platycephalidae). *Zootaxa* 3450: 23-32. 2012
- Imamura, H., 2012. Redescription of *Platycephalus angustus* Steindachner 1866 (Teleostei: Platycephalidae), a valid flathead in northern Australia and New Guinea. *Ichthyological Research*. DOI 10.1007/s10228-012-0319-6.
- Imamura, H., & T. Kawai, 2013. Note on dentition of *Howella parini* Fedoryako 1976 (Perciformes). *Ichthyological Research*, 2013(DOI 10.1007/s10228-012-0331-x)
- Kanehira, K., H. Imamura, & M. Yabe, 2012. Phylogenetic relationships of the

- suborder Notacanthoidei (Teleostei: Albuliformes) reassessed from osteological characters, with a proposed new classification. Mem. Fac. Fish. Sci. Hokkaido Univ. 54: 1-28.
- Kim, S.-Y., 2012. Phylogenetic systematics of the family Pentacerotidae (Actinopterygii: Order Perciformes). Zootaxa, 3366: 1-111.
- Matsubara, H., T Kawai, D. Iwata, M. Shimizu, H. Yoshikawa, Y. Kubara & A. Suzuki, 2012. The Kaluga sturgeon (*Huso dauricus*) from the coast of southernmost Okhotsk Sea, Hokkaido, Japan.. Biogeography 14: 11-17.
- Miyazaki, Y., A. Terui, H. Senou and I. Washitani, 2013. Illustrated checklist of fishes from the Shubuto River System, southwestern Hokkaido, Japan. Check List 9 (1): 63-72.
- Motomura, H., N. Kanehira & H. Imamura, 2012. Redescription of a Poorly Known Southeastern Pacific Scorpionfish (Scorpaenidae), *Phenacoscorpius eschmeyer* Parin and Mandrytsa. Species Diversity 17 (2): 145-150.
- Nagano, Y., H. Imamura & M. Yabe, 2012. Taxonomic status of *Hoplichthys regani* Jordan 1908 (Scorpaeniformes: Hoplichthyidae), with comments on its authorship. Ichthyol. Res., 59: 255-263.
- Nakayama, N. & Endo, H., 2012. A new grenadier of the genus *Nezumia* (Pisces: Gadiformes: Macrouridae) from southern Japan.. Zootaxa 3410: 61-68.
- Tenda, M., & T. Kawai, 2012. Record of an armored searobin, *Peristedion barbiger* (Garman, 1899) (Actinopterygii: Teleostei: Peristediidae) from off Peru, with taxonomical notes on the species. Species Diversity 17 (2): 135-144.
- Okamoto, M., P. Bartsch and H. Motomura, 2012. *Epigonus merleni*, a junior synonym of *Epigonus macrops* (Actinopterygii: Perciformes: Epigonidae). Species Diversity 17 (2): 123-126.
- 大橋慎平・今村央・矢部衛, 2012. 日本周辺海域から採集された日本初記録のアシロ科魚類カラスオビアシロ (新称) *Brotulotaenia nielsen*. 魚類学雑誌 59 (2) : 135-139.
- Richards, W.J. & Yato, T., 2012. The tropical species of the subgenus *Pterygotrigla* (Pisces: Triglidae: *Pterygotrigla*) with description of a new species.. Zootaxa 3484: 53-64.
- Roberts, C. D., & M. F. Gomon, 2012. A review of giant roughies of the genus *Hoplostethus* (Beryciformes, Trachichthyidae), with descriptions of two new Australasian species. Memoirs of Museum Victoria 69: 341-354.
- 櫻井慎大・佐々木嘉子・河合俊郎・三宅教平, 2012. 北海道寿都沖から得られたイスズミ科魚類ノトイスズミ *Kyphosus bigibbus* およびアジ科魚類カン

パチ *Seriola dumerili* の日本周辺海域における北限記録. 日本生物地理学会会報 67: 241-246.

Yamanaka, T., T. Abe and M. Yabe, 2012. First Record of *Ernogrammus zhirimuskii* (Actinopterygii: Cottiformes: Stichaeidae) from Japan, with a Description and a Revised Diagnosis. *Species Diversity* 17 (2): 127-133.

山中智之・矢部衛, 2012. *Alectrias markevichi* Sheiko, 2012に対する新標準和名「ヒナムシャギンボ」の提唱. 魚類学雑誌59 (2) : 175-176.

Yamanaka, T., H. Imamura, M. Itoh & M. Yabe, 2012. Synonymy of a rare stichaeid fish, *Eulophias tanneri* Smith 1902, and its redescription (Teleostei: Cottiformes). *Ichthyological Research* 59: 365-372.

(2013 年)

Dolganov, V. N., & P. A. Saveliev, 2013. The Formation of the Lycodinae Fauna (Perciformes: Zoarcidae) of the Sea of Japan. *Russian Journal of Ichthyology* 39(5): 331-339.

Ebert, E. A., & H. A. Wilms, 2013. *Pristiophorus lanae* sp. nov., a new sawshark species from the Western North Pacific, with comments on the genus *Pristiophorus* Müller & Henle, 1837 (Chondrichthyes: Pristiophoridae). *Zootaxa* 3752(1): 86-1003.

Goto, T., Y. Shiba, K. Shibagaki & K. Nakaya, 2013. Morphology and Ventilatory Function of Gills in the Carpet Shark Family Parascylliidae (Elasmobranchii, Orectolobiformes). *Zoological Science* 30: 461-468.

Hilton, E. J., & D. Stevenson, 2013. Osteology of the prowfish, *Zaprora silenus* (Cottiformes: Zoarcoidei: Zaproridae). *Journal of Morphology* 274: 1143-1163.

Honma, Y., H. Imamura & T. Kawai, 2013. Anatomical description of the genus *Perryena*, and proposal to erect a new family for it based on its phylogenetic relationships with related taxa (Scorpaeniformes). *Ichthyological Research* 60: 122-141, Apr. 2013.

Imamura, H., & T. Kawai, 2013. Note on dentition of *Howella parini* Fedoryako 1976 (Perciformes). *Ichthyological Research* 60: 291-292, July 2013.

Imamura, H., 2013. Redescription of *Platycephalus angustus* Steindachner 1866 (Teleostei: Platycephalidae), a valid flathead in northern Australia and New Guinea. *Ichthyological Research* 60: 112-121, Apr. 2013.

Last, P. R., H.-C. Ho & R.-R. Chen, 2013. A new species of wedgfish, *Rhynchobatus immaculatus* (Chondrichthyes, Rhynchobatidae), from Taiwan. *Zootaxa*

- 3752(1): 185-198, Dec. 2013.
- Le Port, A., M. D. Pawley & S. D. Lavery, 2013. Speciation of two stingrays with antitropical distributions: low levels of divergence in mitochondrial DNA and morphological characters suggest recent evolution. *Aquatic Biology* 19: 153-165.
- Miyazaki, Y., A. Terui, H. Senou & I. Washitani, 2013. Illustrated checklist of fishes from the Shubuto River System, southwestern Hokkaido, Japan. *Check List* 9(1): 63-72, 2013.
- Nagano, Y., M. A. McGrouther & M. Yabe, 2013. A new species of the hoplichthyid genus *Hoplichthys* (Teleostei: Hoplichthyidae) from northern Western Australia. *Zootaxa* 3681(3): 241-248.
- Nakaya, K., S. Inoue & H.-C. Ho, 2013. A review of the genus *Cephaloscyllium* (Chondrichthyes: Carcharhiniformes: Scyliorhinidae) from Taiwanese waters. *Zootaxa* 3752(1): 101-129.
- Okamoto, M., & H. Motomura, 2013. Two new species of deepwater cardinalfish from the Indo-Pacific, with a definition of the *Epigonus pandionis* group (Perciformes: Epigonidae). *Ichthyological Research*. 60: 301-311.
- Theiss, S. M., & D. A. Ebert, 2013. Lost and found: recovery of the holotype of the ocellated angelshark, *Squatina tergocellatoides* Chen, 1963 (Squatinae), with comments on western Pacific squatinids. *Zootaxa* 3752(1): 73-85.
- Tomita, T., T. Kawai, H. Matsubara & R. Nagata, 2013. Occurrence of the Chilean devil ray *Mobula tarapacana* (Elasmobranchii: Batoidea: Myliobatiformes) in the Sea of Okhotsk: first record of the devil ray from cold temperate water. *Journal of Fish Biology* (83): 695-698.
- 櫻井慎大・今村央・矢部衛, 2013. 沖縄舟状海盆から得られた日本初記録のアナゴ科魚類カザリエラアナゴ (新称) *Blachea xenobranchialis*. *魚類学雑誌*60(2): 135-140.
- Sato, K., A. L. Stewart & K. Nakaya, 2013. *Apristurus garricki* sp. nov., a new deep-water catshark from the northern New Zealand waters (Carcharhiniformes: Scyliorhinidae). *Marine Biology Research* 9(8): 758-767.
- Stevenson, D. E., & C. P. Kenaley. Revision of the Manefish Genera *Caristius* and *Platyberyx* (Teleostei: Percomorpha: Caristiidae), with Descriptions of Five New Species. *Copeia* 2013(3): 415-434.
- Straube, N., W. T. White, H.-C. Ho, E. Rochel, S. Corrigan, C. Li & G. J.P. Naylor, 2013. A DNA sequence-based identification checklist for Taiwanese

chondrichthyans. Zootaxa 3752(1): 256-278.

Vilasri, V., 2013. Comparative anatomy and phylogenetic systematics of the family Uranoscopidae (Actinopterygii: Perciformes). Memoirs of the Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University, 55(1/2): 1-106.

White, W. T., K. Furumitsu & A. Yamaguchi, 2013. A new species of eagle ray *Aetobatus narutobiei* from the northwest pacific: An example of the critical role taxonomy plays in fisheries and ecological sciences. Plos One 8(12): e83785. doi:10.1371/journal.pone.0083785.

6. 古生物学コレクション

【利活用】

6-1) 主な学外からの標本利用

2012 年度は、脊椎動物化石の利用が多かった。その一方、2013 年度は、無脊椎動物化石や植物化石の利用が目立った。近年の脊椎動物化石収集の成果が出ているが、それに加え、当館においてこれまでの長い北大の歴史の中で収集された無脊椎動物・植物化石を管理しているため、それらの標本が有効に利用されている。

	件数	点数
2012 年度	4	16
2013 年度	7	239

2012 年度

2012.1.17 東北大学総合学術博物館 ウタツサウルス 1 組

2012.7.25-8.19 札幌市青少年科学館 タルボサウルス頭骨その他計 13 点借用

2013.1.4-3.31 東京学芸大学 ウタツサウルス第一標本レプリカ 1 組

2013.1.13 帯広児童会館青少年科学館 タルボサウルス頭骨 借用

2013 年度

2013.4.11 高梁市成羽美術館 大石三郎先生関連の植物化石標本 40 点

2013.4.25 金沢大学 羽幌産のクビナガリュウ化石 20 点

2013.6.10 国立科学博物館 哺乳類化石アミノドン他 10 点

2013.7-24-26 名古屋大学 貝化石 28 点

2013.10.15 新潟大学 二枚貝化石 100 点

2013.3.26-28 高梁市成羽美術館 大石三郎先生関連の植物化石標本 40 点
借用

2014.2.6 国立科学博物館 巻貝 1点 借用

7. 岩石鉱物鉱石標本コレクション

【利活用】

7-1) 標本庫利用状況 (2012-2013 年度)

2012.5.7 橘省吾 (本学理学院)

2012.9.4 学芸員実習 (4名)

2012.11.2 学術標本資料学 (14名)

2012.12.20 博物館演習 (21名)

2013.3.17 バックヤードツアー (12名)

2013.8.11 バックヤードツアー (18名)

2013.9.3 学芸員実習 (5名)

2013.10.24 鉱床学 (62名)

2013.11.2 学術標本・資料学 (13名)

2014.2.21 平野直人 (東北大学東北アジア研究センター): 根室地方および北方領土の岩石標本

【貸出標本】 (2012-2013 年度)

2012.5.7 橘省吾 (本学理学院): Brucite 等含水鉱物、4点 (合計約 1 kg)

【寄贈標本】 (2012-2013 年度)

2012.12.19 緑色凝灰岩 (地球環境研究院 奥山英登志氏): 1個 (3 kg)

2013.2.15 鉱石標本 (産業技術総合研究所北海道支部): 木箱 200 箱

2014.3.10 鉱石標本 (産業技術総合研究所北海道支部): 木箱 250 箱

7-2) 標本が引用された主な論文 (2012-2013 年度)

Shitaoka Y., Miyoshi M., Yamamoto J., Shibata T., Nagatomo T. and Takemura K.

(2013) Thermoluminescence age of quartz xenocrysts in basaltic lava from Oninomi monogenetic volcano, northern Kyushu, Japan. *Geochronometria*, in press.

Miyoshi M., Shinmura T., Sumino H., Sano T., Miyabuchi Y., Mori Y., Inakura H., Furukawa K., Uno K., Hasenaka T., Nagao K., Arakawa Y. and Yamamoto J.
(2013) Lateral magma intrusion from a caldera-forming magma chamber: Constraints from geochronology and geochemistry of volcanic products from lateral cones around the Aso caldera, SW Japan. *Chemical Geology* 352,

202–210.

- Yamamoto J., Nishimura K., Ishibashi H., Kagi H., Arai S. and Prikhod'ko V.S. (2012) Thermal structure beneath Far Eastern Russia inferred from geothermobarometric analyses of mantle xenoliths: direct evidence for high geothermal gradient in backarc lithosphere. *Tectonophysics* 554–557, 74–82.
- Kobayashi T., Yamamoto J., Hirajima T., Ishibashi H., Hirano N., Lai Y., Prikhod'ko V.S. and Arai S. (2012) Accuracy and precision of CO₂ densimetry in CO₂ inclusions: microthermometry vs. micro-Raman densimetry. *Journal of Raman Spectroscopy* 43, 1126–1133.
- Toyama C., Muramatsu Y., Yamamoto J., Nakai S. and Kaneoka I. (2012) Sr and Nd isotope ratios and trace element concentrations in kimberlites from Shandong and Liaoning (China) and the Kimberley area (South Africa). *Geochem. J.* 46, 45–59.
- Ishibashi H., Arakawa M., Yamamoto J. and Kagi H. (2012) Precise determination of Mg/Fe ratios applicable to terrestrial olivine samples using Raman Spectroscopy. *Journal of Raman Spectroscopy* 43, 331–337.
- 下岡順直, 三好雅也, 山本順司, 三好まどか, 竹村恵二 (2012) 海浜砂の多種選別分析法による後背地地質推定プログラム. *地学教育* 65, 51–61.
- 山本順司, 徳永彩未, 下岡順直 (2012) 環境教育における地球深部炭素の教材性に関する研究. *環境教育* 21, 64–73.

8. 考古学分野

【利活用】

考古学資料学外利用件数および利用者数（人・日）記録

	件数	人・日数
2012 年度	7	42
2013 年度	5	25

学外からの利用のほか、標本は学内の学生・教員の研究に日常的に利用されるとともに、講義・実習・パラタクソノミスト養成講座などの学生・生涯教育にも活用されている。

8-1) 標本庫利用記録（2012.4－2014.3：学外者のみ）
（2012 年度）

2012.5.26. 河合章行（鳥取県埋蔵文化財センター）骨角器調査
 2012.8.24.-8.31. Erik Gjefjeld（University of Washington）土器調査
 2012.9.3.-9.6. Sean C. Lynch (University of Alberta) 黒曜石製品調査
 2012.10.30.-11.1. Yana Piskareva（Institute of History and Archaeology, Russia）土器調査
 2012.11.5.-11.8. Yana Piskareva（Institute of History and Archaeology, Russia）土器調査
 2012.11.8. 杉浦章一郎（東京大学大学院）土器調査
 2012.11.12.-11.13. Yana Piskareva（Institute of History and Archaeology, Russia）土器調査
 2012.11.20.-11.21. Yana Piskareva（Institute of History and Archaeology, Russia）土器調査
 2013.3.22. 石丸恵利子（熊本大学埋蔵文化財調査室）鰭脚類資料調査
 2013.3.30. 工藤義衛（ほか 15 名）（いしかり砂丘の風資料館・石狩縄文会「満月の会」）バックヤードツアー
 （2013 年度）
 2013.5.25. 覚張隆史（北里大学医学部）動物遺存体資料調査
 2013.7.21. International Field School in Rebun Island, Preliminary Lecture（参加人数：20 名）バックヤードツアー
 2013.8.27. 福田正宏（東京大学）発掘調査原図調査
 2013.11.14. 内山幸子（東海大学課程資格教育センター）ネガ写真調査
 2014.3.25-3.26. 柳澤清一（千葉大学史学科）骨偶調査

8-2) 資料・標本貸出（2012.4.－2014.3）

（2013 年度）

2013.2.20-8.11. 名古屋大学博物館 展示利用

8-3) 収蔵資料が利用された主な論文・報告

内山幸子 2014 『イヌの考古学』同成社

9. 動物骨格分野

【利活用】

動物骨格標本学外利用件数および利用者数（人・日）記録

	件数	人・日数
--	----	------

2012 年度	2	7
2013 年度	2	4

学外からの利用のほか、標本は学内の学生・教員の研究に日常的に利用されるとともに、学生教育にも活用されている。

9-1) 標本庫利用記録 (2012.4－2014.3：学外者のみ)

(2012 年度)

2012.4.16-4.27. 山田英佑 (鹿児島大学大学院) ツシマジカとニホンジカ頭骨調査

2013.3.22. 石丸恵利子 (熊本大学埋蔵文化財調査室) 鰭脚類資料調査

(2013 年度)

2013.11.5., 11.8 一島啓人 (福井県立恐竜博物館) 各種動物頭骨標本調査

2013.6.10.-6.11. 久保麦野 (東京大学総合研究博物館) ニホンジカ骨標本調査

9-2) 資料・標本貸出 (2012.4.－2014.3)

(2012 年度)

2012.4.1.-13.3.31. 増田隆一 (北海道大学理学研究院)：56 点 講義利用

(2013 年度)

2013.4.1.-14.3.31. 増田隆一 (北海道大学理学研究院)：56 点 講義利用

2013.6.11.- 久保麦野 (東京大学総合研究博物館)：65 点 研究利用

2013.6.25., 7.2. 木山克彦 (北海道大学スラブ研究センター)：2 点 講義利用

2014.1.7.-1.14. 菊田融 (CISE ネットワーク)：3 点 展示利用

9-3) 収蔵資料が利用された主な論文・報告

石船夕佳 2013.「清水尻 I 遺跡出土の動物遺存体」『秋田県文化財調査報告書第 488 集 清水尻 I 遺跡・清水尻 II 遺跡』秋田県教育委員会、pp43-45

Mugino Ozaki Kubo, Eisuke Yamada, 2014. The Inter-Relationship between Dietary and Environmental Properties and Tooth Wear: Comparisons of Mesowear, Molar Wear Rate, and Hypsodonty Index of Extant Sika Deer Populations. PLOS ONE 9 e90745

10. 学術標本データベース

現在総合博物館で構築・インターネット公開されているデータベースは、タイトル別にして15、分野にして7分野である (それぞれ古生物学、鉱物・鉱床

学、植物体系学、昆虫分類学、魚類分類学、考古学、その他分野横断 [=植物体系学、鉱物・鉱床学、考古学を横断])。

以下に当館で管理されているものについてタイトルを記す（北大総合博物館登録標本データベース：<http://museum-sv.museum.hokudai.ac.jp/databases/>の表記を踏襲し、系別表記とする）。

●**地球科学系**(既公開及び準備中のものを含む)

- ・化石標本（約20,000点、平成18年再構築、HP公開中）
- ・鉱物（北海道産新鉱物ほかタイプ標本(10点)を含む約7,500点、平成18年再構築、HP公開中）
- ・岩石（約9,000点、理学研究院より公開中、博物館HPからの公開準備中）
- ・北海道の火山（有珠ほか）（約 1,600 点、公開準備中）
- ・宇井標本（約 1,100 点、公開準備中）
- ・地質標本・現象のデータベース（約420点、HP公開中）
- ・鉱石データベース（約4,000点、HP公開準備中）
- ・カムチャッカ金属資源データベース（約430点、平成17年9月～HP公開中）
- ・黒曜岩標本 (吉谷コレクション) (約 1,140 点、HP 公開準備中)
- ・白滝遺跡出土石器(黒曜石)(約 5,300 点、HP 公開準備中)
- ・渡辺武男標本(約 1,385 点、HP 公開準備中)
- ・由井俊三標本(約 3,000 点、HP 公開準備中)

●**生物系**

- ・海藻標本データベース
- ・陸上植物タイプ標本データベース
- ・エンマムシデータベース
- ・IC タグ×昆虫標本データベース
- ・苫小牧研究林生命情報データベース
- ・魚類標本データベース
- ・昆虫標本データベース
- ・北海道大学昆虫学教室・総合博物館所属タイプ標本データベース
- ・中根猛彦コレクション：甲虫類タイプ標本データベース

●**考古学系**

- ・考古学資料検索システム（約 4,000 点 平成 25 年 3 月～ 公開中）

●**分野横断データベース**

- ・北大総合博物館北東ユーラシア資料統合データベース

IV. 高等教育

博物館教員が兼任あるいは担当する理学部・農学部・水産学部、理学院・農学院・水産科学院で講義・実習・特論等を担当し、担当学部・学院では卒論生・修士・博士も指導している。また全学教育の授業も担当している。平成24年度から実施されている新たな学芸員養成課程では、科目が細分化されて増えたため、博物館教員が分担する授業科目が増え、本学での学芸員資格取得のための教育に貢献をしている。以下、1項は、博物館教員が主担当となり全学対象に開講している博物館開催の授業である。2項は、学芸員養成課程に関連した授業と実習、3項は大学院共通授業科目である。4項は、博物館で全学的に展開している「ミュージアムマイスター認定コース」について紹介する。北大が目指す全人教育の一環を担うコースであり、国内の大学における博物館教育において先進的でユニークな取り組みとして評価されている。

1. 全学教育

【総合科目】

北大総合博物館で学ぼう——「コレクション・もの」にこだわる科学
(2012年度)

大学博物館講座：北大自然史研究の系譜 (2012・2013年度)

【一般教育演習】

北大総合博物館で学ぼう！—博物館のバックヤードを知る— (2012年度)

北大エコキャンパスの自然—植物学入門 (2012・2013年度)

北大エコキャンパスの自然と歴史 (2012・2013年度)

2. 学芸員養成課程関連授業・実習

博物館概論 (2012・2013年度)

博物館教育論／教育学概論 (2012・2013年度)

博物館学Ⅰ／博物館資料論 (2012・2013年度)

博物館学Ⅱa／博物館経営論 (2012・2013年度)

博物館学Ⅱb／博物館情報・メディア論 (2012・2013年度)

博物館展示論 (2012・2013年度)

博物館資料保存論（2012・2013 年度）

博物館実習事前指導（2012・2013 年度）

博物館実習（2012・2013 年度）

2012 年度 2012 年 9 月 4 日～7 日、10 日～13 日 8 日間

受講生：7 名

2013 年度 2013 年 9 月 3 日～6 日、9 日～12 日 8 日間

受講生：14 名（うち 1 名は酪農学園大学）

3. 大学院共通授業科目

博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資本学（2012・2013 年度）

博物館学特別講義Ⅱ：展示・教育・活動評価（2012・2013 年度）

博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発案型プロジェクトの企画・
実施・評価（2013 年度）

博物館コミュニケーション特論Ⅱ 映像表現 夏の陣（2013 年度）

博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価
（2013 年度）

博物館コミュニケーション特論Ⅳ 映像表現冬の陣（2013 年度）

4. ミュージアムマイスター認定コース

- ・実施プログラム：39 科目（2012 年度）、38 科目（2013 年度）
- ・認定コース登録者：126 人（2012 年度）、140 人（2013 年度）
- ・マイスター認定者：3 人（2012 年度）、3 人（2013 年度）

【導入科目】

生物の多様性（2012・2013 年度）

北大総合博物館で学ぼう——「コレクション・もの」にこだわる科学（2012
年度）

フィールド科学への招待（2012・2013 年度）

アイヌ・先住民研究の現在（2012・2013 年度）

大学博物館講座：北大自然史研究の系譜（2012・2013 年度）

北大エコキャンパスの自然と人間：植物学入門（2012・2013 年度）

北大エコキャンパスの自然と歴史（2012・2013 年度）

【ステップアップ科目】

フィールド体験型プログラム：人間と環境科学（1）（2012・2013 年度）
フィールド体験型プログラム：人間と環境科学（2）（2012・2013 年度）
博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学（2012・2013 年度）
北方人類学演習：フィールドワーク実践（2012・2013 年度）
北方文化論特殊講義：ミュージアムのマネジメント（2012・2013 年度）
学芸員から見た美術の世界（2012・2013 年度）
PMF の響き（2012・2013 年度）
ヒグマ学入門（2012・2013 年度）
遺跡を探そう：合宿型発掘体験実習（2012・2013 年度）
ヒトとは何か：進化・歴史・文化（2012・2013 年度）
水圏生物学（2012・2013 年度）
魚類学（2012・2013 年度）
ベントス学（2012・2013 年度）
パラタクソノミスト養成講座（2012・2013 年度）
北大総合博物館で学ぼう！—博物館のバックヤードを知る—（2012 年度）
北海道近代美術館に学ぶ（2012 年度）
博物カンカン！（1、2）（2012 年度）
北大フィールドセンター施設を活用して地域を学ぶ（2013 年度）
美術館という現場（2013 年度）

【社会体験型科目】

北方人類学特別演習：ミュージアム展示制作と文化（2012・2013 年度）
人類学特別演習：ミュージアム展示制作と文化（2012・2013 年度）
博物館学特別講義Ⅱ：展示・教育・活動評価（2012・2013 年度）
博物館コミュニケーション特論（学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価）（2012・2013 年度）
博物館コミュニケーション特論（ミュージアムグッズの開発と評価）（2012・2013 年度）
博物館コミュニケーション特論（基礎からわかる映像表現）（2012 年度）
博物館コミュニケーション特論（博物館における映像表現）（2013 年度）
博物館コミュニケーション特論（映像制作とスノーボード）（2013 年度）
博物館コミュニケーション特論Ⅰ（学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価）（2013 年度）
博物館コミュニケーション特論Ⅱ 映像表現 夏の陣（2013 年度）
博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価（2013 年度）

博物館コミュニケーション特論Ⅳ 映像表現 冬の陣（2013 年度）

「藻類」展の展示解説（2012 年度）

「アンモナイトコーナー」展示の展示制作（2012 年度）

「巨大ワニと恐竜の世界」展の展示解説（2013 年度）

「イザベラ・バードの旅の世界」写真展の展示解説（2013 年度）

水産科学館土曜サロンの運営（2012・2013 年度）

卒論ポスター発表会での発表（2012・2013 年度）

卒論ポスター発表会での運営（2012・2013 年度）

V. 展示活動

1. 常設展示

- 1 階：北大歴史展示、学術テーマ展示
- 2 階：学術テーマ展示「ユニバーシティ・ラボ」
- 3 階：学術資料展示（地球惑星科学分野、獣医学分野、生物分類学分野）

2. 企画展示（平成24(2012)年度～平成25(2013)年度）

平成24(2012)年度 （10回）

- 第77回 クラーク博士と札幌の植物
（平成24年3月3日～平成24年5月6日）
- 第78回 私たちの生活を支える金属鉱床―札幌周辺の鉱山を例に―
（平成24年4月24日～平成24年5月27日）
- 第79回 「都ぞ弥生」百年記念展 共催
（平成24年5月20日～平成24年6月20日）
- 第80回 中谷宇吉郎没後50年記念事業『人工雪誕生の地』の碑―北大常時低温研究室小史― 共催
（平成24年6月5日～平成24年7月29日）
- 第81回 藻類が人類の未来を救う
（平成24年7月10日～平成24年9月23日）
- 第82回 南極フロンティア展 剥き出しの地球南極大陸 共催
（平成24年8月7日～平成24年9月30日）
- 第83回 中谷宇吉郎没後50年記念事業「雪と氷の科学者・中谷宇吉郎展」 共催
（平成24年10月2日～平成24年12月2日）
- 第84回 日本におけるスキーと北大スキー部の100年 共催
（平成24年10月10日～平成24年12月16日）
- 第85回 エコで粋!? 自然に学ぶネイチャー・テクノロジーとライフスタイル展
（平成25年1月22日～平成25年3月17日）
- 第86回 中谷宇吉郎没後50年記念事業「雪のデザイン展」と「科学映画上映」 共催
（平成25年1月29日～平成25年2月17日）

平成25(2013)年度 （9回）

- 第87回 小企画「北のすみれ」
（平成25年4月16日～平成25年5月12日）
- 第88回 2013年地質の日記念企画展示「豊平川と共に ～その恵みと災い～」
（平成25年4月23日～平成25年6月2日）

- 第89回 企画展示 「フカシギの数え方」 The Art of 1064 - Understanding Vastness –
(平成25年7月9日～平成25年4月6日)
- 第90回 夏季企画展示「巨大ワニと恐竜の世界 -巨大爬虫類2億3千万年の攻防-」
(平成25年7月19日～平成25年10月27日)
- 第91回 巨大ワニと恐竜の世界 in 紀伊國屋 (紀伊國屋書店札幌本店2階ぎゃらりー)
(平成25年8月10日～平成25年8月22日)
- 第92回 サステナビリティ・ウィーク 2013 行事「白夜の北極・グリーンランド展」
(平成25年11月1日～平成11月24日)
- 第93回 GCOE 第10期成果展示「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界の歩み」
(平成25年11月10日～平成25年12月27日)
- 第94回 特別企画展示「タイからワニがやってきた！」
(平成25年11月26日～平成25年12月27日)
- 第95回 冬期企画展示「ツイン・タイム・トラベル イザベラ・バードの旅の世界 写真展」
(平成26年1月25日～平成26年5月11日)

3. 入館者数

年度	期間	開館日数	入館者数(年度)	入館者数累計	1日平均
10年度	11月24日～3月31日	77	3,043	3,043	40
11年度	4月1日～3月31日	243	9,733	12,776	40
12年度	4月1日～3月31日	241	8,789	21,565	36
13年度	4月1日～3月31日	242	15,866	37,431	66
14年度	4月1日～3月31日	251	28,952	66,383	115
15年度	4月1日～3月31日	289	42,431	108,814	147
16年度	4月1日～3月31日	302	43,889	152,703	145
17年度	4月1日～3月31日	303	75,685	228,388	250
18年度	4月1日～3月31日	303	73,993	302,381	244
19年度	4月1日～3月31日	302	89,086	391,467	295
20年度	4月1日～3月31日	300	62,701	454,168	209
21年度	4月1日～3月31日	303	69,646	523,814	230
22年度	4月1日～3月31日	302	104,661	628,475	347
23年度	4月1日～3月31日	304	105,583	734,058	347
24年度	4月1日～3月31日	303	97,899	831,957	323
25年度	4月1日～3月31日	301	123,979	955,936	412
計		4,366			

<休館日>

平成11年4月1日より

休館日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始、その他臨時休館日

平成14年4月1日より

休館日：土曜日(毎月第2土曜日は開館)、日曜日、祝日、年末年始、その他臨時休館日

平成15年4月1日より

休館日：日曜日、祝日、年末年始、その他臨時休館日

平成16年4月1日より

休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12/28～1/3、その他臨時休館日

月別入館者数

平成24年度

平成25年度

月	開館日数	入館者数	1日当り平均 入館者数	開館日数	入館者数	1日当り平均 入館者数
4	26	7,309	281	25	6,068	243
5	26	7,679	295	27	8,475	314
6	26	10,855	418	26	11,950	460
7	26	8,887	342	26	11,521	443
8	28	19,211	686	28	27,156	970
9	25	10,313	413	24	15,026	626
10	26	9,556	368	27	14,406	534
11	26	8,146	313	26	12,448	479
12	23	2,964	129	23	3,700	161
1	21	2,463	117	21	2,934	140
2	24	4,680	195	23	4,350	189
3	26	5,836	224	25	5,945	238
合計	303	97,899	323	301	123,979	412

＜展示解説・案内＞

展示解説依頼に対しては、館長・教授・准教授・研究支援推進員・資料部研究員・ボランティア等が適宜分担し対応している。

24 年度に博物館見学申込書が提出された来館団体は、192 件【小学校 30 件（971 名）、中学校 26 件（366 名）、高等学校 39 件（3,471 名）、その他 97 件（2,049 名）】、その内以下の 81 件に対して解説を行った。

25 年度は、196 件【小学校 28 件（402 名）、中学校 26 件（843 名）、高等学校 38 件（3,912 名）、その他 75 件（1,471 名）】、その内 29 件に対して解説を行った。（H26.3 月末迄）

平成24年度

見学団体名	年 月 日	人数	対応教員等
武漢大学(中国)副学長一行	4 月 20 日	10	津曲
北大留学生センター日本語日本文化研修コース	4 月 27 日	14	草嶋他
北海道特別支援学校教育職員	5 月 2 日	4	加藤
西北農林科技大学(中国)総長一行	5 月 10 日	8	大原
岩見沢市立光陵中学校	5 月 17 日	11	草嶋他
新十津川町立新十津川中学校	5 月 17 日	5	草嶋
南幌町立南幌中学校	5 月 23 日	22	草嶋他
文科省医学教育課大学病院支援室専門官一行	5 月 25 日	3	大原
文科省医学教育課大学病院支援室長一行	5 月 25 日	3	松枝
F M北海道	5 月 25 日	2	木山
留萌市立潮静小学校	5 月 25 日	6	湯浅他
札幌消費者協会 N e n ' s 倶楽部	6 月 2 日	15	湯浅他
札幌市立厚別北中学校	6 月 7 日	6	草嶋
札幌市立もみじ台南中学校	6 月 8 日	10	草嶋
札幌市立常磐中学校	6 月 8 日	7	草嶋
文科省高等教育局医学教育課大学病院支援室一行	6 月 12 日	4	松枝
道新ぶんぶんクラブ	6 月 23 日	60	津曲他
北海道新篠津高等養護学校	6 月 23 日	4	加藤
広東省人材育成訪問団	6 月 26 日	37	津曲
美唄市立中央小学校	6 月 27 日	14	草嶋
新十津川町立新十津川小学校	6 月 28 日	4	草嶋
文部科学省大臣官房会計課予算班	7 月 5 日	1	松枝
漢陽大学校(韓国)	7 月 11 日	3	津曲
江別市立江別第三中学校	7 月 12 日	12	草嶋

平取町立平取中学校	7月12日	7	草嶋
クラーク博士の曾孫夫婦	7月14日	2	松枝
日本ハム（株）中央研究所札幌サテライト	7月19日	5	高橋
北広島市立西部中学校	7月19日	6	草嶋
道新ぶんぶんクラブ	7月28日	60	湯浅
北海道特別支援学校教育職員	7月31日	20	加藤
高校YMC A東北北海道地区カンファレンス	7月31日	40	湯浅他
北海道特別支援学校教育職員	8月1日	25	加藤
浙江大学一行	8月2日	4	大原
文部科学省生涯学習政策局社会教育課	8月7日	1	津曲
北海道新篠津高等養護学校	8月7日	4	加藤
甲南女子中学校	8月11日	2	草嶋
北海道新篠津高等養護学校	8月12日	3	加藤
北海道白樺高等用語学校教職員	8月14日	3	加藤
高麗大学学長一行	8月22日	4	津曲
北見市立北中学校	8月23日	4	湯浅他
北広島市立大曲中学校	8月23日	18	草嶋他
酪農学園大学	8月24日	7	持田
北広島市立広葉中学校PTA	8月24日	30	湯浅他
道新ぶんぶんクラブ	8月25日	60	山本他
札幌市視覚障害者福祉協会協会職員	8月28日	2	加藤
清水町立清水小学校	8月29日	5	草嶋
藻岩高等学校	8月29日	4	大原他
東京学芸大学	8月30日	16	寺西他
東川町立東川小学校	8月30日	80	松枝他
札幌市北区市民部地域振興課地域活動担当係	9月7日	40	湯浅他
札幌市立北翔養護学校	9月7日	15	草嶋
札幌啓成高等学校	9月14日	10	松枝
北海道旭川工業高等学校	9月16日	4	加藤
札幌市立旭丘高等学校	9月19日	3	高橋他
清田高等学校	9月19日	3	湯浅他
とわの森三愛高等学校	9月28日	82	草嶋
道新ぶんぶんクラブ	9月29日	60	池上他
北区食生活改善推進員協議会	10月2日	48	湯浅他
札幌市南区交通安全母の会連絡協議会	10月5日	30	湯浅他
北海道特別支援学校教育職員	10月14日	3	加藤

岩見沢年金受給者協会	10 月 17 日	40	寺西他
札幌市立北辰中学校	10 月 18 日	4	草嶋
北海道札幌手稲高等学校	10 月 25 日	6	湯浅他
道新ぶんぶんクラブ	10 月 27 日	60	小林他
北大獣医学研究科	11 月 3 日	5	湯浅
文部科学省研修生	11 月 20 日	4	草嶋
文部科学省研究振興局基盤研究課長一行	11 月 20 日	2	大原
文部科学省科学技術・学術政策局産学連携・地域支援課地域支援企画官一行	11 月 22 日	3	高橋
札幌市立篠路中学校	11 月 22 日	3	河原他
文部科学省国立大学支援課専門職一行	11 月 29 日	3	阿部
札幌市視覚障害者福祉協会	12 月 8 日	32	加藤他
文部科学省大臣官房総務課広報室専門官一行	12 月 11 日	3	藤田
文部科学省科学技術・学術政策局産業技術・地域支援課大学技術移転推進室長補佐一行	12 月 13 日	2	高橋
北海道特別支援学校教育職員	1 月 8 日	10	加藤
北海道特別支援学校教育職員	1 月 9 日	15	加藤
韓日親善委員会会長一行	1 月 30 日	5	松枝
韓国海洋大学校長	2 月 5 日	1	津曲
韓国平生教育振興院一行	2 月 5 日	15	高橋
ジブラルタ生命保険株式会社	2 月 22 日	4	加藤
北海道特別支援学校卒業生	2 月 26 日	3	加藤
石狩縄文会「満月の会」	3 月 30 日	15	江田

平成25年度

見学団体名	年 月 日	人数	対応教員等
武漢大学(中国)副学長一行	4 月 20 日	10	津曲
湖南大学 校務委員会主席一行	5 月 21 日	6	大原
札幌市立常磐中学校	5 月 24 日	12	草嶋
国際本部全学教育授業「日本事情」	6 月 4 日	15	湯浅他
内藤春彦（医学部 OB）	6 月 5 日	8	草嶋
札幌視聴覚障がい者センター	6 月 12 日	6	加藤
法華寺	6 月 18 日	30	草嶋
恵庭市立恵み野中学校	6 月 26 日	49	草嶋
中国 大連 王 志強校務委员会主任 一行	6 月 27 日	3	高橋他
札幌日本大学高等学校	7 月 4 日	38	草嶋

山形市議会議員	7月9日	6	草嶋
成均館大学（韓国）学長一行	7月18日	5	高橋
大阪私立中学校高等学校連合会第二地域部会	7月30日	30	草嶋
ソウル大学	8月13日	5	大原
タマサート大学副学長一行	8月15日	4	高橋
酪農学園大学	8月18日	9	持田
タイ王国副首相一行	8月21日	14	津曲
国連大学学長	8月29日	1	大原
文部科学省高等教育局国立大学法人支援課	8月30日	2	阿部
北区高齢者教室「北親大学」	9月3日	40	草嶋
北海道札幌開成高等学校 PTA	9月4日	29	草嶋
北海道生産性本部	9月7日	12	草嶋
ザンビア大学副学長・獣医学部長	9月13日	2	大原
北大工学研究院工学系技術センター技術部	9月18日	21	草嶋
アラスカ大学	9月18日	2	大原
カセサート大学（タイ）	10月11日	4	高橋
プログラミングコンテスト2013	10月11日	16	西本他
七大学研究協力担当課長会議	10月25日	20	草嶋他
ウメオ大学	10月30日	2	大原
日本基督教団 札幌北光協会	11月4日	3	湯浅
国際本部国際連携課	12月10日	8	大原
北海道特別支援学校教育職員	1月8日	15	加藤典明
ハワイ州副知事一行	1月31日	11	大原
文科省予算班	3月4日	8	山本
北京科技大学長御一行	3月5日	17	大原
在日米国大使館公使	3月6日	4	大原
タイ チュラロンコン大学訪問団	3月19日	18	江田
（平成26年3月末迄）			

VI. 社会教育・普及活動

1. 博物館セミナー（平成24年度～平成25年度）

平成24(2012)年度（43回）

- 1 バイオミメティクス市民セミナー
「生物の表面に学ぶ：撥水、防汚、潤滑のための新しい材料」 4月7日
- 2 土曜市民セミナー
「火山噴火の中長期予測の手法と現状：次に北海道で噴火する火山はどこか？」 4月14日
- 3 GCOE土曜市民セミナー
「京劇のなかの女性像－悪女と聖女、イメージと役柄の変遷」 共催 4月21日
- 4 中谷宇吉郎没後50年記念講演会 共催 4月28日
- 5 バイオミメティクス市民セミナー
「博物館に学ぶ：博物館の自然史研究とバイオミメティクス」 5月5日
- 6 土曜市民セミナー
「私たちの生活を支える金属資源：マグマからの贈り物」 5月12日
- 7 「都ぞ弥生」百年記念展オープニングセミナー
「都ぞ弥生」とクラーク精神 共催 5月20日
- 8 GCOE土曜市民セミナー
「フィンランドにおけるサーミ文化の現状」 共催 5月26日
- 9 バイオミメティクス市民セミナー
「虫・ヤモリ・植物から学ぶ：接合技術」 6月2日
- 10 土曜市民セミナー
「都ぞ弥生－これまでの百年とこれからの百年」 6月9日
- 11 GCOE土曜市民セミナー
「サーミとアイヌの交流：1980's 幕開けとその意義」 共催 6月16日
- 12 「都ぞ弥生」百年記念展クロージングセミナー
「大学教育における学寮の歴史と意義」 6月17日
- 13 バイオミメティクス市民セミナー
「我に学ぶ：羽ばたき飛行ロボット」 7月7日
- 14 土曜市民セミナー
「空気と大気－環境問題に加担する地球内部－」 7月14日
- 15 バイオミメティクス市民セミナー
「カタツムリと住宅材料」 8月4日
- 16 南極フロンティア展関連企画
「南極で見つけた宇宙」 共催 8月10日
- 17 土曜市民セミナー

- 「マリモはなぜ阿寒湖で丸くなるのかー偶然の重なりがもたらす生物の球化現象」 8月11日
- 18 南極フロンティア展関連講演会
「探検の系譜」 共催 8月12日
- 19 GCOE土曜市民セミナー
「映像を通じてみるサーミの文化（１）」 共催 8月18日
- 20 南極フロンティア展関連講演会
「地球環境の窓からー南極の最新・最先端研究」 共催 8月25日
- 21 南極フロンティア展関連講演会
「最新ペンギン研究&南極から宇宙へ」 共催 9月1日
- 22 バイオミメティクス市民セミナー
「北海道の昆虫多様性とバイオミメティクス」 9月1日
- 23 土曜市民セミナー
「私の藻食論ー海藻を食べて健康になりましょう」 9月8日
- 24 南極フロンティア展関連企画
「南極で見つけた宇宙」 共催 9月15日
- 25 GCOE土曜市民セミナー
「スコルトサーミが抱える誠二・教育の課題と挑戦」 共催 9月15日
- 26 バイオミメティクス市民セミナー
「繊維とバイオミメティクス」 10月6日
- 27 土曜市民セミナー
「天然の原子炉から次世代安全炉・原子力推進宇宙船まで」 10月13日
- 28 GCOE土曜市民セミナー
「サーミの人々との交流を通じて」 共催 10月20日
- 29 中谷宇吉郎没後50年記念事業「雪と氷の科学者・中谷宇吉郎展」 関連講演会
「中谷宇吉郎と戦時研究」 共催 10月27日
- 30 企画展示「日本におけるスキーと北大スキー部の100年」 関連セミナー
「札幌周辺の山小屋の成り立ち」 共催 10月28日
- 31 バイオミメティクス市民セミナー
「農業とエントモミメティクス・バイオミメティクス」 11月3日
- 32 土曜市民セミナー
「原子力発電所のリスクと日常生活のリスク」 11月10日
- 33 GCOE土曜市民セミナー
「映像を通じてみるサーミの文化（２）」 共催 11月17日
- 34 バイオミメティクス市民セミナー
「生物画像から工学的「きづき」を生み出す新しいデータベース」 12月1日
- 35 土曜市民セミナー

- 「T P P と北海道農業」 12月8日
- 36 G C O E 土曜市民セミナー
「サーミ展示ー境界を越える学術・文化交流の創出」 共催 12月15日
- 37 土曜市民セミナー
「食料問題から見る昭和史」 1月12日
- 38 バイオミメティクス市民セミナー
「ゲルとバイオミメティクス」 1月13日
- 39 G C O E 土曜市民セミナー
「旅する画家たちーロシアと日本の境界の風景」 共催 1月25日
- 40 バイオミメティクス市民セミナー
「ネイチャーテクノロジーと持続可能性社会」 2月2日
- 41 土曜市民セミナー
「考古動物学から考えるアホウドリの歴史」 2月9日
- 42 G C O E 土曜市民セミナー
「カムチャツカ・北千島の自然と人々」 共催 2月16日
- 43 土曜市民セミナー
「原子力発電所の廃炉と放射性廃棄物の処分」 3月9日
- 44 環境月間関連行事
「北大エコキャンパス・ツアー」 6月16日

平成25(2013)年度（41回）

- 1 土曜市民セミナー
「Serbia -a crossroad／セルビア」 4月13日
- 2 GCOE セミナー
「境界のイメージー シコタン・グループの活動について」 4月20日
- 3 バイオミメティクスセミナー
「ナノテクノロジーが拓くバイオミメティクス」 5月4日
- 4 土曜市民セミナー
「豊平川がつくりだした自然景観」 5月11日
- 5 GCOE セミナー
「近くて遠いクリル・カムチャツカー地質と鉱物・エネルギー資源の現在と未来」 5月18日
- 6 地質の日記念展示関連セミナー
「開拓使が造ったサッポロビール」 5月26日
- 7 バイオミメティクスセミナー
「ナノインプリント技術による表面構造の模倣とバイオミメティクス」 6月1日

- 8 土曜市民セミナー
「破綻国家の教訓から考える持続的国家：アフリカの社会に適した民主主義とは」 6月8日
- 9 GCOE セミナー
「鯛の島よー「樺太」を問うてー」 6月15日
- 10 バイオミメティクスセミナー
「バイオテンプレートと構造機能材料」 7月6日
- 11 土曜市民セミナー
「地域の課題解決と大学研究活動」 7月13日
- 12 GCOE 市民セミナー
「香月泰男—あたたかなまなざし」 7月20日
- 13 企画展示「巨大ワニと恐竜の世界」関連セミナー
「日本にいたワニたち」 7月28日
- 14 企画展示「巨大ワニと恐竜の世界」関連セミナー
「白亜紀の北米の竜脚類」 8月4日
- 15 土曜市民セミナー
「再生可能エネルギーと地域経済の活性化」 8月10日
- 16 企画展示「巨大ワニと恐竜の世界」関連セミナー
『うんち』からみる古生物」 8月11日
- 17 企画展示「巨大ワニと恐竜の世界」関連セミナー
「トリと恐竜の世界」 8月18日
- 18 企画展示「巨大ワニと恐竜の世界」関連セミナー
「サハリン島南部上部白亜系から産出したニッポノサウルスの系統位置の再検討」 8月25日
- 19 バイオミメティクス市民セミナー
「魚類学者から見たバイオミメティクス」 9月7日
- 20 土曜市民セミナー
「サステナブルな企業報告を考えるー環境報告から統合報告へー」 9月14日
- 21 企画展示「巨大ワニと恐竜の世界」関連セミナー
「恐竜の最新研究」 9月15日
- 22 GCOE セミナー
「宮本常一と歩く国境の島じま」 9月21日
- 23 バイオミメティクスセミナー
「昆虫のSEM写真から読み取るバイオミメティクス」 10月5日
- 24 土曜市民セミナー
「木質バイオマスの総合利用とその今日的意義」 10月12日
- 25 GCOE セミナー
「秋野豊が残したもの：ユーラシアを駆けぬけた政治学者のメッセージ」 10月19日

- 26 バイオミメティクスセミナー
「リンクル（しわ）とバイオミメティクス」 11月2日
- 27 「白夜の北極・グリーンランド展」関連セミナー
「氷の大地グリーンランドー北極最大の氷のかたまりに何が起きているのかー」 11月3日
- 28 土曜市民セミナー
「男らしさの神話と実話」 11月9日
- 29 「白夜の北極・グリーンランド展」関連セミナー
「テレビ記者が見た”グリーンランドの今”」 11月10日
- 30 GCOE セミナー 「北緯50度線と3人の旅人：明治大正期の樺太日露国境点描」／
「冷戦の深化と「国境の顕現」：与那国・東アジア・東南アジア」 11月16日
- 31 「白夜の北極・グリーンランド展」関連セミナー
「楽園！ 大地が果てる島グリーンランドー南極と北極、テントで暮らした二つの極地ー」 11月24日
- 32 バイオミメティクスセミナー
「バイオミメティクスの産業応用ー世界動向と国際標準化ー」 12月7日
- 33 土曜市民セミナー
「食快感の解剖学ーどのようにして食べ物を認識しているのか-」 12月14日
- 34 GCOEセミナー
「契丹の北西辺防管見：鎮州城址の調査」
「境界と利益：旧ソ連諸国における天然ガス貿易の裏側」 12月21日
- 35 バイオミメティクスセミナー
「バイオミメティクスだけじゃない!!
博物館の活用法ー開かれた博物館をめざしてー」 1月5日
- 36 土曜市民セミナー
「フカシギの数え方ー身近な問題に現れる組合せ爆発と超巨大数の世界-」 1月11日
- 37 企画展示「ツイン・タイム・トラベル」関連セミナー
「イザベラ・バードの旅と写真ー史上屈指の女性旅行家とその旅を科学する愉しみー」 1月25日
- 38 バイオミメティクスセミナー
「生物の不思議を工学に生かすーバイオT R I Zという考え方ー」 2月1日
- 39 土曜市民セミナー
「有珠火山の植生と土壌の回復」 2月8日
- 40 土曜市民セミナー
「海の巨大な渦が生態系を変えるーおしよる丸観測で分かったこと-」 3月8日
- 41 バイオミメティクスセミナー
「シジミチョウ その騙しのテクニック」 3月9日
- 42 北大総合博物館セミナー
「極東のコケ植物ー研究紹介ー」 3月29日

43 環境月間関連行事

「北大エコキャンパス・ツアー」 6月15日

2. 公開シンポジウム (平成24年度～平成25年度)

平成24(2012)年度 (4回)

- 国際シンポジウム

「環オホーツク海地域における前近代交易網の発達と諸民族形成史の研究」6月2日～3日

- 「スキー術北海道伝来100年にあたってスキー文化を考える

ー山スキー・山小屋を楽しむー 10月14日

- 国際シンポジウム

「海浜性甲虫の進化と多様性」 12月24日

- 「バイオミメティクスの社会受容とサイエンス・コミュニケーション」 3月2日

平成25(2013)年度 (5回)

- 日本動物学会北海道支部シンポジウム

「最新技術による動物の進化と歴史の探究」 5月25日

- 日本理科教育学会第63回全国大会特別シンポジウム 8月11日

- 特別企画展示「タイからワニがやってきた！」

オープニング公開シンポジウム 11月26日

- 公開シンポジウム「絶滅動物化石の最新研究 in 2014 Part 1」 1月12日

- 公開シンポジウム「絶滅動物化石の最新研究 in 2014 Part 2」 2月16日

3. パラタクソノミスト養成講座 (平成24年度～平成25年度)

平成24(2012)年度 (35回)

- 1 パラタクソノミスト養成講座「昆虫マルハナバチ属(中級)」 6月9～10日
- 2 パラタクソノミスト養成講座「岩石(初級)」 6月16～17日
- 3 パラタクソノミスト養成講座「昆虫(初級)」 6月30～7月1日
- 4 パラタクソノミスト養成講座「石器(初級)」 7月8日
- 5 パラタクソノミスト養成講座「魚類(初級)」 8月9～10日
- 6 パラタクソノミスト養成講座「きのこ(初級)」 9月16日
- 7 パラタクソノミスト養成講座「岩石(中級)」 9月29～30日
- 8 パラタクソノミスト養成講座 岩石鉱物野外採集会 10月6～7日
- 9 パラタクソノミスト養成講座「鉱床(初級)」 10月13～14日
- 10 パラタクソノミスト養成講座「鉱物(初級)」 10月21日
- 11 パラタクソノミスト養成講座「木製品(初級)」 10月27日

- 12 パラタクソノミスト養成講座「鉱物（中級）」 10月28日
- 13 パラタクソノミスト養成講座「鉱物（上級）」 11月4日
- 14 パラタクソノミスト養成講座「石器（中級）」 11月11日
- 15 パラタクソノミスト養成講座「木製品（中級）」 11月17～18日
- 16 パラタクソノミスト養成講座「昆虫 セミとカメムシ（中級・初級）」共催 11月24日
- 17 パラタクソノミスト養成講座 岩石野外採集会 11月24日
- 18 パラタクソノミスト養成講座「鉱床（中級）」 12月1～2日
- 19 パラタクソノミスト養成講座「岩石（上級）」 12月8～9日
- 20 パラタクソノミスト養成講座「鉱床（上級）」 12月15日～16日
- 21 パラタクソノミスト養成講座「昆虫（初級）」共催 12月22～23日
- 22 パラタクソノミスト養成講座「植物用語（初級）」共催 1月5日
- 23 パラタクソノミスト養成講座「化石（初級）」 1月12日
- 24 パラタクソノミスト養成講座「化石（初級）」共催 2月2日
- 25 パラタクソノミスト養成講座「化石（初級）」共催 2月3日
- 26 パラタクソノミスト養成講座「岩石（初級）」共催 2月9日
- 27 パラタクソノミスト養成講座「鉱物（初級）」共催 2月9日
- 28 パラタクソノミスト養成講座「木製品（上級）」 2月9～10日
- 29 パラタクソノミスト養成講座「昆虫・甲虫（中級）」 2月16～17日
- 30 パラタクソノミスト養成講座「海藻（初級）」 2月23日
- 31 パラタクソノミスト養成講座「昆虫（初級）」共催 3月9～10日
- 32 パラタクソノミスト養成講座「鉱物（初級）」共催 3月16日
- 33 パラタクソノミスト養成講座「恐竜（初級）」共催 3月23日
- 34 パラタクソノミスト養成講座「恐竜（初級）」共催 3月23～24日
- 35 パラタクソノミスト養成講座「魚類（初級）」 3月24日

平成25(2013)年度 （28回）

- 1 パラタクソノミスト養成講座「土器（初級）」 5月26日
- 2 パラタクソノミスト養成講座「昆虫マルハナバチ属（中級）」 6月1～2日
- 3 パラタクソノミスト養成講座「昆虫（初級）」 6月29日
- 4 パラタクソノミスト養成講座「昆虫（初級）」 7月7日
- 5 パラタクソノミスト養成講座「化石（初級）」 7月13日
- 6 パラタクソノミスト養成講座「化石（初級）」 7月20日
- 7 パラタクソノミスト養成講座「岩石（初級）」 7月20～21日
- 8 パラタクソノミスト養成講座「木製品（初級）」 7月27日
- 9 パラタクソノミスト養成講座「化石（初級）」 8月3日
- 10 パラタクソノミスト養成講座 野外地質見学・採集会 8月24日

- | | | |
|----|--------------------------|---------------|
| 11 | パラタクソノミスト養成講座「海鳥（中級）」 | 8月24～25日 |
| 12 | パラタクソノミスト養成講座「岩石（初級）」 | 8月31日 |
| 13 | パラタクソノミスト養成講座「木製品（中級）」 | 8月31～9月7日 |
| 14 | パラタクソノミスト養成講座「鉱床（初級）」 | 9月14～15日 |
| 15 | パラタクソノミスト養成講座「岩石（中級）」 | 9月28～29日 |
| 16 | パラタクソノミスト養成講座 野外採集・地質見学会 | 10月12～13日 |
| 17 | パラタクソノミスト養成講座「鉱物（初級）」 | 10月19日 |
| 18 | パラタクソノミスト養成講座「木製品（上級）」 | 10月19日・10月26日 |
| 19 | パラタクソノミスト養成講座「鉱物（初級）」 | 10月20日 |
| 20 | パラタクソノミスト養成講座「海藻（初級）」 | 11月2日 |
| 21 | パラタクソノミスト養成講座「鉱床（中級）」 | 11月9～10日 |
| 22 | パラタクソノミスト養成講座「鉱石・隕石（初級）」 | 11月16日 |
| 23 | パラタクソノミスト養成講座「鉱床（上級）」 | 12月7～8日 |
| 24 | パラタクソノミスト養成講座「昆虫（初級）」 | 12月14～15日 |
| 25 | パラタクソノミスト養成講座「化石（初級）」 | 1月11日 |
| 26 | パラタクソノミスト養成講座「岩石（上級）」 | 1月25～26日 |
| 27 | パラタクソノミスト養成講座「植物用語（初級）」 | 2月8日 |
| 28 | パラタクソノミスト養成講座「魚類（初級）」 | 3月19～20日 |

4. カルチャーナイト

2004年度から、総合博物館はカルチャーナイト、札幌の夏の一夜に文化施設などを夜間開放して市民の方々に地域の文化を楽しんでいただくイベントに参加している。

2012年 7月13日 チェンバロと星空の夕べ

常設展・企画展の時間延長公開、チェンバロ演奏会、
宇宙の4Dシアター、夏の星座の観望会
主催：北大総合博物館
協力：札幌星仲間

2013年 7月19日 チェンバロと星空の夕べ

常設展・企画展の時間延長公開、チェンバロ演奏会、
宇宙の4Dシアター、夏の星座の観望会
主催：北大総合博物館
協力：札幌星仲間

5. ボランティア活動

1999 年度から、総合博物館では標本整理や展示解説などの分野でボランティア活動を推進している。分野の幅も広がり、登録者数も増えている。2013 年度には、IT グループがメディアグループと名称を変えて、映像制作や博物館のブログを分担することになった。また、札幌農学校第 2 農場の展示解説を担うグループが新たに発足した。

各グループでの研修に加え、博物館の研究と教育に幅広く関心を持っていただき、ボランティアの交流を促進するため、博物館が主催してボランティア講座・交流会を開催している。

- ・ 2013 年度のグループ：14 分野

- 植物・菌類資料に関する収蔵管理と標本作製

- 昆虫標本作製と整理

- 考古学資料の整理と動物骨格標本の作成

- 地学標本（岩石／鉱物／鉱石）の分類整理とデータベース作成

- 総合博物館メディアボランティア

- 化石標本の整理・クリーニング作業・レプリカ作り

- 北大の歴史展示に関する作業

- 展示解説

- リーフレット翻訳

- 平成遠友夜学校

- 4D シアター運営

- チェンバロ展示の充実

- 博物館図書室の整備

- 重要文化財 札幌農学校第 2 農場の展示支援

- ・ 登録者数：158 名登録（2014 年 3 月 31 日現在）

- ・ ボランティア講座&交流会

- 2012 年度：

- 「動物考古学 研究紹介」（講師：江田真毅）、2012 年 6 月 17 日

- 「地球科学 研究紹介」（講師：山本順司）、2013 年 2 月 2 日

- 2013 年度：

- 「博物館学講座シリーズ 1 博物館学入門、自然史系博物館」（講師：湯浅万紀子）、2013 年 9 月 22 日

「博物館学講座シリーズ 2 理工系博物館」(講師：湯浅万紀子)、2013 年 10 月 14 日

「博物館学講座シリーズ 3 企業博物館、エコミュージアム」(講師：湯浅万紀子)、2013 年 11 月 17 日

「博物館学講座シリーズ 4 大学博物館」(講師：湯浅万紀子)、2013 年 12 月 8 日

「博物館学講座シリーズ 5 コミュニケーションの場としてのミュージアム、講座総括」(講師：湯浅万紀子)、2014 年 3 月 8 日

・三岸好太郎美術館見学会 (講師：苫名直子 (三岸好太郎美術館学芸員、担当：湯浅万紀子)、2012 年 8 月 25 日

6. 博物館まつり

(2012年度)

2013 年 3 月 16 日・17 日に開催。

16 日：

年次報告会

研究報告会 (一般報告、北方領土と北方圏研究の最前線)

17 日：

展示解説ツアー

バックヤード (植物、考古、海藻、化石)

黒曜石をみて、さわって、まなぼう

宇宙の 4D シアター

チェンバロコンサート

岩石鑑定・同定会

打と磨

両日：

企画小展示「博物館まつりだけのお宝公開！」

写真展「北方四島の自然－2009－2012 年北方四島生物調査報告」

CISE ネット展～札幌圏の実物教育ネットワーク～]

お宝カフェ

(2013年度)

2014年3月17日に研究報告会を開催。

7. サイエンスパーク in 北大総合博物館

2011 年度から、北海道と北大総合博物館が主催して実施している鈴木章名誉教授と道内の小学生親子との実験交流イベントを実施し、子ども達に科学への関心・理解を深めてもらうことを目指している。

2012 年度「サイエンスパーク in 北大総合博物館

ノーベル化学賞鈴木章先生と見て、触れて、楽しみ、学ぼう！」

日時：2012 年 12 月 8 日

主催：北海道、北大総合博物館

対象：札幌市内の小学 5、6 年生の親子 30 組

司会進行：三嶋渉・山本大貴（ミュージアムマイスター）

内容：ノーベル化学賞受賞者・鈴木章名誉教授と、高橋はるみ道知事と共に学べる科学実験イベント。鈴木名誉教授による講演、参加者との質疑応答、クロスカップリングの実験（指導：山本靖典（北大大学院工学研究院））。終了後に司会進行役のミュージアムマイスター2 名による館内展示解説。
後日 OCW で公開。

2013 年度「サイエンスパーク in 北大総合博物館

ノーベル化学賞鈴木章先生と見て、触れて、楽しみ、学ぼう！」

日時：2013 年 12 月 7 日

主催：北海道、北大総合博物館

対象：札幌市と旭川市の小学 5、6 年生の親子 30 組

司会進行：太田菜央・長田詩織（ミュージアムマイスター）

内容：ノーベル化学賞受賞者・鈴木章名誉教授と、高橋はるみ道知事と共に学べる科学実験イベント。鈴木名誉教授による講演、参加者との質疑応答、クロスカップリングの実験（指導：山本靖典（北大大学院工学研究院）。終了後に司会進行役のミュージアムマイスター2 名による館内展示解説。
後日 OCW で公開。

8. 道新ぶんぶんクラブとの共催講座「エルムの杜の宝もの」

2009年度から、道新ぶんぶんクラブと総合博物館が共催し、市民向けの講座「エルムの杜の宝もの」を実施している。博物館展示と関連付けた講演、構内外の見学など多彩な内容であり、毎回多くの聴講希望者のなかから抽選で聴講者を決定している。初めて来館する方も多く、新規来館者の開拓に寄与してい

る。

2012 年度

6 月 23 日「館長の博言学講座・コトバがわかるために」

講師：津曲敏郎（総合博物館）

7 月 28 日「大学博物館学講座・博物館の内と外」

講師：湯浅万紀子（総合博物館）

8 月 25 日「地球を科学する」

講師：山本順司（総合博物館）

9 月 29 日「市内中心部の歴史的建築物を巡る」

講師：池上重康（工学部、総合博物館資料部）

10 月 27 日「ティラノサウルスを巨大ワニの争い」

講師：小林快次（総合博物館）

2013 年度

4 月 27 日「キャンパスの遺跡散策」

講師：江田真毅（総合博物館）

5 月 25 日「北海道酪農の源流を学ぶ・札幌農学校第 2 農場見学会」

講師：近藤誠司（北方生物圏フィールド科学センター）

6 月 22 日「花と昆虫をめぐる身近な冒険」

講師：稲荷尚記（総合博物館資料部）

7 月 13 日「ワニと恐竜の共進化・2 億 3 千万年間を共にした動物たち」

講師：小林快次（総合博物館）

10 月 26 日「北大総合博物館探訪・学生による展示解説ツアー」

講師：湯浅万紀子（総合博物館）

9. 日本理科教育学会全国大会 実行員会企画特別シンポジウム

北海道大学で開催された日本理科教育学会第 63 回全国大会では、実行委員会企画特別シンポジウム「理科教育からみた博物館利用の問題点を考える」が当館で開催された。総合博物館教員が運営に協力し、パネリストを務めて、「大学博物館と学校との連携—北海道大学総合博物館の現状と課題、そして可能性」について講演し、全体討論に参加した。その後、博物館見学をコーディネートし、博物館教員と資料部研究員、学生が解説対応し、参加者との議論を深めた。

2013 年 8 月 10 日 日本理科教育学会 第 63 回全国大会

実行委員会企画特別シンポジウム「理科教育からみた博物館利用の問題点を考える」

会場：総合博物館

企画：鈴木誠大会実行委員会委員長（本学高等教育推進機構）

オーガナイザ：小川義和（国立科学博物館）

講演パネリスト：柄内新（本学）、中山迅（宮崎大学）、
森山正樹（札幌市立白石中学校）、
山本順司・湯浅万紀子（総合博物館）

総合博物館見学・解説：

岩石・鉱物（山本順司）、古生物（越前谷宏紀資料部研究員）、
植物（高橋英樹）、昆虫（大原昌宏）、ノーベル賞記念展示（阿部剛史）、
企画展連動講座 恐竜と宇宙の4Dシアター（田中公教・三嶋渉・山本大貴 本学学生・ボランティア）

10. 北海道大学ホームカミングデー2012、2013

北海道大学では、2012年度から、同窓生などをキャンパスに招いて交流を深め、本学の今を知っていただく「北海道大学ホームカミングデー」を開催している。総合博物館では初年度より次の協力を行い、同窓生や関係者、来館者から好評をいただいた。

2012年度

- ・北大紹介映像制作（広報課より依頼） 藤田良治
- ・北大ミュージアムクラブ Mouseion 学生による展示解説
 - 「総合博物館の古生物」（理学部2年・太田晶）
 - 「札幌農学校の外国人教師たち」（薬学部2年・川原聡史）
 - 「植物の誕生と渦鞭毛藻の魅力」（農学部2年・小向愛）
 - 「魚類の進化と不思議な形態」（水産学部2年・中原隆史）
 - 「鈴木・宮浦クロスカップリング」（理学部2年・若狭玲那）
- ・理学部生による展示解説（理学部企画）
 - 岩石分野（理学部3年・ミュージアムマイスター 三嶋渉）
 - 昆虫分野（理学部3年・村野宏樹）
 - 岩石分野（理学部3年・ミュージアムマイスター 山本大貴）

2013年度

- ・北大紹介映像制作（広報課より依頼） 藤田良治

- ・植物標本庫バックヤードツアー 高橋英樹
- ・北大ミュージアムクラブ Mouseion による展示解説
 - 「総合博物館の古生物」(理学部 3 年・太田晶)
 - 「氷の海の民のお話」(文学部 2 年・岸百合子)
 - 「原子から身近な物質へ」(理学部 2 年・芝池和孝)
 - 「魚類の進化と不思議な形態」(水産学部 3 年・中原隆史)

1 1. CISE ネットワーク (2012、2013)

「CISE (Community for Intermediation of Science Education) ネット」は、JST (独立行政法人 科学技術振興機構) の科学技術コミュニケーション推進地域・ネットワーク形成地域型の助成に、平成24年度から26年度まで採択された。提案企画名は「科学系博物館・図書館の連携による実物科学教育の推進 ～CISE ネットの構築～」。

北海道大学の資源をもとに、札幌周辺地域の科学館や、科学系博物館、図書館などの教育施設が連携し、地域住民への実物科学教育を進めるネットワーク。連携する教育施設の特性に応じた実物教育を行い、その成果をまとめ地域の知財として発信している。連携施設が協同して効果的な教育を行うため、教材プログラムの開発を進めている。

詳細は、以下のホームページから参照できる。

<http://www.museum.hokudai.ac.jp/cise/>

1 2. 高校教育との連携

- ・藻岩高校生 高大連携受け入れ (昆虫、植物、化石分野) (2012 年 5 月 30 日、2013 年 9 月 13 日)
- ・手稲高校生 インターン受け入れ (2013 年 10 月 24 日)

VII. 各種協定締結状況(2013年度まで)

1. ロシア・サハリン州立郷土博物館 (2000 年 8 月 1 日より)
2. アメリカ・アラスカ大学博物館 (2005 年 11 月 1 日より)
3. ドイツ・ゼンケンベルグ自然史博物館 (2009 年 11 月 18 日より)
4. フランス・ストラスブール動物学博物館 (2009 年 11 月 20 日より)
5. ロシア・ハバロフスク州立グロデコフ博物館 (2010 年 4 月 1 日より)
6. ロシア・ハバロフスク州ニコラエフスク・ナ・アムール市立博物館 (2010 年 4 月 1 日より)
7. ロシア・アルセニエフ総合博物館 (2010 年 4 月 1 日より)
8. ロシア・北東総合科学研究所 (マガダン) (2010 年 8 月 1 日より)
9. ロシア・カムチャッカ国立工科大学 (2010 年 8 月 20 日より)
10. インドネシア・Padjadjaran 大学地質学部 (2011 年 2 月 24 日より)
11. インドネシア・科学省生物研究センター (2011 年 2 月 25 日より)
12. ロシア・イルクーツク工科大学 (2011 年 6 月 1 日より)
13. 韓国・国立生物資源研究所 (NIBR) (2012 年 2 月 9 日より)
14. モンゴル科学アカデミー古生物学研究所 (2011 年 8 月 15 日より)
15. アメリカ合衆国テキサス州ダラス自然史博物館 (2011 年 8 月 23 日より)
16. タイ王国国立科学博物館 (タイ) (2012 年 9 月 19 日より)
17. 韓国地質資源研究院地質博物館 (2013 年 3 月 20 日より)

VIII. 刊行物等(2012～2013 年度)

- ・ Bulletin of the Hokkaido University Museum (北大総合博物館研究報告)
『Biodiversity and Biogeography of the Kuril Islands and Sakhalin, vol. 4』(2014 年 3 月)
- ・ 調査報告
『北方四島調査報告』(2013 年 3 月)

第 2 部 博物館教員の活動記録

高橋英樹

TAKAHASHI Hideki

資料基礎研究系 教授

○研究内容の概要

1. 樺太・千島産維管束植物の分類地理学的研究

植物種の「学名」は世界共通語と思われているが、現実には国の違いにより異なる学名が使われることも多い。このような混乱を収めるため北東ユーラシア、特に樺太・千島地域から収集された植物標本を精査し、植物フロラの作成や学名の整理を行っている。

2. 北海道産希少植物の分類学・保全生物学的研究

北海道の希少植物や絶滅危惧植物のリストは整理されつつあるが、分類学的な問題が解決されていないものや保全生物学的な情報が不足している種類も多い。北海道において保全上重要な希少植物（レブンアツモリソウなど）についての野外調査を行い、分類学的・生態学的研究を行っている。

3. 北方四島、サハリン地域における外来植物の現状調査

稀少植物の保全とともに、自然生態系への外来植物の侵入が保全生物学における大きな課題となっている。特に北海道に隣接する、北方四島・サハリンで現地調査を行い、生態系に与える影響評価を行っている。

4. 植物標本の整理・分類学研究・分類学史への貢献

北大総合博物館陸上植物標本庫（SAPS）の整理・データベース化を進め、北方地域における植物分類学研究の基礎作りに貢献している。またタイプステータスの確定や植物調査研究史の解明を行うことで、植物標本の学術価値・文化価値の再評価を進めている。

5. 花粉形態の体系学的・進化的意義

ツツジ科における花粉形態や形態形成過程を電子顕微鏡レベルで解明し、分類体系との整合性を検討し、形態形質の進化的意義を解明する。バングラデシュ農科大学の Sarwar 教授との共同研究。

○2012 年・2013 年の研究・活動業績

< 原著論文 > (3 件)

- Golam Sarwar, A.K.M. and Takahashi, H., 2012. Pollen morphology of *Kalmia* L. (Phyllodoceae, Ericaceae) and its taxonomic significance. Bangladesh J. Plant Taxon, **19**(2): 123-133.
- Golam Sarwar, A. K. M., Ito, T. and Takahashi, H., 2012. Ontogenetic development of pollen tetrads in *Vaccinium smallii* A.Gray (Ericaceae). Jpn. J. Palynol., **58**: 61-71.
- Fukuda, T., Kato, Y., Sato, H., Taran, A., Barkalov, V.Y. and Takahashi, H., 2013. Naturalization of *Cakile edentula* (Bigelow) Hook. (Brassicaceae) on the beaches of Kunashiri and Etorofu- a first report from the Kuril Islands. J. Jpn. Bot., **88**: 124-128.

< 著書・図録・目録等 > (6 件)

- Pietsch, T.W., Bogatov, V.V., Storozhenko, S.Yu, Lelej, A.S., Barkalov, V.Yu., Takahashi, H., Joneson, S.I., Kholin, S.K., Glew, K.A., Harpel, J.A., Krestov, P.V., Makarchenko, E.A., Minakawa, N., Ohara, M., Bennett, D.J., Anderson, T.R., Crawford, R.I., Prozorova, L.A., Kuwahara, Y., Shedko, S.V., Yabe, M., Woods, P.J. and Stevenson, D.E., 2012. Biodiversity and biogeography of Sakhalin island. In Bogatov, V.V., Barkalov, V.Yu., Lelej, A.S., Makarchenko, E.A., Storozhenko, S.Yu. (eds.): Flora and Fauna of North-West Pacific Islands (Materials of International Kuril Islands and International Sakhalin Island Projects). pp. 11-78. Dalnauka, Vladivostok.
- 高橋英樹 (分担執筆), 2012. コラム千島列島のフロラ研究と植物標本. 『新しい植物分類学 I』(戸部博・田村実編), pp. 184-188. 講談社サイエンティフィク, 東京.
- 高橋英樹 (分担執筆), 2012. ウィリアム・S・クラークと宮部金吾. 『クラーク博士と札幌の植物』(高橋英樹・河原法子編), pp. 43-47. 北海道大学総合博物館, 札幌.
- 高橋英樹 (分担執筆), 2012. クラーク博士と札幌の植物. 『クラーク博士と札幌の植物』(高橋英樹・河原法子編), pp. 48-52. 北海道大学総合博物館, 札幌.
- 高橋英樹 (分担執筆), 2012. コラム ニューイングランドの香りベイベリー. 『クラーク博士と札幌の植物』(高橋英樹・河原法子編), pp. 19. 北海道大学総合博物館, 札幌.
- 高橋英樹・河原法子 (編), 2012. 『クラーク博士と札幌の植物』, 100pp. 北海道大学総合博物館, 札幌.

<総説・解説・報告等> (8 件)

- 高橋英樹, 2012. クラーク博士の植物標本. 朝日新聞北海道版「北の文化」, 2012 年 3 月 15 日朝刊: 28.
- 高橋英樹, 2012. 北大総合博物館陸上植物標本庫 (SAPS) からみた利尻島・礼文島の植物標本史. 北方山草 **29**: 5-17.
- 高橋英樹, 2012. 北から来た植物. モーリー **26**: 22-25.
- 高橋英樹, 2012. クラーク博士の植物標本. ミルシル **5**(5): 24-25.
- 高橋英樹・向井宏, 2012. 第 2 章四 大黒島. 新厚岸町史通史編第 1 巻: 76-80.
- 高橋英樹・阿部剛史・加藤ゆき恵・小林孝人・佐藤広行・野別貴博・福田知子, 2013. 北方四島調査報告. 31pp. 北海道大学総合博物館.
- 高橋英樹, 2013. 宮部金吾博士によって「斜里山道」で採集された植物標本の産地. 知床博物館研究報告 (35): 1-4.
- 高橋英樹, 2013. 植物自然史標本の現状. 1. 北海道追補. 植物地理分類研究 **60**(2): 1.

<学会活動> (6 件)

- 日本植物分類学会: 絶滅危惧植物移入植物専門第一委員会委員 (平成 24~25 年度)・学会誌 (英文「Acta Phytotax. Geobot.」・和文「分類」) 編集委員 (平成 24~25 年度)
- 日本花粉学会評議員 (平成 24~26 年度)
- 日本科学者会議北海道支部常任幹事 (平成 24~25 年度)
- 「すげの会」評議委員
- Botanica Pacifica, Journal of Plant Science and Conservation (Editorial Council Member)
- Thaiszia, Journal of Botany (Advisory Editorial Board).

<学会発表等> (3 件)

- Takahashi, H., Barkalov, V.Y. and Taran, A.A., 2012. 「Naturalized plants in Hokkaido and the Kurils」. Symposium “The East Asian Flora and its role in the formation of the world’s vegetation”. (Far Eastern Federal University, Vladivostok, Russia) Sept. 26, 2012.
- 高橋英樹・サルワル A. K. M. ゴラム, 2013. 「花粉形態と植物分類—ツツジ科コヨウラクツツジ属の例」. 日本花粉学会第54回大会. (松山大学, 松山) 2013年9月1日.
- 高橋英樹・福田知子, 2013. 「千島列島の外来植物」. 日本植物学会第77回大会.

(北海道大学, 札幌) 2013年9月13日.

<一般講演・セミナー発表> (6件)

高橋英樹, 2012. 「「分ける」で「分かる」植物の世界—北の植物のルーツをたどれ」. 第62回サイエンス・カフェ札幌. 紀伊国屋書店, 札幌. 2012年2月18日

高橋英樹, 2012. 「陸前高田市立博物館の植物標本レスキュー」. 北大総合博物館まつりシンポジウム「博物館資料の重要性」. 北海道大学総合博物館, 札幌. 2012年3月18日

高橋英樹, 2012. 「北大植物標本庫 (SAPS) からみた北海道の植物標本採集史」. 北方山草会主催市民講演会. 札幌市博物館活動センター, 札幌. 2012年3月24日

高橋英樹・大原昌宏・小林快次, 2012. 「博物館資料の重要性～東日本大震災の津波被害を受けた博物館資料のレスキューから考えること. 東日本大震災と自然史系博物館、被災自然史標本の修復技法と博物館救援体制を考える研究集会. 西日本自然系博物館ネットワーク、日本学術会議自然史・古生物学分科会. 大阪市立自然史博物館主催. 大阪市立自然史博物館講堂. 2012年4月30日. (ポスター発表)

高橋英樹, 2013. 「千島列島の植物調査—とくに北方四島の外来種について—」. 北海道大学総合博物館まつり「研究報告会」. 北海道大学総合博物館, 札幌. 2013年3月16日

高橋英樹, 2013. 「千島列島の植物—最近の北方四島調査から—」. 北方山草会主催市民講演会. 北海道大学学術交流会館, 札幌. 2013年3月17日

<教育活動>

学位論文主査・副査:

- ・ 農学院 環境資源学専攻 生物生態・体系学講座担当: 平成 24 年度 (修士論文指導副査 2 名、博士論文指導 0 名) 平成 25 年度 (修士論文指導副査 1 名、博士論文指導 0 名)
- ・ 環境科学院 環境起学専攻: 平成 25 年度 (博士論文副査 1 名)

指導学生:

- ・ 教育 (農学部生物資源科学科・農学院環境資源学専攻 指導学生数)
平成 24 年度 学部 1 名、学院 2 名 (修士 0 名、博士 2 名)
平成 25 年度 学部 0 名、学院 2 名 (修士 0 名、博士 2 名)

授業等: (16 件)

全学教育 一般教育演習「北大エコキャンパスの自然と歴史」(担当)(2012, 2013)

全学教育 一般教育演習「北大エコキャンパスの自然—植物学入門」(担当)(2012, 2013)

全学教育 総合科目「生物の多様性」(分担)(2012, 2013)

全学教育 総合科目「北大総合博物館で学ぼう—ヒグマ学入門」(分担)(2012, 2013)

全学教育 総合科目「大学博物館講座—北大自然史研究の系譜」(担当)(2012, 2013)

農学部 「植物分類・生態学」(分担)(2012, 2013)

農学部 「生物資源科学演習」(分担)(2012, 2013)

農学部 「生物資源科学科卒業論文」(分担)(2012, 2013)

大学院農学院 「生物体系学特論」(分担)(2012, 2013)

大学院農学院 「農学院環境資源学演習 I、II」(分担)(2012, 2013)

大学院農学院 「農学院環境資源学研究 I、II」(分担)(2012, 2013)

大学院環境科学院 「多様性生物学基礎論」(分担)(2012, 2013)

大学院共通授業 「博物館学特別講義 I (学術標本・資料学)」(担当)(2012, 2013)

学芸員養成課程授業 「博物館情報・メディア論」(担当)(2013)

学芸員養成課程授業 「学芸員実習(館園実習)」(分担)(2013)

北海道教育大学教育学部函館校 集中講義「生命環境多様性論」(2012, 2013)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等 (5 件)

総合博物館運営委員会委員 (1999-現在)

展示専門委員会委員 (1999-現在)

札幌農学校第二農場の一般公開に関する専門委員会委員 (2011-現在)

学術標本検討専門委員会委員 (1999-現在)

総合博物館点検評価委員会委員

博物館教育 (9 件)

北大キャンパスの遺跡・植物・昆虫観察会(野外観察会)(開催担当・分担：
2012 年 6 月 16 日、2013 年 6 月 15 日)

植物標本庫ツアー(バックヤードツアー)(2012 年 3 月 18 日博物館祭り、2013
年 3 月 17 日博物館祭り、2013 年 9 月 28 日ホームカミングデイ)

総合博物館植物ボランティア講習会 (2013 年 5 月 1 日)

藻岩高校生徒高大連携受け入れ (2012 年 5 月 30 日、2013 年 9 月 13 日)

手稲高校生徒インターン受け入れ（2013 年 10 月 24 日）

セミナー・シンポジウム開催（企画、運営）

2012 年度（セミナー6 件、シンポジウム 1 件）

(1) 博物館土曜市民セミナー（全 6 回）. 総合博物館主催【企画、司会】

(2) 企画展示「クラーク博士と札幌の植物」関連公開シンポジウム「クラーク博士とアジアの植物学」. 北海道大学総合博物館主催【企画、総合司会】

2012 年 3 月 2 日

2013 年度（セミナー6 件）

(1) 博物館土曜市民セミナー（全 6 回）. 総合博物館主催【企画、司会（一部他教員担当）】

博物館企画展示（3 件）

企画展示名：「クラーク博士と札幌の植物」2012 年（主担当）、会場：北海道大学総合博物館 3 階企画展示室、期間：2012 年 3 月 3 日～5 月 6 日

企画展示名：「北のすみれ」2013 年（主担当）、会場：北海道大学総合博物館 1 階知の統合コーナー、期間：2013 年 4 月 16 日～5 月 12 日

企画展示名：「William Smith Clark as Collector: A Legacy at Two Agricultural Colleges」2013 年（展示協力）、会場：マサチューセッツ大学総合科学棟、期間：2013 年 10 月 18 日～11 月 30 日

< 学内各種委員 >（5 件）

生態環境 TF 委員（2010 年度-）

歴史的資産活用 TF 委員（2010 年度-）

埋蔵文化財運営委員会委員（2009 年度-）

北方生物圏フィールド科学センター運営委員会委員（2011 年度-）

北大学生サークル YH クラブ顧問教員(2001 年度-)

< 社会貢献 >（9 件）

北海道希少野生動植物指定候補種検討委員会委員(2002-現在)

北海道都市計画審議会環境影響評価小委員会委員(2003-現在)

北海道外来種対策検討委員会委員（2006-現在）

希少野生動植物種保存推進員（環境省（庁））(2000-現在)

環境省野生生物保護対策検討会検討員（2005-現在）

環境省「第 3 次絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会」委員(2009-)

鉄道・運輸機構「北海道新幹線環境影響事後調査アドバイザー」（2008-現在）

国際自然保護連合日本植物専門家グループ委員 IUCN Japanese Plants
Specialist Group member(2001-現在)
市民植物愛好グループ「北方山草会」会長 (2013-現在)

<外部資金> (2件)

【代表】高橋英樹：科学研究費基盤研究（B）「南千島における絶滅危惧種・外来生物種の現状調査」（平成 21 年度-平成 24 年度）

【分担】河原孝行（代表：森林総合研究所）受託研究：「レブンアツモリソウをモデルとした人を含む在来生態系と共生できる絶滅危惧種自生地の復元技術の研究」環境省地球環境（公害防止等試験研究 2009-2013）（平成 21 年度－平成 25 年度）

大原昌宏

ÔHARA Masahiro

資料基礎研究系 教授

○研究内容の概要

1. 東日本大震災による大型津波の海浜性昆虫群集への影響と復元過程予測

東日本大震災の津波は数百年に一度の規模といわれる。大型津波が海浜性生物の分布に与える影響を調べ、日本の生物地理学的基礎研究の一助とする。対象は海浜性昆虫群集とし、平成24年から数年間の群集の動態と分布を調査する。

1) 津波前と1～3年後の海浜性昆虫群集を比較し、津波による群集の消失・縮小状況を記載する。2) 現在、生存している群集の地理的・遺伝的差異を記載し、群集消失地で新たな群集が形成された際の個体の由来（分散・移入の経路）を知るための基礎情報を集積する。昆虫の生息環境である浜の海藻・海草塊（群集）の種構成を調べ、3) 海藻・海草塊の種構成が昆虫群集の形成過程へ与える影響をみる。

2. 北方圏のエンマムシ、陸生ガムシ（昆虫綱、鞘翅目）の分類学・生物地理学的研究

日本から千島、樺太、朝鮮半島にかけて、エンマムシ科（Histeridae）と陸生のガムシ科（Hydrophilidae）について分布、種構成など分類学的・生物地理学的基礎情報の収集を目的とした。特に陸生ガムシは日本北部における先行研究がないため、多くの新知見が得られた。

3. タイプ標本データベース作成

昆虫綱鞘翅目のタイプ標本の画像、原記載データ、ラベルデータに関するデータベースの構築を行っている。

4. 博物館におけるバイオミメティクス研究

動植物の持つ能力や形・機能などの特性を把握し、そこからヒントを得て人工的に設計・合成・製造する「生物規範工学」と協力し、博物館に収蔵される膨大な生物標本の利活用を探る先駆的なデータベース開発を行う。

○2012年・2013年の研究・活動業績

<原著論文>（3件）

Ôhara, M., and Shido, H., 2012. On several species of histrids from the Island of

- Hokkaido, Japan (Coleoptera, Histeridae). *Elytra*, Tokyo, New Series, 2(1): 105–106.
- Ôhara, M., Yoo, I.-S. and Ahn, K.J., 2013. A new distributional record of *Cercyon* (*Cercyon*) *numerosus* Shatrovskiy (Coleoptera, Hydrophilidae). *Elytra*, Tokyo, (n. ser.), 3(1): 25.
- 山本雅則・大原昌宏, 2013. 滋賀県で採集されたエンマムシの記録. *Sayabane*, (n. ser.), (3): 16–18.

< 著書・図録・目録等 > (2件)

- 大原昌宏・澤田義弘, 2012. パラタクソノミスト養成講座 昆虫(初級) 目までの分類と同定編. 63 pp. パラタクソノミスト養成講座・ガイドブックシリーズ, 11. 北海道大学総合博物館.
- Pietsch, T. W., V. V. Bogatov, S. Yu. Storozhenko, A. S. Lelej, V. Yu. Barkalov, H. Takahashi, S. L. Joneson, S. K. Kholin, K. A. Glew, J. A. Harpel, P. V. Krestov, E. A. Makarchenko, N. Minakawa, M. Ôhara, D. J. Bennett, R. R. Anderson, R. L. Crowford, L. A. Prozorova, Y. Kuwahara, S. V. Shedko, M. Yabe, P. J. Woods & D. E. Stevenson, 2012. Biodiversity and biogeography of Skhalin island. pp. 11–78. *In: Flora and fauna of North-West Pacific islands (materials of International Kuril Island and International Sakhalin Island Projects)*. 396 pp. Dalnauka, Vladivostok.
- 大原昌宏, 2013. 付録 生物分類表 (35D) 六脚亜門 Hexapoda. 1598–1601 pp. 岩波生物学辞典、第5版. (分担執筆) .

< 総説・解説・報告等 > (10 件)

- 大原昌宏・吉田尚生・田中眞理, 2012. 「あきつ賞」受賞サイト(8) 北海道大学総合博物館のウェブサイト「中根コレクション」. 昆虫(ニューシリーズ), 15(1): 23–26.
- 大原昌宏, 2012. 北から来た動物・昆虫たち. モーリー, 26: 15–17.
- 大原昌宏, 2012. 知っているようで知らない昆虫の見分け方. 北海道の自然, 50: 128–133.
- 大原昌宏, 2012. シリーズ虫と石15「オオアカボシウスバシロチョウ」. リテラポプリ, 48: 16.
- 大原昌宏, 2012. シリーズ虫と石16「ハマベゾウムシ」. リテラポプリ, 49: 16.
- 大原昌宏, 2012. シリーズ虫と石17「セスジシナノエンマムシ」. リテラポプリ, 50: 16.
- 大原昌宏, 2013. シリーズ虫と石18「ヤナギルリハムシ」. リテラポプリ, 52: 16.

大原昌宏, 2013. 北海道の昆虫稀少種. モーリー, 30: 32-35. 写真: 堀繁久.
大原昌宏, 2014. 日本周辺の連なる島々にも生物境界線. モーリー, 34: 8-9.
大原昌宏・堀繁久, 2014. 昆虫からみた石狩低地帯「河野ライン」. モーリー, 34: 18-19. 写真: 堀繁久.

<学会活動> (5件)

日本昆虫学会: 評議員 (平成25年度～) ; 自然保護委員会委員(平成24～25年度); 日本産昆虫カタログ編纂委員会委員(平成24～25年度)
日本甲虫学会: 編集委員長(平成23年度～)
北海道自然史研究会: 副会長 (平成24～25年度)

<学会発表等> (6件)

大原昌宏, 2012. 「パラタクソノミスト養成講座: 市民の生物分類学力を底上げする」. 第59回日本生態学会自由集会「市民調査のデータを生物多様性の評価・政策決定につなげ! 研究者の果たす役割とは」 [龍谷大学瀬田キャンパス]. 2012年3月19日 [招待講演].
大原昌宏, 2012. 「博物館自然史標本とバイオミメティクス」. 第7回博物科学会 [京都大学総合博物館3階講演室]. 2012年6月22日.
Ôhara, M., & Kobayashi, N., 2012. Histeridae, Salpingidae and Hydrophilidae (Coleoptera) on seashore of Japan. In: Marine insects: Systematics, ecology, phylogeny and zoogeography. Symposium organizers: Kee-Jeong Ahn, Lanna Cheng [XXIV International Congress of Entomology, Deagu, Korea] 2012年8月20日 [Invitation].
大原昌宏・小林憲生・稲荷尚記, 2012. 「日本産海浜性甲虫: エンマムシ類、イワハママムシ、ケシガムシ類について」. 第3回日本甲虫学会大会、公開シンポジウム「海浜性甲虫の多様性と進化」.[豊橋市自然史博物館]2012年12月1日[招待講演].
大原昌宏・菊田融・藤澤沙弥佳, 2013. 「札幌圏における実物標本教育ネットワークの展開～CISEネットワークについて～」. 第8回博物科学会 [宮崎大学附属図書館]. 2013年5月31日.
蓑島悠介・大原昌宏, 2013. オオツヤヒラタガムシ属 (鞘翅目・ガムシ科) の再検討. 日本甲虫学会第4回大会 [東京農業大学厚木キャンパス]. 2013年11月24日.

<一般講演・セミナー発表> (33件)

大原昌宏, 2012. 「里山の生物多様性をモニタリングするのは誰?」 ー北大総

- 合博物館におけるパラタクソノミスト養成講座の紹介」．近畿大学農学部
里山学連続講座第5回[近畿大学農学部新教室棟311教室] 2012年1月8日 [招
待講演].
- 大原昌宏、2012. 「昆虫から見た北海道の生物多様性 ―地域調査と博物館の
重要性―」．生物多様性に関する地域意見交換会、北海道環境局自然環境課
主催[後志福祉労働センター] 2012年1月23日 [招待講演].
- 大原昌宏、2012. 「なぜ「標本」を集めるのか ―生物相調査とその社会的意
義―」．博物館ゼミナール、小樽市立総合博物館主催[小樽市立総合博物館]
2012年3月11日 [招待講演].
- 大原昌宏、2012. 「津波被害標本レスキュー：博物館標本を、維持し、守り、
救うという行為 ―それを支えるネットワークと博物館行政の必要性」．北
海道大学総合博物館まつりシンポジウム「博物館資料の重要性 ―東日本
大震災の津波被害を受けた博物館資料のレスキューから考えること―」、北
海道大学総合博物館主催[北海道大学総合博物館] 2012年3月18日 [司会、オ
ーガナイザー、講演].
- 大原昌宏、2012. 「昆虫と環境：昆虫とは何か ―昆虫の分類と多様性―」．[NHK
文化センター札幌教室]. 2012年4月8日 [招待講演].
- 高橋英樹・大原昌宏・小林快次、2012. 「博物館資料の重要性 ―東日本大震災
の津波被害を受けた博物館資料のレスキューから考えること」．東日本大震
災と自然史系博物館、被災自然史標本の修復技法と博物館救援体制を考え
る研究集会．西日本自然系博物館ネットワーク、日本学術会議自然史・古生
物学分科会、大阪市立自然史博物館主催[大阪市立自然史博物館講堂]. 2012
年4月30日. [ポスター発表].
- 大原昌宏、2012. 「博物館に学ぶ：博物館の自然史研究とバイオミメティクス」．
バイオミメティクス市民セミナー．北海道大学総合博物館・バイオミメティ
クス研究会 共催 [北海道大学総合博物館]. 2012年5月5日 [招待講演].
- 大原昌宏、2012. 「博物館とバイオミメティクス」．北海道自然史研究会石狩
大会 [石狩市民図書館視聴覚ホール]. 2012年5月12日.
- 大原昌宏、2012. 「昆虫と環境：昆虫から環境を見る方法 ―昆虫による環境
の生物多様性評価―」．[NHK文化センター札幌教室]. 2012年5月13日 [招待講
演].
- 大原昌宏、2012. 「博物館学概論」 まちを好きになる市民大学 ―「わがま
ち博物館員」養成課程―．北広島市教育委員会主催 [北広島市中央公民館]
2012年5月26日 [招待講演].
- 大原昌宏、2012. 「昆虫と環境：昆虫から私たちの生活を考える ―昆虫を用
いたバイオミメティクスと博物館―」．[NHK文化センター札幌教室]. 2012年

- 6月10日 [招待講演].
- 大原昌宏、2012. 「昆虫を知ろう ―身近な帯広の昆虫、大山緑地の昆虫調査を例に―」. 特別授業、帯広市児童会館主催[帯広市児童会館] 2012年6月28日 [招待講演].
- 大原昌宏、2012. 「大山緑地の昆虫」. 帯広市開拓130年・市制80年記念事業「信頼」と「絆」: 大山緑地自然環境講演会・自然観察会. 帯広第八中学校支援地域本部、大山緑地と若葉の森を愛する会、帯広市教育委員会、帯広市立帯広第八中学校主催 [帯広百年記念館] 2012年7月14日 [招待講演].
- 大原昌宏、2012. 「北海道の昆虫」. 北海道新聞社、北海道新聞野生生物基金、北海道エコ・アクション事務局主催. [さっぽろテレビ塔] 2012年8月9日 [招待講演].
- 大原昌宏、2012. 「博物館の昆虫標本から新しい工学を発見する: バイオミメティクス ―生物模倣技術から新技術への応用と商品開発―」. 第2回科学ボランティア養成講座、北海道科学活動ネットワーク主催. [札幌市南区澄川地区会館] 2012年9月22日 [招待講演].
- Ôhara, M., 2012. Opening up taxonomy and collections to the public: the training course for parataxonomist at Hokkaido University Museum. Conference: Discovery, Display and Debate: New Agendas for University Museum. Organized by the Sainsbury Institute for Art, University of East Anglia and Japan Society for the Promotion of Science. [University of East Anglia, England]. 2012年10月25日 [Invitation].
- Ôhara, M., 2012. Outreach and interdisciplinarity activities for biomimetics in the Hokkaido University Museum. Satellite meeting of the 9th SPSJ international polymer conference (IPC2012). [神戸大学]. 2012年12月10日 [Poster].
- 大原昌宏・小林憲生・稲荷尚記、2012. 「日本産海浜性甲虫: エンマムシ類、イワハマムシ、ケシガムシ類について」. 北海道大学総合博物館主催、国際シンポジウム「海浜性甲虫の進化と多様性」. [北海道大学総合博物館] 2012年12月24日.
- 稲荷尚記・小林憲生・大原昌宏、2012. 「海浜性ケシガムシ類の季節消長 ―群集生態学的観点から―」. 北海道大学総合博物館主催、国際シンポジウム「海浜性甲虫の進化と多様性」. [北海道大学総合博物館] 2012年12月24日.
- 大原昌宏・菊田融、2013. 「札幌圏における実物教育ネットワークの展開～CISEネットワークについて～」. 北海道自然史研究会2012年度大会 [北海道大学総合博物館]. 2013年2月3日.
- 大原昌宏、2013. 「ボゴール動物学博物館と北海道大学の連携研究」. 北海道大学総合博物館主催、国際シンポジウム「インドネシアの昆虫多様性 ―

- 北大とボゴール動物学博物館の共同研究～」.[北海道大学総合博物館]2013年2月11日.
- 大原昌宏、2013.「博物館インベントリー：生物多様性と生物模倣技術への寄与」. JST (CREST, ERATO, 日本科学未来館), 文部科学省科学研究費「生物規範工学」, 北海道大学総合博物館主催、シンポジウム「生物模倣技術（バイオミメティクス）がもたらす技術革新と博物館の役割」.[東京お台場 日本科学未来館]2013年3月16日[招待講演].
- 大原昌宏、2013.「博物館学概論」 まちを好きになる市民大学 ―「わがまち博物館員」養成課程―. 北広島市教育委員会主催 [北広島市中央公民館] 2013年5月25日 [招待講演].
- 大原昌宏、2013.「北海道での生物多様性の取り組み」 第4回道新自然・環境エクスカッション「生物多様性を考え、ジオパークを歩こう」. 北海道新聞社、北海道新聞野生生物基金、道新ぶんぶんクラブ主催[洞爺湖万世閣]. 2013年6月8日[基調講演、招待講演].
- 大原昌宏、2013.「博物館標本を基軸とした分類学人材養成：パラタクソノミスト養成講座の実践」 日本学術会議公開シンポジウム「昆虫分類学の新たな挑戦」. 日本昆虫科学連合、日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会[九州大学箱崎旧工学部本館大講義室]. 2013年7月20日 [招待講演].
- 大原昌宏、2013.「節足動物とは」 展示会「わくわく蟲ランド ～愛 Love蟲～」ムシトーク!!!. [札幌市円山動物園動物科学館]. 2013年8月24日 [招待講演].
- Ôhara, M., 2013. Taxonomy and University Museums. 2013. International Symposium. Natural History Museum, Chungnam National University. Our University Museum of Natural History: An Enduring Contribution to Science, Society and the Future. [Natural History Museum, Chungnam National University, Korea]. 2013年9月5日[Invitation].
- 大原昌宏、2013.「パラタクソノミスト養成講座の実践」 モニタリングサイト1000里地調査、2013年度サイト間交流会&調査技術向上研修会, (公財) 日本自然保護協会主催 [大阪市立自然史博物館]. 2013年11月9日 [招待講演].
- 大原昌宏・稲荷尚記・小林憲生、2013.博物館標本と現地調査から見た津波被災地域の生物多様性変化(海浜性甲虫を対象に). 生物多様性JAPAN主催, 国際生物科学連合(IUBS)共催, 「国内WS: 大規模自然災害と生物多様性—2014国際シンポジウム事前集会— (Disaster and Biodiversity (DAB), IUBS Triennial Program 2013, Workshop 1)」 [中央大学後樂園キャンパス]. 2013年12月21日 [招待講演].
- Ôhara, M., Inari, N., and Kobayashi, N., 2014. Museum collection and field research

of the biodiversity in the Tsunami-hit area, Tohoku, Japan. IUBS/BDNJ Joint International Workshop "International Workshop on Disaster and Biodiversity, DAB Workshop 2 and IUBS Triennial Program 2013". [Korakuen campus, Chuo University]. 2014年1月28日 [Invitation].

Ôhara, M., Murakami, M. and Inari, N., 2014. Accumulation of SEM images and biomimetics outreach activities at the Hokkaido University Museum. Joint international symposium on "Nature-Inspired Technology (ISNIT) 2014" and "Engineering Neo-Biomimetics V". [Conference Hall, Hokkaido University, Sapporo, Japan.] 2014年2月14日 [Invitation].

大原昌宏, 2014. 生き物をまなぼう、まねよう ～バイオミメティクス～. 北海道新聞社・北海道新聞野生生物基金主催：環境出前講座・講演会[浦河町総合文化会館]2014年2月16日[招待講演].

大原昌宏, 2014. きらわれものだけど、実はすごい生き物たち(座談会:堀繁久、徳田龍彦、本田直也)．マニアナバンサンカイ[札幌すすきの Feel lounge] 2014年3月29日[招待講演].

<教育活動>

学位論文主査・副査：

・農学院 環境資源学専攻 生物生態・体系学講座担当：平成24年度（修士論文指導主査1名、博士論文指導主査2名）平成25年度（修士論文指導副査0名、博士論文指導副査0名）

指導学生・授業等：

・教育（各学年の学部・研究科指導学生数）

2012年 学部0名、研究科5名（修士2名、博士3名）（農学研究科、兼任）

2013年 学部0名、研究科1名（修士0名、博士1名）（農学研究科、兼任）

授業等：（9件）

全学教育 複合科目「生物の多様性」（分担）（2012, 2013）

全学教育 一般教育演習「エコキャンパス」（分担）（2012, 2013）

大学院共通科目「新自然史科学特別講義～地球と生命の自然史」（分担）（2012, 2013）

大学院地球環境科学 「多様性生物学基礎論I」（分担）（2012, 2013）

大学院農学研究科 「生物体系学特論」（分担）（2012, 2013）

大学院共通科目授業 「博物館学特別講義（学術標本・資科学）」（分担）（2012, 2013）

学芸員養成過程授業「博物館学芸員実習指導」（2012）

学芸員養成過程授業「博物館実習事前指導」(2012,2013)

学芸員養成過程授業「博物館資料保存論」(2012,2013)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等 (5件)

総合博物館運営委員会委員(1999.10-現在)、総合博物館点検評価委員会委員(1999.10-現在)、学術標本検討専門委員会委員(1999.10-現在)、企画展示専門委員会委員(1999.10-現在)、ミュージアムショップ運営委員(2003.4-2012.3)

博物館教育 (講座7件)

パラタクソノミスト養成講座 昆虫(初級)(2012年3回;2013年2回)

パラタクソノミスト養成講座 甲虫(中級)(2012年1回;2013年0回)

北大キャンパスの遺跡・植物・昆虫観察会(野外観察会)(2012)

セミナー・シンポジウム開催(企画、運営):

2012年度 (セミナー15件、シンポジウム4件)

- (1) バイオミメティクス・市民セミナー(全7回:1-7). 北海道大学総合博物館, バイオミメティクス研究会 共催[北海道大学総合博物館]. 2012年2月4日, 2月19日, 3月31日, 4月7日, 5月5日, 6月2日, 7月7日, [企画、総合司会]
- (2) セッション1. 津波被害標本処理の技術的な課題とその記録. 東日本大震災と自然史系博物館, 被災自然史標本の修復技法と博物館救援体制を考える研究集会. 西日本自然系博物館ネットワーク, 日本学術会議自然史・古生物学分科会, 大阪市立自然史博物館主催[大阪市立自然史博物館講堂]. 2012年4月30日[セッション1進行・司会].
- (3) バイオミメティクス・市民セミナー(全8回:8-15). 北海道大学総合博物館, 高分子学会バイオミメティクス研究会 共催[北海道大学総合博物館]. 2012年8月4日, 9月1日, 10月6日, 11月3日, 12月1日, 1月13日, 2月2日, 3月2日 [企画、総合司会]
- (4) 海浜性甲虫の進化と多様性. 北海道大学総合博物館主催、国際シンポジウム[北海道大学総合博物館]. 2012年12月24日[企画、総合司会、講演].
- (5) インドネシアの昆虫多様性 ~北大とボゴール動物学博物館の共同研究~. 北海道大学総合博物館主催、国際シンポジウム[北海道大学総合博物館]. 2013年2月11日[企画、総合司会、講演].
- (6) 生物模倣技術(バイオミメティクス)がもたらす技術革新と博物館の役割. JST (CREST, ERATO, 日本科学未来館), 文部科学省科学研究費「生物規範

工学」, 北海道大学総合博物館主催. [東京お台場 日本科学未来館] 2013年3月16日[企画, 講演, see 140口頭発表].

2013年度 (セミナー12件、シンポジウム1件)

- (1) バイオミメティクス・市民セミナー (全6回: 16-21). 北海道大学総合博物館, 高分子学会バイオミメティクス研究会 共催[北海道大学総合博物館]. 2013年4月6日, 5月4日, 6月1日, 7月6日, 8月3日, 9月7日[企画、総合司会]
- (2) バイオミメティクス・市民セミナー (全6回: 22-27). 北海道大学総合博物館, 高分子学会バイオミメティクス研究会 共催[北海道大学総合博物館]. 2013年10月5日, 11月2日, 2014年1月5日, 2月1日, 3月9日 [企画、総合司会]
- (3) 「タイからワニがやってきた展」関連公開シンポジウム. 北海道大学総合博物館・タイ国立科学博物館主催 [北海道大学総合博物館] 2013年11月26日 [企画、総合司会]

博物館企画展示 (3 件)

企画展示名: 「自然に学ぶ ネイチャー・テクノロジーとライフスタイル展」2012年度 (主担当)、会場: 北海道大学総合博物館 3階企画展示室、期間: 2012年1月22日 (火) から3月17日 (日)

企画展示名: 「タイからワニがやってきた展」2013年度 (一部担当)、会場: 北海道大学総合博物館 1階「知の統合」コーナー、期間: 2013年11月26日 (火) から12月27日 (金)

企画展示名: 「ツイン・タイム・トラベル イザベラ・バードの旅の世界 写真展」2013年度 (主担当)、会場: 北海道大学総合博物館 1階「知の統合」コーナー、3階企画展示室、期間: 2014年1月25日 (土) から5月11日 (日)

企画展示名: 「産学連携研究 バイオミメティクスと北海道大学」2013年度 (主担当)、会場: 北海道大学総合博物館 2階常設展示コーナー、期間: 2014年3月31日 (月) から未定

< 学内各種委員 > (1 件)

生態環境タスクフォース委員 (平成24～25年度)

< 社会貢献 > (10 件)

1. 環境省絶滅のおそれのある野生動植物の選定・評価検討会、昆虫分科会 検討員 (平成24～25年度)
2. 北海道希少野生動植物指定候補種検討委員会 委員 (平成24～25年度)

3. 北海道文化財保護審議会 委員（平成24～25年度）
4. 札幌市次世代型博物館計画検討委員会 委員（平成24～25年度）
5. 北海道新聞野生生物基金 評議員（平成24～25年度）
6. 北海道新聞野生生物基金 「モーリー」編集委員（平成24～25年度）
7. 小樽市総合博物館協議会委員（平成24～25年度）
8. 小樽市文化財審議会 委員（平成25年度）
9. ほっかいどう学検定編纂委員（平成24～25年度）
10. GBIF日本ノード運営委員会 委員（平成24～25年度）
11. 北海道新聞社エコ大賞 審査委員（平成24～25年度） p

<外部資金> （5件）

【代表】大原昌宏：科学研究費「東日本大震災による大型津波の海浜性昆虫群集への影響と復元過程予測」（2012-）平成24年度—平成26年度

【分担】小林憲生（代表：埼玉県立大学）：科学研究費「津波による移動・分散が生物多様性を促進する可能性の検証」（2013-）平成25年度—平成27年度

【分担】馬渡駿介（代表：北海道大学）：科学研究費「「自然史財」認定・登録システムの研究」（2013-）平成25年度—平成27年度

【代表】大原昌宏：JST受託研究 科学技術コミュニケーション推進事業 ネットワーク形成地域型「科学系博物館・図書館の連携による実物科学教育の推進」平成24年度—平成26年度

【分担】下村政嗣（代表：東北大学）、野村周平（グループ代表：国立科学博物館）：JST（独立行政法人科学技術振興機構）—CREST（戦略的創造研究推進事業チーム型研究）受託研究「階層的に構造化されたバイオミメティクス・ナノ表面創製技術（表面構造解析グループ）」平成23年度—平成25年度

阿部剛史

ABE Tsuyoshi

資料基礎研究系 講師

○研究内容の概要

1. 紅藻ソゾ属および近縁属の系統分類学的研究と化学成分研究

広義ソゾ属 (*Chondrophycus*, *Laurencia*, *Laurenciella*, *Osmundea*, *Palisada*, *Yuzurua*) の系統分類学的研究を、形態形質に加えて分子系統、培養実験、成分分類学的手法を用いて進めている。また、ウラソゾの種内分化（ケミカルレース）における個体群構造について、分子系統学的手法を用いて解明を進めた。

2. 北方コンブ類の系統分類学的研究

資料部との共同研究として、サハリン・カムチャツカおよび日本産の材料を用い、北方コンブ類の系統分類学的研究を進めている。

3. 日本及び東南アジア・極東ロシアの海藻相に関する研究

上記の2群に限らず東南アジアから日本を経て極東ロシアに至る北西太平洋の海藻相についての研究をおこなっている。当該年度においては北方領土の海藻相に関する調査を主に実施したほか、瀬戸内海産ダジア属の1新種について記載準備を進めた。

○2012年・2013年の研究・活動業績

<原著論文> (1件)

Ohta, T., Mahara, Y., Kubota, T., Abe, T., Matsueda, H., Tokunaga, T., Sekimoto, S., Takayama, K., Fukutani, S. & Matsuzaki, H. 2013. Separation and measurement of ^{129}I and ^{127}I in pre-nuclear-era marine algae with ultra-low $^{129}\text{I}/^{127}\text{I}$ isotopic ratios. *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research B* **294**: 559–562.

<著書・図録・目録等> (1件)

木下大旗, 河原法子, 草島乃美, 阿部剛史. 2012. 川嶋昭二先生海藻画作品集 2012年夏北海道大学総合博物館企画展示図録別冊, 北海道大学総合博物館. 68pp.

<総説・解説・報告等> (1件)

寺田竜太, 川井浩史, 倉島 彰, 村瀬 昇, 坂西芳彦, 田中次郎, 吉田吾郎, 阿部剛史, 北山太樹. 2013. 日本産コンブ目海藻5種の分布とモニタリング指標種と

しての評価. モニタリングサイト1000沿岸域調査(磯・干潟・アマモ場・藻 場)
2008-2012年度とりまとめ報告書, 68-73.

<学会活動> (4 件)

国際藻類学会

日本藻類学会 幹事 (会計担当) 2009-2012年度

北海道海洋生物科学研究会 幹事 2006-2013年度

北海道植物学会 幹事 2003年度- (継続)

<学会発表等> (11 件)

- 木下大旗・小亀一弘・渡邊摩美・沖野龍文・阿部剛史, 2012. 紅藻ウラソゾにおける種内構造の解明. 日本藻類学会第36回大会 [北海道大学]. 2012年7月13-15日.
- 大津創・馬場将輔・阿部剛史・小亀一弘, 2012. 日本産紅藻サンゴモ属 (サンゴモ目) の系統分類学的研究. 日本藻類学会第36回大会 [北海道大学]. 2012年7月13-15日.
- 須田昌広・前田高志・四ツ倉典滋・阿部剛史・能登谷正浩, 2012. 福島県いわき産ソゾ属 (*Laurencia*) の一種について. 日本藻類学会第36回大会 [北海道大学]. 2012年7月13-15日.
- 栗林貴範・阿部剛史・門谷茂, 2012. 過去の栄養塩環境は古海藻に記録されているか? - 古海藻の $\delta^{15}\text{N}$ により推定する北海道日本海沿岸における過去130年間の栄養塩環境に関する一考察 -. 生物地球化学研究会秋田セッション [秋田県立大学]. 2012年10月20-21日.
- 寺田竜太・川井浩史・倉島彰・坂西芳彦・田中次郎・村瀬昇・吉田吾郎・阿部剛史・北山太樹, 2013. 環境省モニタリングサイト1000沿岸域調査で見られる主な海藻類のモニタリング指標としての評価. 日本藻類学会第37回大会 [山梨大学 甲府西キャンパス]. 2013年3月27-29日.
- 栗林貴範・阿部剛史・門谷茂, 2013. 古コンブ標本に残された $\delta^{15}\text{N}$ の解読により得られたかつてのニシン産卵群による北海道日本海沿岸への栄養輸送の可能性. 地球惑星科学連合大会: 「生物地球化学」 [幕張メッセ国際会議場]. 2013年5月23-24日. [最優秀ポスター賞]
- Abe, T. 2013. Geographical features of the North Pacific for algal distribution. International Research Meeting - Front of Diversity Research on Kelp in the North Pacific [北海道大学] 2013年5月27-29日.
- Suda, M., Maeda, T., Yotsukura, N., Abe, T. and Notoya, M. 2013. A New Species of *Chondrophycus* (Rhodophyta) from Japan. 10th International Phycological

Congress [Orlando, Florida, USA] 2013年8月4-10日.

- 山岸幸正・太田雄介・増田道夫・阿部剛史, 2014. 紅藻ケブカダジアの分類と新種セトウチダジア *Dasya enomotoi* について. 日本藻類学会第38回大会 [東邦大学 習志野キャンパス]. 2014年3月14-16日.
- 須田昌広・前田高志・四ツ倉典滋・阿部剛史・能登谷正浩, 2014. 隠岐諸島中ノ島沿岸で採集されたソゾ属 *Laurencia* の1種. 日本藻類学会第38回大会 [東邦大学 習志野キャンパス]. 2014年3月14-16日.
- 阿部剛史, 2014. 北方領土海藻調査報告. 日本藻類学会第38回大会 [東邦大学 習志野キャンパス]. 2014年3月14-16日.

<一般講演・セミナー発表> (4件)

- Abe, T. 2013. Algae for Humankind. National Science and Technology Fair 2013. [Bangkok International Trade and Exhibition Centre, Bangkok, Thailand] 2013年8月6日.
- 四ツ倉典滋・傳法隆・阿部剛史, 2012. こんぶの森を育てよう！～ゆたかな海をこの手で～. 日本学術振興会 ひらめき☆ときめきサイエンス [北海道大学 忍路臨海実験所]. 2012年7月28日.
- 四ツ倉典滋・傳法隆・阿部剛史, 2012. 昆布と藻のおはなし. アポイ岳ジオパーク ふるさとジオ塾講座 [様似町立図書館視聴覚ホール]. 2012年8月2日.
- 四ツ倉典滋・傳法隆・阿部剛史, 2013. “こんぶの森”の未来を考えよう～ゆたかな海をいつまでも～. 日本学術振興会 ひらめき☆ときめきサイエンス [北海道大学 忍路臨海実験所]. 2013年7月27日.

<教育活動>

学位論文主査・副査：

- ・理学院自然史科学専攻多様性生物学講座：平成24年度（修士論文指導主査1名・副査1名）平成25年度（修士論文指導副査2名）

指導学生・授業等：

- ・教育（各学年の学部・研究科指導学生数）
2012年 学部0名、学院4名（修士4名、博士0名）（理学院、兼任）
2013年 学部0名、学院2名（修士2名、博士0名）（理学院、兼任）

授業等：（16件）

- 全学教育「環境と人間 北大総合博物館で学ぼうー「コレクション・もの」にこだわる科学ー」（分担）（2012）
- 全学教育「一般教育演習 北大総合博物館で学ぼうー博物館のバックヤード

を知るー」(分担)(2012)

全学教育「環境と人間 生物の多様性」(分担)(2012, 2013)

全学教育「英語演習 中級:英語で学ぶ生物学」(分担)(2012, 2013)

全学教育「自然科学実験」(分担)(2012, 2013)

理学部「生物多様性基礎論」(分担)(2012, 2013)

理学部「生物多様性概論」(分担)(2012, 2013)

理学部「多様性生物学」(分担)(2012, 2013)

理学部「多様性生物学」(分担)(2012, 2013)

理学部「臨海実習」(分担)(2012, 2013)

理学部「海洋生態学実習」(分担)(2012, 2013)

大学院共通科目「博物館学特別講義 (学術標本・資料学)」(分担)(2012, 2013)

大学院理学院「多様性生物学特論」(分担)(2012, 2013)

大学院理学院「多様性生物学研究法」(分担)(2012, 2013)

学芸員養成過程授業「博物館資料論」(分担)(2012, 2013)

学芸員養成過程授業「博物館学芸員実習指導」(分担)(2013)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等 (3件)

総合博物館運営委員会委員(2012.11-現在)、展示専門委員会委員
(2012.11-現在)、学術標本検討専門委員会委員(2012.11-現在)

博物館教育 (講座2件)

パラタクソノミスト養成講座 海藻(初級)(2012年1回;2013年1回)

シンポジウム開催(企画、運営):

2012年度 (セミナー2件)

土曜市民セミナー(2回).2012年8月11日,9月8日[企画]

2013年度 (0件)

博物館企画展示 (3件)

企画展示名:「藻類が人類の未来を救う」2012年度(主担当)、会場:
北海道大学総合博物館 1階「知の交流」コーナー、3階企画展示室、期間:2012
年7月10日(火)から9月23日(日)

企画展示名:「Algae for human kind展」2013年(主担当)、会場:パ
ンコク国際貿易展示場、期間:2013年8月6日(火)から8月21日(水)

企画展示名：「タイからワニがやってきた展」2013年（主担当）、会場：北海道大学総合博物館 1階「知の統合」コーナー、期間：2013年11月26日（火）から12月27日（金）

<学内各種委員> (8件)

環境負荷低減推進員（平成24～25年度）

アカデミック・サポートセンター 学部相談員（平成25年度）

野外活動安全マニュアル検討WG委員（平成25年度）

理学部環境安全衛生委員会委員（平成24～25年度）

理学部同窓会理事（平成24年度）

理学部同窓会評議員（平成25年度）

理学部生物学教室（多様性系）学科行事担当（平成24年度）

理学部生物学教室（多様性系）1年生対応担当（平成25年度）

<社会貢献> (1件)

希少野生動植物種保存推進員（環境省）（2012.7～現在）

<外部資金> (0件)

なし

河合俊郎

KAWAI Toshio

資料基礎研究系 助教

○研究内容の概要

1. キホウボウ科魚類の系統分類学的研究

深海性魚類の一群全てを包括的に形態形質および分子形質の両面から研究し、種多様性とその形成史を総合的に明らかにする試みである。深海底という特殊かつ安定した環境において、生物はどのように進化・適応してきたのかという研究を進める上で、世界中の深海底に生息する代表的な一群であるキホウボウ科は最も有効な研究対象種のひとつである。

2. 北海道周辺海域に出現する魚類の分類学・生物地理学的研究

北海道周辺に出現する魚類を分類し、北海道周辺の魚類相を解明することを目的とする。北海道は南からの暖流である黒潮と対馬暖流、北からの寒流である親潮とリマン海流によって、複雑な水域を形成するため寒海性から熱帯性までの多様な魚類が生息可能となっている。

○2012年・2013年の研究・活動業績

<原著論文> (9件)

Matsubara, H., Kawai, T., Iwata, D., Shimizu, M., Yoshikawa, H., Kubara, Y. and Suzuki, A., 2012. The Kaluga sturgeon (*Huso dauricus*) from the coast of southernmost Okhotsk Sea, Hokkaido, Japan. *Biogeography*, 14: 11-17.

Tenda, M. and Kawai, T., 2012. Record of the armored searobin, *Peristedion barbigier* (Garman, 1899) (Actinopterygii: Teleostei: Peristediidae) off Peru with taxonomic notes. *Species Diversity*, 17 (2): 135-144

櫻井慎大・佐々木嘉子・河合俊郎・三宅教平, 2012. 北海道寿都沖から得られたイスズミ科魚類ノトイスズミ *Kyphosus bigibbus* およびアジ科魚類カンパチ *Seriola dumerili* の日本周辺海域における北限記録. *日本生物地理学会会報*, 67: 241-246.

Honma, Y., Imamura, H., and Kawai, T., 2013. Anatomical description of the genus *Perryena*, and proposal to erect a new family for it based on its phylogenetic relationships with related taxa (Scorpaeniformes). *Ichthyological Research*, 60 (2): 121-141.

Imamura, H. and Kawai, T., 2013. Note on dentition of *Howella parini* Fedoryako 1976 (Perciformes). *Ichthyological Research*, 60 (3): 291-292.

- Kawai, T., 2013. Revision of the peristediid genus *Satyrichthys* (Actinopterygii: Teleostei) with the description of a new species, *S. milleri* sp. nov. *Zootaxa*, 3635 (4): 419-438.
- Oijen, M. J. P. van, Kawai, T. and Loots, I., 2013. Putative type specimens of *Satyrichthys* (Scorpaeniformes: Peristediidae) in the Bleeker collection of the Naturalis Biodiversity Center, Leiden, The Netherlands. *Zootaxa*, 3670 (2): 207-214.
- Tomita, T., Kawai, T., Matsubara, H. and Nagata, R., 2013. Occurrence of the Chilean devil ray *Mobula tarapacana* (Elasmobranchii: Batoidea: Myliobatiformes) in the Sea of Okhotsk: first record of the devil ray from cold temperate water. *Journal of Fish Biology*, 83: 695-698.
- Tomita, T., Kawai, T., Matsubara, H., Kobayashi, M. and Katakura, S., 2013. Northernmost record of a whale shark, from the Sea of Okhotsk. *Journal of Fish Biology* (in press).

< 著書・図録・目録等 > (0件)

なし

< 総説・解説・報告等 > (0件)

なし

< 学会活動 > (2件)

日本動物分類学会Species Diversity誌:編集委員(平成24~25年度)、日本魚類学会:庶務幹事(平成25年度)

< 学会発表等 > (8件)

- 天田未貴・河合俊郎, 2012. 「ペルー沖で採集されたキホウボウ科マトキホウボウ *Peristedion barbiger*」. 第45回日本魚類学会年会[水産大学校]2012年9月22日.
- 中田和義・永野優季・大橋慎平・河合俊郎・大高明史, 2012. 「1872年に北海道阿寒湖で採集されたニホンザリガニ標本と出現したヒルミミズ類」. 日本甲殻類学会第50回大会[熊本大学]. 2012年10月20日.
- Yabe, M., Imamura, H. and Kawai, T., 2013. The HUMZ fish collection and its contribution to systematic ichthyology [9th Indo Pacific Fish Conference, Kunigami, Japan] 2013年6月.
- Shinohara, G., Kawai, T., Katayama, E. and Matsuura, K., 2013. Learning from body

fishes: introduction to a biomimetic project in Japan. [9th Indo Pacific Fish Conference, Kunigami, Japan]2013年6月.

○荻本啓介・河合俊郎・矢部衛, 2013.「ギンザメ目魚類における頭部把握器の運動および形態学的多様性」. 第46回日本魚類学会年会[宮崎市観光ホテル]. 2013年10月4日.

篠原現人・○片山英里・田城文人・松浦啓一・河合俊郎, 2013.「バイオミメティクス・データベース構築とフグ目の体表構造」. 第46回日本魚類学会年会[宮崎観光ホテル].2013年10月4日.

ビラスリ ビーラ・山中智之・棚野秀平・○河合俊郎・ラッムアンクゥワン サハト・今村 央, 2013.「タイ王国プーケット島およびラノン県から採集された海産魚類」. 第46回日本魚類学会年会[宮崎観光ホテル]. 2013年10月5日.

○藤井千春・松浦啓一・後藤友明・河合俊郎, 2013.「被災液浸標本レスキュー」. 水族館との共同研究。その現状と、将来展望に期待を込めて.[東京大学柏キャンパス]. 2013年12月3日.

<一般講演・セミナー発表> (0件)

なし

<教育活動>

学位論文主査・副査:

・水産科学院 海洋生物資源科学専攻:平成24年度(修士論文指導副査5名、博士論文指導副査1名)平成25年度(修士論文指導副査6名、博士論文指導副査3名)

指導学生・授業等:

・教育(各学年の学部・研究科指導学生数)

2012年 学部3名、学院16名(修士11名、博士5名)(水産科学院、兼任)

2013年 学部3名、学院18名(修士12名、博士6名)(水産科学院、兼任)

授業等:(9件)

全学教育 総合科目「北大大学博物館で学ぼう ― 「コレクション・もの」にこだわる科学」(分担)(2012)

水産学部海洋生物科学科「乗船実習」(分担)(2012)

水産学部海洋生物科学科「海洋生物学実験」(分担)(2012)

水産学部「水圏生物学」(分担)(2012, 2013)

水産学部海洋生物科学科「臨海実習」(分担)(2012, 2013)

水産学部海洋生物科学科「海洋生物学論文講読」(分担)(2012, 2013)

水産学部海洋生物科学科「海洋生物科学基礎実験」(分担)(2013)

水産学部海洋生物科学科「海洋生物学実験」(分担)(2013)

学芸員養成過程授業「博物館学芸員実習指導」(2012, 2013)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等 (5 件)

水産科学館専門委員会委員(1999.4-現在)、学術標本検討専門委員会委員(1999.4-現在)

博物館教育 (講座 4 件)

パラタクソノミスト養成講座 魚類(初級)(2012年2回;2013年1回)

シンポジウム開催(企画、運営):

2012 年度 (セミナー2 件)

(1) 水産科学館土曜サロン(全2回). 2012年6月2日, 7月21日 [企画]

2013年度 (セミナー1件)

(1)水産科学館土曜サロン(全1回). 2012年6月1日[企画]

博物館企画展示 2 件

企画展示名:「Algae for human kind展」2013年(一部担当)、会場:バンコク国際貿易展示場、期間:2013年8月6日(火)から8月21日(水)

企画展示名:「タイからワニがやってきた展」2013年(一部担当)、会場:北海道大学総合博物館 1階「知の統合」コーナー、期間:2013年11月26日(火)から12月27日(金)

<学内各種委員> (2 件)

水産学部・水産科学研究所・水産科学院 広報・PR委員会委員(平成24~25年度)
「新水産・海洋都市はこだてを支える人材養成」人材養成実行委員会委員(平成24~25年度)

<社会貢献> (2 件)

1. 陸前高田市立博物館所蔵魚類標本の復旧、一部担当(平成24年度)
2. 独立行政法人国際協力機構札幌国際センター第1回集団研修「持続可能な沿岸漁業(B)」コース、一部担当(平成24年度)

＜外部資金＞ （0 件）
なし

小林 快次

KOBAYASHI Yoshitsugu

資料開発研究系 准教授

○研究内容の概要

主に恐竜とワニを中心に、絶滅動物の進化や生態復元の研究を行っている。フィールドは世界に渡り、日本だけではなく、モンゴル、中国、アメリカ（特にアラスカ）、カナダといった環太平洋域で、発掘や研究を活発に行っている。

研究の内容は、主に以下の6点である。

1. 生態復元からみた、恐竜類から鳥類への進化

鳥類が中生代の恐竜類からどのようにして“鳥類化”したかが、現在の議論の的になっている。内温性は、どこまでさかのぼれるのか？脳の作りはいつから“鳥類タイプ”になっていたのか？食性がどのように変化したか、原始的な鳥類は生態系においてどの位置に立たされていたのか？など、化石から復元できる生態から、恐竜の“鳥類化”のプロセスを探っている。

2. アジア（モンゴルと中国）と北米（カナダ）における恐竜類の多様性

世界に恐竜王国は6カ国に渡る（中国、モンゴル、アメリカ、カナダ、アルゼンチン、イギリス）。中国とモンゴルは、これまでも多くの化石を産出しているが、現在も未開拓の地が多く、恐竜時代において恐竜の多様性がどの程度だったのかは不明な部分が多い。比較的研究が進んでいて、同時代で同じ古緯度のカナダ・アルバータ州の恐竜と比較することで、大陸間で恐竜の多様性の相違を追求している。

3. 北極圏での恐竜の多様性と適応能力

恐竜は、全大陸を支配した大型陸棲動物である。その分布域は、極圏にまで及ぶ。アラスカ州の恐竜研究を行い、当時の環境や生態系の復元、アジア-北米間における恐竜の移動の時期と種類を解明、恐竜やその他の動物の内温性の有無といったことを追求している。

4. 爬虫類（恐竜を含む）における子育ての進化

爬虫類は一般的に卵生であるが、何度も胎生を収斂進化させている。進化型の主竜類（ワニ類、鳥類を含む恐竜類）は比較的複雑な卵の構造を持ってお

り、胎生を行った形跡はないが、原始的なものには胎生のものもいた。また、鳥類に近い恐竜類は、雄が子育てをすることが知られているが、その特徴が爬虫類の進化の中でどこまでさかのぼれるのかは、未だ議論がある。原始的な主竜類を研究対象とすることで、卵生・胎生や雌・雄の子育ての進化が、いつどのように起こったのかを追求している。

5. マレーガビアルとマチカネワニの関係から見られる、ワニの進化

1964 年、大阪大学豊中キャンパス内から、全長 6 メートルを超す巨大ワニの化石が発見された。このワニは、現在のマレーガビアルの近縁種であることが、私の研究でわかっている。マレーガビアルは、ワニの現生種の系統関係を解く鍵であり、未だに議論が続いている。化石種を含むワニで最も近縁なものがマチカネワニであり、マチカネワニとマレーガビアルの研究によって、ワニ類の系統解析の研究が進むと考えられている。

6. むかわ町穂別地区から発見された植物食恐竜

2003 年、穂別町（現・むかわ町穂別）に分布する上部白亜系函淵層の海成層（約 7,200 万年前の外側陸棚堆積物）から植物食恐竜の尾骨が発見された。2013 年夏の発掘によって、全身骨格であることが確認された。白亜紀後期の恐竜全身骨格としては、国内で初めての発見だった。全長 8 メートル、体重 7 トンほどと推測され、巨大なハドロサウルス科の恐竜であることが判明した。現在、恐竜の研究を行っており、恐竜絶滅や進化の解明を行っている。

○2012 年・2013 年の研究・活動業績

<原著論文>（5 件）

Fiorillo, A.R., Adams, T. L. and Kobayashi, Y. 2012. New sedimentological, palaeobotanical, and dinosaur ichnological data on the palaeoecology of an unnamed Late Cretaceous rock unit in Wrangell-St. Elias National Park and Preserve, Alaska, USA. *Cretaceous Research*, 37: 291–299.

Tanaka, K., Lü, J., Liu, Y., Huang, Z. and Kobayashi, Y., Dong, H., Zelenitsky, D. K. 2012. Statistical approach for classification of dinosaur eggs from the Heyuan Basin at the northeast of Guangdong Province. *Acta Geologica Sinica*, 86: 294–303.

Zelenitsky, D. K., Therrien, F., Erickson, G. M., DeBuhr, C. L. and Kobayashi, Y., Eberth, D. A., Hadfield, F. in press Feathered non-avian dinosaurs from North America provide insight into wing origins. *Science*, 26: 510-514.

Cullen TM, Ryan MJ, Schröder-Adams C, Currie PJ, and Kobayashi Y. 2013. An

ornithomimid (Dinosauria) bonebed from the Late Cretaceous of Alberta, with implications for the behavior, classification, and stratigraphy of North American ornithomimids. PLoS ONE, 8(3): e58853. doi:10.1371/journal.pone.0058853

Pu, H., Kobayashi, Y.*, Lü, J., Xu, L. and Wu, Y. 2013. An unusual basal therizinosaur dinosaur with an ornithischian dental arrangement from northeastern China. PLoS ONE, 8(5): e63423. doi:10.1371/journal.pone.0063423 (*corresponding author)

< 著書・図録・目録・総説・解説・報告等 > (23件)

- 小林快次 (著), 2012. 恐竜時代I: 起源から巨大化へ. 224 pp. 岩波ジュニア新書.
- 小林快次 (監修), 2012. スーパービジュアル恐竜図鑑. 96 pp. 講談社.
- 小林快次 (監修), 2012. 恐竜王ティラノサウルス立体工作付き. 64 pp. NHK出版.
- 小林快次 (一部監修), 2012. 「NHK子ども科学電話相談 キッチンから宇宙まで ふしぎなんでもQ&A」. 128 pp. NHK出版協会.
- 小林快次 (協力), 2012. パレオントグラフィ「ティラノサウルスvsトリケラトプス」. 6月号, ニュートンプレス.
- 小林快次 (協力), 2012. パレオントグラフィ「ステゴサウルスvsアロサウルス」. 7月号, ニュートンプレス.
- 小林快次 (協力), 2012. パレオントグラフィ「ズケンティラヌスvsズケンゴサウルス」. 9月号, ニュートンプレス.
- 小林快次 (一部監修), 2012. 恐竜の時代: 1億6000万年の歴史パノラマ (改訂版), 160 pp. ニュートンムック (別冊), ニュートンプレス.
- 小林快次, 2013. 北米から発見された非鳥類型羽毛恐竜が与える羽毛起源に関する見解. 66 p. Japanese Scientists in Science 2012: サイエンス誌に載った日本人研究者, American Association for the Advancement of Science (AAAS).
- 小林快次 (著), 2013. ワニと恐竜の共存: 巨大ワニと恐竜の世界. 84 pp. 北海道大学出版.
- 小林快次 (監修), 2013. 最新版 恐竜の世界Q&A. 192 pp. 講談社.
- 小林快次 (監修)・土屋健 (著), 2013. そして恐竜は鳥になった; 最新研究で迫る進化の謎. 144 pp. 誠文堂新光社.
- 小林快次 (監修)・土屋健 (著), 2013. 大人のための「恐竜学」. 216 pp. 祥伝社.
- ダレン ネイシュ (著), 小林 快次 (監修), 2013. 恐竜ウルトラチャンピオン (ふしぎ! びっくり! チャンピオンシリーズ). 128 pp. 学研教育出版.

- 土屋 健 (著), 小林快次 (監修), 藻谷亮介 (監修), 佐藤たまき (監修), ロバート・ジェンキンス (監修), 小西卓哉 (監修), 平山廉 (監修), 大橋智之 (監修), 富田幸光 (監修), 2013. 大人の恐竜大図鑑. 111 pp. 洋泉社.
- 小林快次 (一部監修), 2013. NHK子ども科学電話相談スペシャル どうして? なるほど! 地球・宇宙のなぞ99. 144 pp. NHK出版.
- 小林快次, 2013. 北米初の羽毛恐竜化石発見: 翼の進化解明. 生物の科学 遺産, 5月号.
- 小林快次 (協力), 2013. パレオントグラフィ「デイノニクスvsテノントサウルス」. ニュートン, 3月号, ニュートンプレス.
- 小林快次 (協力), 2013. パレオントグラフィ「ファソラスクスvsレッセムサウルス」. 4月号, ニュートンプレス.
- 小林快次 (協力), 2013. パレオントグラフィ「ギガノトサウルスvsアルゼンティノサウルス」. 5月号, ニュートンプレス.
- 小林快次 (協力), 2013. ティラノサウルス: 血管や細胞まで発見! ? 最新研究で覆るイメージ. 9月号, ニュートンプレス.
- 小林快次, 2013. 鳥類の起源は植物食か肉食か? 生物と化学, 2月号.
- 小林快次, 2013. 恐竜研究の現在と『ウォーキングwithダイノソー』, ウォーキングwithダイノソー (映画パンフレット), 8-9 pp. 20世紀フォックス映画.

< 学会活動 > (5 件)

PALAIOS: Associate editor (2008~)

JOURNAL OF PALEONTOLOGICAL SOCIETY OF KOREA: Associate editor (2010~)

SOCIETY OF VERTEBRATE PALEONTOLOGY: Ethic Committee (倫理委員) (2011-2012)

PALEONTOLOGY JOURNAL: Associate editor (2012~)

日本古生物学会: 評議員 (平成 25 年~)

ASIAN JOURNAL OF GEOSCIENCES: Associate editor (2013~)

< 学会発表等 > (19 件)

小林快次, Yuong-Nam Lee, Junchang Lü, Michael Ryan, Phillip Currie, and Rinchen Barsbold. 2012. 「モンゴルの上部白亜系ネメグト層から発見されたオルニトミモサウルス類と胃石の進化」 日本古生物学会2012年年会 (愛知県・名古屋大学)

小林快次, Junchang Lü, Hanyong Pu, Li Xu, and Yanhua Wu. 2012. 「中国遼寧省の下部白亜系義県層から発見されたテリジノサウルス類と食性の進化」 日

本古生物学会2012年年会（愛知県・名古屋大学）

- Kobayashi, Y., Lü, J., Pu, H., Xu, L., and Wu, Y. 2012. 「ORNITHISCHIAN-LIKE DENTAL ARRANGEMENT IN A BASAL THERIZINOSAUR DINOSAUR FROM NORTHEASTERN CHINA」 72th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Raleigh, USA).
- Furui, S., Kobayashi, Y., and Chiba, K. 2012. 「A NEW TOMISTOMINE FROM THE OSAKA GROUP IN KISHIWADA CITY, OSAKA PREFECTURE, JAPAN」 72th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Raleigh, USA).
- Tanaka, T., Kobayashi, Y., Kano, M., and Kurihara, K. 2012. 「THE FIRST RECORD OF A HESPERORNITHIFORM FROM JAPAN」 72th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Raleigh, USA).
- Chiba, K., Brink, K., Kobayashi, Y., and Suzuki, D. 2012. 「MORPHOMETRICS OF RATITE FEMORA AND IMPLICATIONS FOR SEXUAL DIMORPHISM IN DINOSAURS」 72th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Raleigh, USA).
- Cullen, T., Ryan, M., Evans, D., Currie, P., and Kobayashi, Y. 2012. 「MULTI-ELEMENT HISTOLOGICAL ANALYSIS OF AN ORNITHOMIMID (DINOSAURIA) BONE BED FROM THE HORSESHOE CANYON FORMATION, ALBERTA」 72th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Raleigh, USA).
- 小林快次. 2013. 「北米大陸初の羽毛恐竜の発見と鳥類の翼起源の解明」 日本古生物学会162回例会（神奈川県・横浜国立大学）
- Kobayashi, Y., Lee, Y., Barsbold, R., Zelenitsky, D., and Tanaka, K. 2013. 「FIRST RECORD OF A DINOSAUR NESTING COLONY FROM MONGOLIA REVEALS NESTING BEHAVIOR OF THERIZINOSAUROIDS」 73th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Los Angeles, USA).
- Iijima, M., and Kobayashi, Y. 2013. 「CONVERGENCES AND TRENDS IN THE EVOLUTION OF THE ARCHOSAUR PELVIS」 73th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Los Angeles, USA).
- Sonobe, H., Kobayashi, Y., Lü, J., Barsbold, R., and Chiba, K. 2013. 「VERTEBRATE COPROLITES FROM THE GURVAN EREEN FORMATION (LOWER CRETACEOUS) IN TATAL, WESTERN MONGOLIA」 73th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Los Angeles, USA).
- Tanaka, T., Kobayashi, Y., Sasaki, K., and Chiba, K. 2013. 「AN ISOLATED FEATHER IN AN AMBER FROM THE LATE CRETACEOUS OF NORTHEAST JAPAN」 73th Annual Meeting of Society of Vertebrate

- Paleontology (Los Angeles, USA).
- Takasaki, R., Kobayashi, Y., and Chiba, K. 2013. 「REANALYSIS OF NIPPONOSAURUS SACHALINENSIS (ORNITHOPODA: DINOSAURIA) FROM UPPER CRETACEOUS OF SOUTHERN SAKHALIN AND ITS PHYLOGENETIC STATUS WITHIN LAMBEOSAURINAE」 73th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Los Angeles, USA).
- Chiba, K., Kobayashi, Y., Jacobs, L., Graf, J., and Tanaka, K. 2013. 「A ROBUST DESMOSTYLID FROM HOKKAIDO, JAPAN, AND THE FEEDING STYLE OF DESMOSTYLIDS」 73th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Los Angeles, USA).
- Yoshida, J., Carpenter, K., and Kobayashi, Y. 2013. 「NEW SAUROPOD FROM THE CEDAR MOUNTAIN FORMATION OF UTAH, USA」 73th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Los Angeles, USA).
- Lee, Y., Barsbold, R., Currie, P., Kobayashi, Y., Lee, H. 2013. 「NEW SPECIMENS OF *DEINOCHEIRUS MIRIFICUS* FROM THE LATE CRETACEOUS OF MONGOLIA」 73th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Los Angeles, USA).
- 小林快次, Yuong-Nam Lee, Rinchen Barsbold, Darla Zelenitsky, 田中康平. 2014. 「モンゴルから初めて発見された恐竜営巣地でのテリジノサウルス類巣行動の解明」 日本古生物学会163回例会 (神奈川県・横浜国立大学)
- 小林快次, 西村智弘, 櫻井和彦, 千葉謙太郎, 田中康平, 佐藤たまき. 2014. 「北海道むかわ町穂別の上部白亜系函淵層 (マーストリヒチアン階) から発見されたハドロサウルス科恐竜化石発見の報告」 日本古生物学会163回例会 (神奈川県・横浜国立大学)
- Anthony Fiorillo, 小林快次, Stephen Hasiotis. 2014. 「米国アラスカ州から発見された恐竜メガトラックサイト：極圏恐竜行動についての意義」 日本古生物学会163回例会 (神奈川県・横浜国立大学)

<一般講演・セミナー発表> (18 件)

- 高橋英樹・大原昌宏・小林快次, 2012. 「博物館資料の重要性 ～東日本大震災の津波被害を受けた博物館資料のレスキューから考えること」. 東日本大震災と自然史系博物館、被災自然史標本の修復技法と博物館救援体制を考える研究集会. 西日本自然系博物館ネットワーク、日本学術会議自然史・古生物学分科会、大阪市立自然史博物館主催[大阪市立自然史博物館講堂]. 2012年4月30日. [ポスター発表].
- 小林快次, 2012. 「鳥を目指した恐竜」. 日本古生物学会第162回例会普及特別

講演．（招待講演）

小林快次，2012．「恐竜の鳥類化」．日本地球惑星科学連合秋の公開講演会：富士山・オーロラ・恐竜科学の最前線．（招待講演）

小林快次，2012．「ワニと恐竜の共進化」．大阪大学総合学術博物館．（招待講演）

小林快次，2012．「恐竜と巨大ワニ、どっちが強い！？」．第21回サイエンスカフェforキッズ，大阪府豊中市（招待講演）

小林快次，2012．「恐竜調査と最新恐竜研究」．清陵サイエンスフォーラム21（長野県清陵高校）（招待講演）

小林快次，2012．「ティラノサウルスと巨大ワニの争い」．道新ぶんぶんクラブ，北海道大学総合博物館．

小林快次，2012．「ティラノサウルスと巨大ワニの戦い」．サイエンスフォーラムinさっぽろ，札幌市中央図書館．

Yoshitsugu Kobayashi, 2013. 「Ornithomimids at the end of Cretaceous」. 15th Annual PaleoFest Symposium, Burpee Museum. （招待講演）

小林快次，2013．「恐竜とワニどっちが強い？」．帯広市児童会館（招待講演）

小林快次・江口太郎，2013，「恐竜ウィークオープニング対談：やっぱり恐竜っておもしろい！」THE世界一展，梅北ノレッジキャピタル．（招待講演）

小林快次，2013．「求愛のツバサ！羽毛恐竜の発見」．THE世界一展，梅北ノレッジキャピタル．（招待講演）

小林快次，2013．「メディアに見る恐竜の世界観」．THE世界一展，梅北ノレッジキャピタル．（招待講演）

小林快次，2013．「世界の恐竜研究最前線！THE世界一展」梅北ノレッジキャピタル．（招待講演）

小林快次，2013．「ワニと恐竜：2億3千万年の共進化」．道新ぶんぶんクラブ，北海道大学総合博物館．

小林快次，2013．「フィールドと最新恐竜研究：恐竜発掘の現場から」．大阪大学総合学術博物館．（招待講演）

小林快次，2013．「恐竜の最新研究」．企画展関連セミナー，北海道大学総合博物館．

小林快次，2013．「ワニと恐竜の進化と共存」．UHB大学講座．

小林快次，2013．「家族で学ぼう“恐竜楽”」．けいはんなプラザ．

<教育活動>

学位論文主査・副査：

・理学院 自然史科学専攻 地球惑星システム科学講座担当：平成24年度（修

士論文指導主査1名) 平成25年度(修士論文指導主査2名)

指導学生・授業等:

・教育(各学年の学部・研究科指導学生数)

2012年 学部2名、研究科4名(修士2名、博士2名)(理学研究科、兼任)

2013年 学部2名、研究科6名(修士4名、博士2名)(理学研究科、兼任)

授業等: (10件)

全学教育 複合科目「生物の多様性」(分担)(2012, 2013)

全学教育 基礎科目「自然科学実験」(分担)(2012, 2013)

理学部地球科学科選択必修科目「古生物学」(分担)

理学部地球科学科選択必修科目「地質学実習」(分担)

理学部地球科学科選択必修科目「地球惑星科学実習」(分担)

理学院共通科目「地球惑星システム科学概論」(分担)

大学院共通科目「新自然史科学特別講義〜地球と生命の自然史」(分担)(2012, 2013)

大学院共通科目「博物館学特別講義I」(分担)(2012, 2013)

大学院共通科目「博物館学特別講義II」(分担)(2012, 2013)

学芸員養成過程授業「博物館学芸員実習指導」(2012, 2013)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等 (5件)

総合博物館運営委員会委員、総合博物館点検評価委員会委員、学術標本検討専門委員会委員、企画展示専門委員会委員、ミュージアムショップ運営委員

博物館教育 (6件)

パラタクソノミスト養成講座 化石(初級)(2012年1回; 2013年5回)

博物館企画展示 (8件)

企画展示名:「巨大ワニと恐竜の世界」2012年(主担当)、会場:大阪大学総合学術博物館 3階企画展示室、期間:2012年4月7日(土)から6月30日(土)

企画展名:「地球最古の恐竜展」2012年(監修)、会場:台湾中正記念堂、NHK・NHKプロモーション.

企画展示名:「中谷宇吉郎没後50年記念事業:人工雪の誕生の地の碑」2012年(副担当)、会場:北海道大学総合博物館 1階「知の統合」コーナー、期間:2012年6月5日(火)から7月29日(日)

企画展示名:「中谷宇吉郎没後50年記念事業:雪と氷の科学者 中谷宇吉郎展」

2012年（副担当）、会場：北海道大学総合博物館 1階「知の統合」コーナー、期間：2012年10月2日（火）から12月2日（日）
企画展示名：「中谷宇吉郎没後50年記念事業：雪のデザイン展」2013年（副担当）、会場：北海道大学総合博物館 1階「知の統合」コーナー、期間：2013年1月29日（火）から2月17日（日）
企画展示名：「日本にいた！“絶滅”古生物」2013年（一部監修）、会場：大阪大学総合学術博物館 3階企画展示室、期間：2013年7月20日（土）から8月31日（土）
企画展示名：「フカシギの数え方」2013年（副担当）、会場：北海道大学総合博物館 2階企画展示第2会場、期間：2013年7月9日（火）から2014年4月6日（日）
企画展示名：「巨大ワニと恐竜の世界」2013年（主担当）、会場：北海道大学総合博物館 3階企画展示室と1階「知の統合」コーナー、期間：2013年7月19日（金）から10月27日（日）

<社会貢献>（3件）

大阪大学総合学術博物館外部評価委員
大学博物館等協議会巡回展ワーキンググループ
文部科学省教科用図書検定調査審議会専門委員（平成25年～）

<外部資金>（4件）

【代表】小林快次：科学研究費「恐竜の食性復元と鳥類起源におけるその意義」（2012-）平成24年度-平成26年度

【副担当】大原昌宏：JST受託研究 科学技術コミュニケーション推進事業 ネットワーク形成地域型「科学系博物館・図書館の連携による実物科学教育の推進」平成24年度-平成26年度

【分担】Anthony Fiorillo（米国ペロー博物館）アメリカ合衆国国立公園局の研究費、「アラスカ州デナリ国立公園恐竜調査」（2012、2013）

【分担】Anthony Fiorillo（米国ペロー博物館）アメリカ合衆国国立公園局の研究費、「アラスカ州ユーコンチャリー川恐竜調査」（2013）

山本順司

Yamamoto Junji

資料開発研究系 准教授

○研究内容の概要

1. 地球内部構造から探る太陽系の形成過程

地球内部には、地球が形成された頃から滞留し続けている始原的成分が存在する可能性がある。そこで、地球深部から湧き上がる溶岩を解析すると隕石的な化学組成が検出され、特に、ハワイの溶岩からは炭素質コンドライトと極めて類似した同位体組成を検出するに至った。地球内部の対流様式や温度構造、地球の将来を考える上で極めて重要な制約になるであろう。

2. 超高精度地質圧力計の開発

地球を理解する方途の1つとして、地球を掘削する手法が考えられている。しかし、人類が到達した深度はわずか12 kmに過ぎない。そこで我々は、マグマが運び上げた火道の岩石（捕獲岩）を用い、地球深部の諸情報を取得する研究を進めている。この研究において最も重要な要素は、捕獲岩の由来深度を決める手法の精度である。我々は捕獲岩に含まれている微細な流体の残留圧力を分光学的手法によって極めて精密に決定する手法を開発した。これにより、地球深部数十 km からもたらされた捕獲岩の由来深度を100 m オーダーの精度で決定することが可能となりつつある。

3. 初等・中等教育に適用できる地学教材の開発

地学分野では、我々の日常とは掛け離れた時空スケールの事象を扱うことが多く、特に初等および中等教育において、実験したり実物試料を取り扱ったりする際に困難を伴うことが多い。その隘路を打ち破るべく、当館の地学ボランティアと協力し、本物の地学事象を室内で安全に再現できる学校教材の開発を行った。ターゲットにした事象は、風化の一種である凍結融解現象である。凍結融解現象は、岩石に含まれる水の凍結と融解が岩石を弱化させていく現象であり、北海道など北国の土地の形成過程を考える上で最も重要な現象の1つである。天然では数十年以上の時間スケールで起こる現象であるが、これを室内において30分間程度で再現させることができる教材として確立させた。

○2012年・2013年の研究・活動業績

<原著論文> (8件)

Yamamoto J., Nishimura K., Ishibashi H., Kagi H., Arai S. and Prikhod'ko V.S., 2012.

- Thermal structure beneath Far Eastern Russia inferred from geothermobarometric analyses of mantle xenoliths: direct evidence for high geothermal gradient in backarc lithosphere. *Tectonophysics*, 554–557: 74–82.
- Kobayashi T., Yamamoto J., Hirajima T., Ishibashi H., Hirano N., Lai Y., Prihod'ko V.S. and Arai S., 2012. Accuracy and precision of CO₂ densimetry in CO₂ inclusions: microthermometry vs. micro-Raman densimetry. *Journal of Raman Spectroscopy*, 43: 1126–1133.
- Toyama C., Muramatsu Y., Yamamoto J., Nakai S. and Kaneoka I., 2012. Sr and Nd isotope ratios and trace element concentrations in kimberlites from Shandong and Liaoning (China) and the Kimberley area (South Africa). *Geochem. J.*, 46: 45–59.
- Ishibashi H., Arakawa M., Yamamoto J. and Kagi H., 2012. Precise determination of Mg/Fe ratios applicable to terrestrial olivine samples using Raman Spectroscopy. *Journal of Raman Spectroscopy*, 43: 331–337.
- 下岡順直, 三好雅也, 山本順司, 三好まどか, 竹村恵二, 2012. 海浜砂の多種選別分析法による後背地地質推定プログラム. *地学教育*, 65: 51-61.
- 山本順司, 徳永彩未, 下岡順直, 2012. 環境教育における地球深部炭素の教材性に関する研究. *環境教育*, 21: 64-73.
- Miyoshi M., Shinmura T., Sumino H., Sano T., Miyabuchi Y., Mori Y., Inakura H., Furukawa K., Uno K., Hasenaka T., Nagao K., Arakawa Y. and Yamamoto J., 2013. Lateral magma intrusion from a caldera-forming magma chamber: Constraints from geochronology and geochemistry of volcanic products from lateral cones around the Aso caldera, SW Japan. *Chemical Geology*, 352: 202–210.
- Shitaoka Y., Miyoshi M., Yamamoto J., Shibata T., Nagatomo T. and Takemura K., 2013. Thermoluminescence age of quartz xenocrysts in basaltic lava from Oninomi monogenetic volcano, northern Kyushu, Japan. *Geochronometria*, in press.

< 著書・図録・目録等 > (1件)

- 徳永彩未・山本順司, 2013. 東日本大震災に対する環境教育の応答性を探る ―サイエンスカフェを例に―. 東日本大震災後の環境教育 (日本の環境教育) 日本環境教育学会編 (分担執筆) p.86–93. 東洋館出版社.

< 総説・解説・報告等 > (3件)

- 山本順司, 石橋秀巳, 2012. マントルウェッジ炭素の起源を考える. *地球化学*, 46: 243–255.

下岡順直, 山本順司, 2012. 温泉熱源における時間情報の解読: 熱ルミネッセンス法による鬼箕単成火山の噴火活動年代の推定. 大分県温泉調査研究会報告, 63: 47-53.

下岡順直, 三好雅也, 山本順司, 2013. 温泉熱源における時間情報の解読II: 姫島明神山火山岩片のルミネッセンス年代測定. 大分県温泉調査研究会報告, 64: 25-32.

< 学会活動 >

所属学会

日本地球惑星科学連合, 日本地球化学会, 日本鉱物科学会, 日本地質学会, 東京地学協会, 日本環境教育学会, 日本地学教育学会, American Geophysical Union, The Geochemical Society

< 学会発表等 > (7 件)

山本順司, 2012. 「背弧リソスフェアから推察する海洋リソスフェアの行く末」. 研究集会「地球の選択」, 2012年11月17日, 兵庫県神戸市 (神戸大学).

山本順司, 2012. 「プチスポット捕獲岩から探る海洋リソスフェアと海洋アセノスフェア」. マントル掘削勉強会, 2012年11月19日, 東京都港区 (JAMSTEC 東京事務所).

山本順司, 平野直人, Curtice J., Kurz M.D., 2012. 「チリ沖プチスポットの希ガス同位体組成」. 質量分析学会同位体比部会, 2012年11月22日, 宮城県仙台市 (秋保温泉 伝承千年の宿 佐勘).

湯浅万紀子, 山本順司, 2013. 「大学博物館と学校との連携—北海道大学総合博物館の現状と課題、そして可能性」. 理科教育学会シンポジウム「理科教育から見た博物館利用の問題点を考える」, 2013年8月11日, 北海道札幌市 (北海道大学総合博物館).

Yamamoto J., Hirano N., Kurz M.D., 2013. 「Noble gas isotopic compositions of newly discovered petit spot basalts」. DINGUE, 2013年8月24日, University of Florence, Florence, Italy.

山本順司, 大藤弘明, 石橋秀巳, 吉岡貴浩, 西原遊, 大内智博, 2013. 「流体包有物を使った鉱物の変形強度解析」. 日本鉱物科学会年会, 2013年9月12日, 茨城県つくば市 (筑波大学).

山本順司, 2013. 「海の捕獲岩から探る海洋リソスフェア」. 金沢オフィオライトシンポジウム, 2013年12月19日, 石川県金沢市 (石川県四高記念文化交流館).

<一般講演・セミナー発表> (8件)

- 山本順司・仲野誠, 2012. 「地球科学者と天文学者が聞いたイトカワ微粒子の声」
日本宇宙少年団おおいた分団主催「地球科学講話&宇宙科学講話」, 2012年
3月10日, 大分県大分市 (大分工業校等専門学校) .
- 山本順司, 2012. 「地球内部と空気・太陽の相互影響」日本宇宙少年団おおいた
分団主催「地球科学講話&宇宙科学講話」, 2012年3月10日, 大分県大分市 (大
分工業校等専門学校) .
- 山本順司, 2012. 「空気と大気」大分豊府中学校理科ワントピック授業, 2012年3
月14日, 大分県大分市 (大分豊府中学校) .
- 山本順司, 2012. 「空気と大気 ―環境問題に加担する地球内部―」北海道大学
総合博物館土曜市民セミナー, 2012年7月14日, 北海道札幌市 (北海道大学総
合博物館) .
- 山本順司, 2012. 「地球を科学する」北海道新聞ぶんぶんクラブ主催「第3回エ
ルムの杜の宝もの」, 2012年8月25日, 北海道札幌市 (北海道大学総合博物館)
- 山本順司, 2013. 「地球を科学する」北海道大学総合博物館ボランティア講座,
2013年2月23日, 北海道札幌市 (北海道大学総合博物館) .
- 山本順司, 2013. 「地球体感教材開発プロジェクト」北海道大学総合博物館地学
ボランティア講座, 2013年5月14日, 北海道札幌市 (北海道大学総合博物館)
- 山本順司, 2013. 「地球を体感する教材開発プロジェクト」北海道大学平成遠友
夜学校, 2013年6月18日, 北海道札幌市 (北海道大学平成遠友学舎) .

<教育活動>

学位論文主査・副査:

- ・理学院 自然史科学専攻 地球惑星システム科学講座担当:
平成24年度 (修士論文指導主査2名、博士論文指導副査2名)
平成25年度 (博士論文指導主査1名)

指導学生・授業等:

- ・教育 (各学年の学部・研究科指導学生数)
2012年 学部1名、研究科4名 (修士2名、博士2名) (理学研究科、兼任)
2013年 学部1名、研究科1名 (修士0名、博士1名) (理学研究科、兼任)

授業等:

理学部専門科目

- 「鉱床学」 (主担) (2012, 2013)
- 「地球惑星科学実験1」 (分担) (2012, 2013)
- 「地球惑星科学研究I・II」 (分担) (2012, 2013)

「地球惑星科学文献購読I・II」 (分担) (2012, 2013)

理学院科目

「資源地質科学」 (主担) (2012, 2013)

「地球惑星システム科学概論」 (分担) (2012)

「自然史科学特別研究I・II・III・IV・V」 (分担) (2012, 2013)

「自然史科学論文購読I・II・III・IV・V」 (分担) (2012, 2013)

大学院共通授業科目

「博物館学特別講義I (学術標本・資料学)」 (分担) (2012, 2013)

全学教育

総合科目「北大大学博物館で学ぼう「コレクション・もの」にこだわる科学」
(分担) (2012)

一般教育演習「北大総合博物館で学ぼうー博物館のバックヤードを知るー」
(分担) (2012)

一般教育演習「博物館情報メディア」 (分担) (2012, 2013)

学部・大学院教育

「博物館資料保存論」 (分担) (2013)

「博物館学芸員実習」 (分担) (2012, 2013)

非常勤講師等

2013年10月筑波大学大学院生命環境科学研究科「地質学特別講義III」 (分担)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等 (4件)

総合博物館運営委員会委員 (2012.4-現在)

展示専門委員会委員 (2012.4-現在)

ミュージアムショップ運営委員(2012.4-現在)

札幌農学校第2農場の一般公開に関する専門委員会 (2012.4-現在)

博物館教育

(出前講座5件)

北海道大学総合博物館 博物館まつり「磨」2013年3月17日, 北海道札幌市
(北海道大学総合博物館)

北海道大学総合博物館 宇宙の4Dシアター「惑星と衛星ーまどう星たちー」2013年9月21日, 北海道札幌市 (北海道大学総合博物館)

動物園科学の日ーサイエンZOOー「ビーズでつくるニジの世界」2013年10月12-13日, 北海道札幌市 (札幌市立円山動物園)

手稲高校インターン事業「地球を科学する」2013年10月24日, 北海道札幌

市（北海道大学総合博物館）

北海道大学総合博物館 宇宙の4Dシアター「僕の生まれた場所 ～星と命の物語～」2013年12月23日、北海道札幌市（北海道大学総合博物館）

（教材開発活動 全14回）

「凍結融解教材開発」2013年6月4日、7月4日、7月18日、8月8日、8月21日、9月19日、10月1日、10月9日、10月25日、11月2日、11月22日、12月10日、12月16日、12月27日

博物館展示企画：

2012年度（2件）

企画展示名：北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」第7期企画展示「北極圏のコミュニケーションー境界を越えるサミ」（主担当）、会場：北海道大学総合博物館2階GCOE展示ブース、期間：2012年5月25日（金）から12月27日（金）

企画展示名：北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」第8期企画展示「知られざるクリル・カムチャツカーロシアから見た境界のイメージ」（主担当）、会場：北海道大学総合博物館2階GCOE展示ブース、期間：2013年1月25日（金）から5月26日（日）

2013年度（4件）

企画展示名：地質の日記念企画展示「豊平川と共に-その恵みと脅威-」（主担当）、会場：北海道大学総合博物館1階知の統合コーナー、期間：2013年4月23日（火）から6月2日（日）

企画展示名：北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」第9期企画展示「境界研究：日本のパイオニアたち」（主担当）、会場：北海道大学総合博物館2階GCOE展示ブース、期間：2013年6月1日（土）から10月27日（日）

企画展示名：「白夜の北極・グリーンランド展」（主担当）、会場：北海道大学総合博物館1階知の交流コーナー、期間：2013年11月1日（金）から11月24日（日）

企画展示名：北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」第10期企画展示「北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」の歩み」（主担当）、会場：北海道大学総合博物館3階特別展示室および2階GCOE展示ブース、期間：2013年11月10日（日）から3月30日（日）

セミナー・シンポジウム開催（企画、運営）：

2012 年度

- (1)グローバルCOEセミナー（全10回）．北海道大学総合博物館，北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界」共催 [北海道大学総合博物館]. 2012年4月21日, 5月26日, 6月16日, 8月18日, 9月15日, 10月20日, 11月17日, 12月15日, 2013年1月26日, 2月16日
- (2)北海道大学総合博物館宇宙の4Dシアター（全3回）．北海道大学総合博物館主催 [北海道大学総合博物館]. 2012年7月13日, 11月4日, 3月17日
- (3)博物館まつり．北海道大学総合博物館主催 [北海道大学総合博物館]. 2013年3月16日-17日

2013 年度

- (1)グローバルCOEセミナー（全10回）．北海道大学総合博物館，北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界」共催 [北海道大学総合博物館]. 2013年4月20日, 5月18日, 6月15日, 7月20日, 9月21日, 10月19日, 11月16日, 12月21日, 1月18日, 2月15日
- (2)北海道大学総合博物館宇宙の4Dシアター（全5回）．北海道大学総合博物館主催 [北海道大学総合博物館]. 2013年7月19日, 8月11日, 8月17日, 9月21日, 12月23日

博物館各種担当

博物館ホームページ担当

サステナビリティウィーク担当

募金促進担当

標本担当（鉱物・岩石・鉱石・機器・美術資料）

ボランティア担当（地学・4Dシアター・ハンズオン展示）

<学内各種委員> （1件）

サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト実行委員（平成24～25年度）

<社会貢献> （2件）

- 1. 大分県温泉調査研究会 委員（平成24～25年度）、
- 2. 大分に青少年科学館を作る会 事務局メンバー（平成24～25年度）

＜外部資金＞（5件）

2012年度

【代表】山本順司：科学研究費補助金，挑戦的萌芽研究「高圧発生装置を用いない高圧実験法の開発」平成23年度－平成25年度

【分担】科学研究費補助金，基盤研究（B）「沈み込み帯の流体学：海洋－スラブ－マントル系での塩水の移動と化学組成（代表：川本竜彦）」平成24年度－平成25年度

2013年度

【代表】山本順司：科学研究費補助金，基盤研究（B）「捕獲岩の温度圧力情報から探る100mオーダーのリソスフェア構造」平成25年度－平成27年度

【代表】山本順司：科学研究費補助金，挑戦的萌芽研究「高圧発生装置を用いない高圧実験法の開発」平成23年度－平成25年度

【分担】科学研究費補助金，基盤研究（B）「沈み込み帯の流体学：海洋－スラブ－マントル系での塩水の移動と化学組成（代表：川本竜彦）」平成24年度－平成25年度

＜共同研究＞

2012年度

東京大学大気海洋研究所 外来研究員

2013年度

東京大学大気海洋研究所 外来研究員

愛媛大学 地球深部ダイナミクス研究センター「先進超高圧科学研究拠点」設備利用型共同研究採択

＜賞罰＞

2012年度

日本地学教育学会 学術奨励賞優秀論文賞

2013年度

日本地学教育学会 学術奨励賞教育実践優秀賞

江田真毅

EDA Masaki

資料開発研究系 講師

○研究内容の概要

1. 中国における家禽飼育の歴史の解明

ニワトリ、アヒル、シナガチョウの飼育は、考古資料から約7,500年前～約6,000年前（新石器時代）の中国において、世界で最初にはじまったとされている。しかし、これらの見解には疑義も呈されており、新たな資料の分析や資料の再検討が求められている。中国における家禽飼育の歴史を明らかにするために、袁靖氏（中国社会科学院考古研究所科技考古センター）や松井章氏、菊地大樹氏（ともに奈良文化財研究所埋蔵文化財センター）らとの共同研究として、新石器時代の中国の遺跡から出土した鳥類遺体の分析をおこなった。

2. ナスカの地上絵に描かれた鳥類と利用された鳥類の解明

ナスカの地上絵は、主にナスカ期（約2,100年前～1,300年前）にペルー南部の砂漠台地に描かれた一連の図像群で、世界遺産（文化遺産）にも登録されている。ナスカ社会は文字を持たない文化であったことなどから、これらの図像が何の目的で描かれたのか、描かれたものは何かなどはよくわかっていない。これまで、全体的な印象やごく少数の特徴的な形態形質を根拠に同定されてきた鳥類の図像を複数の形態形質に基づいて再検討した。また、ナスカにあるほぼ同時期のカワチ神殿遺跡から出土した鳥類遺体を分析した。坂井正人教授（山形大学人文学部）やDr. Giuseppe Orefici（アントニーニ博物館）などとの共同研究。

3. 日本国内の遺跡から出土した鳥類骨の分析

大友府内町跡遺跡（大分県大分市・江戸時代）、カラカミ遺跡（長崎県壱岐市・弥生時代）、土井ヶ浜遺跡（山口県下関市・弥生時代）、青谷上寺地遺跡（鳥取県鳥取市・弥生時代）、小竹貝塚（富山県富山市・縄文時代前期）、尻労安部遺跡（青森県東通村・縄文時代中期）から出土した鳥類遺体を調査した。資料中に含まれる分類群の構成や解体・加工の痕跡などに基づいて各遺跡を形成し

た人々の活動域や狩猟技術、生業の季節性などについて動物考古学の観点から検討するとともに、考古動物学的視点から過去の鳥類相を明らかにした。

4. 骨の同定基準の作成

キジ科やカモ科資料の同定のために、奈良文化財研究所、山階鳥類研究所、スミソニアン博物館においてキジ科およびカモ科の現生骨格標本を調査した。また、骨形態の肉眼比較だけでなく、幾何学的形態測定のひとつである薄板スプライン法や、鉛蓄積量の分析、骨髓骨の組織学的分析、古代DNA分析のための基礎データの収集などの理化学的手法も取り入れて、遺跡資料の同定基準の作成に取り組んだ。

5. アホウドリの保全遺伝学的研究

アホウドリ (*Phoebastria albatrus*) は特別天然記念物の海鳥で、主に伊豆諸島鳥島と尖閣諸島（南小島と北小島）で繁殖する。これまでの研究から、鳥島と尖閣諸島で生まれたアホウドリは別の集団を形成している可能性が示唆されているが、両集団の関係性はまだ未解明な点が多い。佐藤文男氏や出口智広氏（ともに山階鳥類研究所）、泉洋江氏（北海道大学理学院）らとの共同研究として、遺伝的、生態的、形態的観点から両集団の関係性について検討した。

○2012 年・2013 年の研究・活動業績

<原著論文>（8 件）

Takanashi, Y., Eda, M., Kaidoh, T., and Inoué, T., 2012. A Case of the Bilateral Duplicate Palmaris Longus Muscles Coupled with the Palmaris Profundus Muscle. Yonago Acta Medica, 55: 75-80.

Eda, M., Kaidoh, T., Takanashi, Y., and Inoué, T., 2012. A stone-like ovarian dermoid cyst in the Douglas' Pouch of an elderly woman. Pathology International, 62: 771-773. DOI:10.1111/pin.12002.

Kawakami, K., Eda, M., Horikoshi, K., Suzuki, H., Chiba, H., and Hiraoka, T., 2012. Bryan's shearwaters have survived on the Bonin Islands, northwestern Pacific. Condor, 114: 507-512. DOI: <http://dx.doi.org/10.1525/cond.2012.110196>.

江田真毅, 2013. 幾何学的形態測定によるカモ科上腕骨の同定に関する基礎的研究. 動物考古学, 30: 337-359.

邓惠 袁靖 宋国定 王昌燧 江田真毅, 2013. 中国古代家鸡的再探讨 (The

reexamination of the domestic chicken in ancient China) 考古, 2013年第6期: 83-96.

Eda, M., Shimada, T., Amano, T., Ushiyama, K., Mizota, C. and Koike, H., 2013. Phylogenetic relationship of the Greater White-fronted Goose *Anser albifrons* subspecies wintering in the Palaearctic region. Ornithological Science, 12: 35-42. DOI: <http://dx.doi.org/10.2326/osj.12.35>

(2014 UniBio Press Award for Ornithological Science受賞)

江田真毅・別所秀高・井上貴央, 2014.大阪府宮ノ下遺跡出土資料からみた先史時代の河内平野における鳥類利用. 動物考古学, 31: 21-32

江田真毅・鳥飼久裕・木村健一・阿部慎太郎・小池裕子, 2014.標識個体の遺伝的性判別からみたアマミヤマシギ *Scolopax mira* の行動と形態の性差. 日本鳥学会誌, 63: 1-7, DOI: 0.3838/jjo/63.1

Eda, M., Kodama, Y., Ishimaru, E., and Yoneda, M., (in press) Lead concentration in archaeological animal remains from the Edo period, Japan: Is the lead concentration of archaeological goose bone a reliable indicator of domestic birds? International Journal of OsteoArchaeology. DOI: 10.1002/oa.2369.

Eda, M., Yashima, S., and Inoué, T., (in press) Medullary bone in goose remains: A reliable indicator of domestic individual in non-breeding regions. International Journal of OsteoArchaeology. DOI: 10.1002/oa.2355.

<総説・解説・報告等> (7件)

江田真毅, 2014.青谷上寺地遺跡第13次調査出土の鳥類遺体について.『青谷上寺地遺跡13—第13次・第14次発掘調査報告書—』森本倫弘編, 鳥取県埋蔵文化財センター. Pp. 314-31.

山崎健・丸山真史・菊地大樹・江田真毅・松崎哲也・三輪みなみ, 2014.脊椎動物遺存体.『小竹貝塚発掘調査報告—北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告X, 第二分冊. 自然科学分析編』富山県文化振興財団. 埋蔵文化財調査事務所. Pp. 228-278.

江田真毅・井上貴央, 2014.土井ヶ浜遺跡1号人骨に伴う鳥骨の再検討について.『土井ヶ浜遺跡 第1次～第12次発掘調査報告書 第3分冊 特論・総括編』.下関市教育委員会・土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム. Pp. 137-146.

岩波 連・江田真毅, 2013.北海道大学総合博物館収蔵の海棲哺乳類標本について」勇魚, 59: 2-4.

川上和人・鈴木創・堀越和夫・千葉勇人・江田真毅・平岡考, 2013. オガサワラ

ヒメミズナギドリが見つからなかったのには理由がある．私たちの自然，
54: 3-5.

丸山真史・池田研・江田真毅・松井章, 2013. 中世大友府内町跡における動物利用. 『豊後府内17 中世大友府内町跡第88・95次調査～一般国道10号古国府拡幅に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (8)』大分県教育庁埋蔵文化財センター. Pp. 415-423.

江田真毅, 2013. 中世大友府内町跡から出土した鳥類について『豊後府内17 中世大友府内町跡第88・95次調査～一般国道10号古国府拡幅に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (8)』大分県教育庁埋蔵文化財センター. Pp. 395-398.

丸山真史・松崎哲也・松井章・江田真毅・覚張隆史・米田穰, 2013. カラカミ遺跡から出土した動物遺存体『壱岐カラカミ遺跡IV カラカミ遺跡第5～7地点の発掘調査 (1977年・2011年)』宮本一夫編. Pp. 215-235.

江田真毅・樋口広芳, 2012. 危急種アホウドリ *Phoebastria albatrus* は2種からなる!? 日本鳥学会誌, 61: 263-272. DOI:10.3838/jjo.61.263

川上和人・平岡考・千葉勇人・鈴木創・堀越和夫・江田真毅, 2012. オガサワラヒメミズナギドリ発見記 Birder, 06 2012 June: 46-47.

< 学会活動 >

日本動物考古学会、北海道考古学会、International Council for Archaeozoology、
日本鳥学会

< 学会発表等 > (10 件)

Eda, M., Kodama, Y., Ishimaru, E. and Yoneda, M., 2012. Is the analysis of lead concentration in archaeological goose bone a reliable indicator of domestic bird? Seventh Meeting of the Bird Working Group of ICAZ, Iasi University, Romania, 29th Aug. 2012.

江田真毅・小玉悠平・石丸恵利子・米田 穰, 2012. 「骨中鉛濃度の測定による遺跡出土のガチョウ識別の試み」日本鳥学会大会、東京大学、2012年9月17日。

川上和人，鈴木創，堀越和夫，千葉勇人，江田真毅，平岡考, 2012. 「太平洋は広いーオガサワラヒメミズナギドリ（仮称）は何処にいる？」日本鳥学会大会、東京大学、2012年9月15日。

江田真毅, 2012. 「列島へのニワトリの導入とその意図に関する一考察」日本人類学会大会、慶應大学、2012年11月2日。

上 奈穂美・江田真毅・豊原熙司・坂井通子・松田 功, 2012. 「オホーツク文化

- の生業の変容—北海道斜里町カモイベツ遺跡を中心に—」動物考古学研究集会、国立歴史民俗博物館、2012年11月10日。
- 江田真毅・羅運兵・袁靖, 2012.「中国湖北省襄陽・菜越遺跡出土のニワトリについて」動物考古学研究集会、国立歴史民俗博物館、2012年11月11日。
- Eda, M., Koike, H. and Higuchi, H., 2013. Maritime adaption of hunter-gatherers in Japan based on ancient DNA identification of the exploited albatross (Aves: Diomedidae) species. 19th Annual Meeting of the European Association of Archaeologists, University of West Bohemia, Pilsen, Czech Republic, 8th Sep. 2013.
- 泉洋江・江田真毅・出口智広・尾崎清明, 2013.「鴎島の再導入コロニーで初卵を産んだアホウドリの母系系統」日本鳥学会、名城大学、2013年9月14日。
- 江田真毅・泉洋江・今野怜・今野美和・佐藤文男, 2013.「鳥島における尖閣諸島生まれのアホウドリの伴侶」日本鳥学会、名城大学、2013年9月15日。
- 江田真毅・菊地大樹・袁靖, 2013.「中国磁山遺跡出土のニワトリの再検討」日本動物考古学会、慶應大学、2013年11月16日。

<一般向け講演・セミナー発表等> (10件)

- 江田真毅, 2012.「遺跡から出土した骨の博物学—動物考古学と考古動物学—」ボランティア交流会、北海道大学総合博物館、2012年6月17日。
- 江田真毅, 2012.「遺跡から出土したガンの骨の博物学」平成遠友夜学校、北海道大学総合博物館、2012年10月16日。
- 江田真毅, 2012.「ナスカの地上絵に描かれた鳥類の同定」ボランティア談話会、北海道大学総合博物館、2012年11月30日。
- 江田真毅, 2013.「考古動物学から考えるアホウドリの歴史」土曜市民セミナー、北海道大学総合博物館、2013年2月9日。
- 江田真毅, 2013.「キャンパスの遺跡散策」第1回 エルムの杜の宝もの、北海道大学総合博物館、2013年4月27日。
- 江田真毅, 2013.「考古動物学からアホウドリの歴史を探る」日本動物学会北海道支部公開シンポジウム「最新技術による動物の進化と歴史の探求」、北海道大学総合博物館、2013年5月25日。
- 江田真毅, 2013.「特別授業 浜中2遺跡に関する学習—動物考古学—」北海道立礼文高校、2013年7月23日。
- 江田真毅, 2013.「遺跡出土の骨から探る鳥の古生態」鳥ゼミ番外編<標本から学ぶ>、北海道大学、2013年10月20日。
- 江田真毅, 2013.「日本海から消えた!?アホウドリの謎」石狩縄文満月の会、2013年11月8日。

Eda, M., 2013. The history of domestic chickens in the East Asia. The core to core project JSPS 2013-2017 “Human-animal relations”, University of Aberdeen, 3rd and 4th Dec. 2013.

<教育活動>

学位論文主査・副査

理学院 自然史科学専攻 多様性生物学講座担当

平成24年度（修士論文指導主査0名、博士論文指導主査0名）

平成25年度（修士論文指導主査0名、博士論文指導主査0名）

指導学生等

2012年度 研究科0名（理学研究科）

2013年度 研究科1名（分担）（修士0名、博士1名）（理学研究科）

研究生1名（総合博物館）

授業

全学教育 一般教育演習「エコキャンパス」（分担）（2012, 2013年度）

全学教育 総合科目「北大大学博物館で学ぼう — 「コレクション・もの」にこだわる科学」（分担）（2012年度）

全学教育 総合科目「ヒグマ学入門」（分担）（2013年度）

全学教育 総合人類学「ヒトとは何か」（分担）（2013年度）

大学院共通科目 「博物館学特別講義 I (学術標本・資料学)」（分担）（2012, 2013年度）

理学院 「多様性生物学研究法」（分担）（2013年度）

理学院 「進化学概論 系統地理学」（分担）（2013年度）

学芸員養成過程 「博物館情報・メディア論」（分担）（2012, 2013年度）

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

総合博物館運営委員会委員、学術標本検討専門委員会委員、企画展示専門委員会委員、札幌脳学校第2農場の一般公開に関する専門委員会、ミュージアムショップ運営委員

博物館教育

北大キャンパスの遺跡・植物・昆虫観察会（野外観察会）（2012, 2013年）

セミナー・シンポジウム開催（企画、運営）

国際シンポジウム「環オホーツク海域地域における前近代交易網の発達と諸民族形成史の研究」[北海道大学総合博物館]. 2012年6月2日

日本動物学会北海道支部公開シンポジウム「最新技術による動物の進化と歴史の探求」[北海道大学総合博物館]. 2013年5月25日

博物館企画展示

企画展示名：「タイからワニがやってきた展」2013年（一部担当）、会場：北海道大学総合博物館 1階「知の統合」コーナー、期間：2013年11月26日（火）から12月27日（金）

編集・出版

「博物館ニュース」 25号－28号

『北海道大学総合博物館研究報告』第6号「環オホーツク海地域における前近代交易網の発達と諸民族形成史の研究（2013年3月31日刊行）」

データベースの構築・公開

「考古学資料検索システム」

（<http://database.museum.hokudai.ac.jp/archaeology/search.php>）（2013年3月～公開）

< 学内各種委員 >（1 件）

北海道大学における人類学的・考古学的学術資料の収集・保存・利用に関する基本方針策定部会 委員（平成24年度～）

< 社会貢献 >（1 件）

日本動物考古学会・学会誌編集委員（平成25年度～）

＜外部資金＞（4件）

【代表】江田真毅：科学研究費「遺跡出土試料の複眼的・理化学的解析による中国における家禽化プロセスの解明」（若手研究(B)）平成24年度～平成26年度

【分担】加藤博文（代表：北海道大学）：科学研究費「文化史と集団系統から見たアイヌ民族文化形成過程の解明」（基盤研究(A)）平成25年度～平成28年度

【分担】加藤博文（代表：北海道大学）：研究拠点形成事業－先端拠点形成型「北方圏における人類生態史総合研究拠点」平成25年度～平成29年度

【分担】澤田純明（代表：聖マリアンナ医科大学）：三菱財団人文科学研究助成「東南アジア大陸部における初期家畜動物の家畜化プロセスの解明」平成25年度～平成26年度

湯浅万紀子

YUASA Makiko

博物館教育・メディア研究系 准教授

○研究内容の概要

1. 博物館体験の長期的インパクトを検証する調査研究

日本ではまだ体系的に実施されていない博物館体験の長期的インパクトの検証に取り組み、人々の記憶に残る博物館体験を調査し、その記憶を続く世代へとつなぐための博物館活動の展開方法を研究している。認知面での学習効果にとどまらない博物館体験の多様な意味を明らかにすると同時に、博物館活動の意義を検証し、博物館資源を生かした活動への提案を導くための調査研究でもある。

2. 大学博物館における複合教育プログラムの評価に関する調査研究

大学博物館は社会において今後どのような役割を果たしていくべきかを探るために、大学博物館独自のリソースを生かした活動として「複合教育プログラム」に注目した研究を行っている。複合教育プログラムとは、博物館の活動の様々な局面に学生を関与させて教育し、その学生が博物館活動の担い手として来館者とコミュニケーションすることにより更に学習を深化させ、学生と来館者双方に教育的な意味を持つ実践的な教育プログラムである。大学博物館ならではの学生教育とは何かを探り、更にその学生教育の意義をいかに評価すればよいかを研究している。

3. 展示評価に関する調査研究

展示の総括的評価として、主として展示がいかに来館者に受け止められたかについて質的な調査を実施して評価するための研究を行っている。調査手法の検討、質問紙調査の自由記述回答や面接調査のデータの分析方法について研究し、メディア報道との関わり、展示解説を受けた人、展示解説を担った人へのインパクトなどを調査し、展示を多角的に検証する研究を行っている。更に、異なる展示にフィードバックできる指摘を求めて、評価方法を検討している。同時に、来館者プロフィールを継続的に分析することで、博物館の広報活動への示唆を導く。

4. 博物館評価に関する調査研究

前項の展示評価を含めた包括的な博物館評価として、各館独自の使命と設立経緯、社会状況を踏まえた上で、博物館の組織体制、運営形態などを含めた活

動のあらゆる局面を評価する手法、特に活動の質を評価するための手法を研究している。

5. 新しいミュージアム像に関する調査研究

博物館の新しい姿、活動を導くために、運営体制の見直し、コレクションや人的資源の流動化、来館者・非来館者との関わり、異分野との協働など、博物館と博物館を取り囲む社会の文化資源を新しい視点で再組織化する研究を行っている。

○2012年・2013年の研究・活動業績

<原著論文> (1件)

清水寛之・湯浅万紀子, 2012. 記憶特性質問紙 (MCQ) を用いた科学館体験の長期記憶に関する検討: 科学館職員, 大学生, および高齢者の比較. 科学技術コミュニケーション, 12: 19-30.

<著書・図録・目録等> (4件)

湯浅万紀子, 2012. 平成21~23年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C) 博物館体験に関する長期記憶研究に基づく新たな博物館評価の構築研究成果報告書.

Anderson, David 著, 湯浅万紀子訳, 2013. 【招待論文】 Recognizing the Significance of the Professional Museum Educator in Today's Museum Institutions (今日の博物館における専門職員としてのミュージアム・エデュケーターの重要性). 日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要, 17: 3-15頁.

東京大学総合研究博物館, 2012. 東京大学総合研究博物館受託研究 札幌市におけるモバイルミュージアムの実践可能性に関する基礎的調査研究報告書 (調査研究協力).

北海道立近代美術館評価システム導入プロジェクト, 2012. 北海道立近代美術館評価システム導入プロジェクト2011 活動報告書 (協力).

<総説・解説・報告等> (16件)

湯浅万紀子, 2012. ミュージアムマイスターコース 社会体験型科目の2011年度プロジェクトの紹介. 北海道大学総合博物館ニュース, 25: 7.

湯浅万紀子, 2012. 2011年度第2回ボランティア講座&交流会. 北海道大学総合博物館ニュース, 25: 9.

湯浅万紀子, 2012. 「エルムの杜の宝もの」——道新ぶんぶんクラブとの共催

講座を開催. 北海道大学総合博物館ニュース, 25: 11.

藤田良治・湯浅万紀子, 2012. 鈴木章名誉教授と小学生との体験・交流型イベント「サイエンスパーク in 北大総合博物館」. 北海道大学総合博物館ニュース, 25: 13.

湯浅万紀子, 2012. 学生発案型 夏休みイベント3件を実施. 北海道大学総合博物館ニュース, 26: 9.

河合俊郎・湯浅万紀子, 2012. 2012年度前期 ミュージアムマイスターコース 社会体験型プロジェクト. 北海道大学総合博物館ニュース, 26: 9-10.

湯浅万紀子, 2012. 2012年度第1回ボランティア講座&交流会, 三岸好太郎美術館見学会. 北海道大学総合博物館ニュース, 26: 11.

湯浅万紀子, 2012. カルチャーナイト2012「チェンバロと星空の夕べ」を開催. 北海道大学総合博物館ニュース, 26: 12.

湯浅万紀子, 2013. 2012年度卒論ポスター発表会. 北海道大学総合博物館ニュース, 27: 9.

湯浅万紀子, 2013. ホームカミングデーでの学生による展示解説. 北海道大学総合博物館ニュース, 27: 11.

湯浅万紀子, 2013. 2012年度第2回ボランティア講座&交流会. 北海道大学総合博物館ニュース, 27: 13.

山本順司・湯浅万紀子, 2013. 日本理科教育学会大会特別シンポジウム「理科教育からみた博物館利用の問題点を考える」を開催. 北海道大学総合博物館ニュース, 28: 9.

河合俊郎・湯浅万紀子, 2013. 2013年度前期 ミュージアムマイスターコース 社会体験型プロジェクト. 北海道大学総合博物館ニュース, 28: 10.

高橋英樹・湯浅万紀子, 2013. 北海道大学ホームカミングデー2013に展示解説とバックヤードツアーを開催. 北海道大学総合博物館ニュース, 28: 11.

湯浅万紀子, 2013. 2013年度第1回ボランティア講座&交流会. 北海道大学総合博物館ニュース, 28: 13.

湯浅万紀子, 2014. 総合博物館でのホームカミングデー. 北海道大学東京同窓会会報FRONTIER, 13.

<学会活動> (1件)

北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) 『科学技術コミュニケーション』編集委員 (2011年度より)

所属学会: 博物科学会, 日本科学教育学会, 文化資源学会, 日本ミュージアム・マネジメント学会, American Alliance of Museums.

<学会発表等> (8件)

- 清水寛之・湯浅万紀子, 2012. 「記憶特性質問紙 (MCQ) を用いた科学館体験の自伝的記憶に関する検討」. 日本認知心理学会第10回大会, 岡山大学.
- 湯浅万紀子, 2012. 「博物館体験の長期記憶を探究する意義: これまでの3年間の研究と、今後3年間の研究の枠組みの紹介」. 博物館体験の長期記憶研究に関する研究会, 北海道大学.
- Yuasa, M., 2012. 「Challenges of University Museums -- For the establishment of unique student education」. レスター大学・北海道大学 博物館教育研究会, 北海道大学. 【招待講演】
- 湯浅万紀子, 2013. 「北海道大学におけるミュージアムマイスター認定コースの展開」. 博物科学会, 宮崎大学.
- 湯浅万紀子・清水寛之, 2013. 「博物館体験に関する長期記憶研究——その意義と研究の紹介」. 名古屋市科学館談話会, 名古屋市科学館. 【招待講演】
- 湯浅万紀子・山本順司, 2013. 「大学博物館と学校との連携——北海道大学総合博物館の現状と課題、そして可能性」. 日本理科教育学会大会特別シンポジウム. 【招待講演】
- 湯浅万紀子, 2013. 「博物館体験の長期記憶の研究意義——博物館活動の本質を突く指標」. 滋賀大学経済学部講演会, 滋賀大学. 【招待講演】
- 湯浅万紀子, 2014. 北海道大学総合博物館「ミュージアムマイスター認定コース」がめざす学生教育, 平成25年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」学芸員技術研修会, 西南学院大学. 【招待講演】

<一般講演・セミナー発表> (7件)

- 湯浅万紀子, 2012. 「大学博物館学講座: 博物館の内と外」. 北海道大学総合博物館・北海道新聞ぶんぶんクラブ共催講座「エルムの杜の宝もの」. 北海道大学. 【招待講演】
- 湯浅万紀子, 2013. 「博物館学講座シリーズ第1回 博物館学入門、自然史系博物館」. 2013年度ボランティア講座&交流会, 北海道大学.
- 湯浅万紀子, 2013. 「博物館学講座シリーズ第2回 理工系博物館」. 2013年度ボランティア講座&交流会, 北海道大学.
- 湯浅万紀子, 2013. 「北大総合博物館探訪・学生による展示解説ツアー」. 北海道大学総合博物館・北海道新聞ぶんぶんクラブ共催講座「エルムの杜の宝もの」. 北海道大学. 【招待講演】
- 湯浅万紀子, 2013. 「博物館学講座シリーズ第3回 企業博物館、エコミュージアム」. 2013年度ボランティア講座&交流会, 北海道大学.

湯浅万紀子, 2013. 「博物館学講座シリーズ第4回 大学博物館」. 2013年度ボランティア講座&交流会, 北海道大学.

湯浅万紀子, 2014. 「博物館学講座シリーズ第5回 コミュニケーションの場としてのミュージアム」, 2013年度ボランティア講座&交流会, 北海道大学.

<教育活動>

学位論文主査・副査・

指導 理学院 自然史科学専攻 科学コミュニケーション講座

2012年度 博士後期課程1名、博士前期課程2名

2013年度 博士後期課程1名、博士前期課程2名（修士論文主査1名）

授業等：

1. 一般教育演習「北大総合博物館で学ぼう！—自然と人間」（担当、2012）
2. 博物館教育論・教育学概論（担当、2012, 2013）
3. 博物館実習（担当、2012, 2013）
4. 理学院自然史科学専攻・大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価」（担当、2012, 2013）
5. 理学院自然史科学専攻・大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論Ⅱ 基礎からわかる映像表現」（分担、2012, 2013）
6. 理学院自然史科学専攻・大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価」（担当、2012, 2013）
7. 大学院共通授業「博物館学特別講義Ⅱ 展示・教育・活動評価」（担当、2012, 2013）
8. マイスターコース社会体験型科目「『藻類』展の展示解説」（担当、2012）
9. マイスターコース社会体験型科目「アンモナイト展示コーナーの制作」（担当、2012）
10. マイスターコース社会体験型科目「『巨大ワニと恐竜』展の展示解説」（担当、2013）
11. マイスターコース社会体験型科目「卒論ポスター発表会」（担当、2012, 2013）
12. マイスターコース社会体験型科目「卒論ポスター発表会の運営」（担当、2012, 2013）
13. 北大総合博物館での北海学園大学ボランティア実習（担当、2012, 2013）

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

総合博物館運営委員会委員 (2012, 2013)
学術標本検討専門委員会委員 (2012, 2013)
企画展示専門委員会委員 (2012, 2013)
ミュージアムショップ運営委員 (2012, 2013)

ミュージアムマイスターコース担当 (2012, 2013)
卒論ポスター発表会の発表指導 (2012, 2013)
卒論ポスター発表会の運営指導 (2012, 2013)
博物館企画展示 展示解説・フロア対応 (2012, 2013)
博物館見学・展示解説担当 (2012, 2013)
来館者調査担当 (2012, 2013)

北海道大学ホームカミングデー 学生による展示解説 指導 (2012, 2013)
鈴木章名誉教授と高橋はるみ道知事と小学生との体験・交流型「サイエンスパーク in 北大総合博物館」担当 (2012, 2013)
カルチャーナイト企画・運営 (2012, 2013)
総合博物館・北海道新聞ぶんぶんクラブ共催講座「エルムの杜の宝もの」企画・運営 (2012, 2013)

大学院生企画「クイズラリー：博物館からの挑戦状」(指導)
大学院生企画「学生のための学生による博物館ナイトツアー」(指導)
大学院生企画「夏休み企画！ニンテンドーDS を持って北大博物館へ GO! GO!」
(北大元気プロジェクト 2012 採択企画) (指導)
大学院生企画「博物館ぐるぐるマップ——昆虫編」(指導)
大学院生企画「まっくら〜く博物館 小学生編・大学生編」(指導)
大学院生開発ミュージアムグッズ「デスモスチルスの付箋」「アインシュタインドームのコースター」(開発と評価を指導)
北大ミュージアムクラブ Mouseion「え！？一年生が展示解説」北大元気プロジェクト 2011-2013 採択企画) (指導)

ボランティア・マネジメント担当 (2012, 2013)
ボランティア展示解説グループ担当 (2012, 2013)
ボランティア講座&交流会 企画運営 (2012, 2013)

<学内各種委員> (3件)

高等教育機能開発総合センター研究員 (2012, 2013)

全学教育担当委員 総合博物館（2012, 2013）

理学院自然史科学専攻科学コミュニケーション講座 教務委員（2012）

＜社会貢献＞（1件）

北海道立北方民族博物館等指定管理者候補者選定委員会委員（2013）

＜外部資金＞（2件）

【代表】湯浅万紀子：学術振興会科学研究費 基盤（C）「地域社会での役割と関与者の長期記憶の観点に基づく博物館の新評価に関する研究」（2012-2014）平成24－26年度

【分担】David Anderson（ブリティッシュ・コロンビア大学）：カナダ政府 人文社会科学研究評議会（Social Science Research and Humanities Council, SSRHC）からの研究助成「博物館体験と『懐かしさ』反応に基づく来館者の長期記憶に関する研究」（2012-2014）

藤田良治

FUJITA Yoshiharu

博物館教育・メディア研究系 助教

○研究内容の概要

現在、博物館の展示は、より分かりやすく、より関心を高められる工夫として、映像やCGなどのメディアコンテンツを活用することが期待されている。博物館映像学では「博物館における学術映像標本の活用とその制作手法」を研究テーマに掲げている。さまざまな種類のメディアコンテンツの中でも、現代社会で幅広く活用されている映像メディアに焦点を当て、来館者に向けたメッセージを的確に伝えるためのコンテンツ制作の開発、および映像制作教育における方法論の研究を行なっている。

1. 博物館映像学

映像を学術映像標本としてとらえ、収集、保存し研究すること。さらに教育へ活用する方法など博物館と映像の関係について体系化する事を目指す。

2. 教育プログラムの開発

映像を活用した教育プログラムの開発を行う。映像を使った教材開発として、授業やインターネットで配信し受講者の理解を促進、興味関心を喚起する。映像制作を通して、企画力や物事をとらえる力を養う教育プログラムを開発する。

3. 学術映像標本に関する研究

撮影した映像素材を学術映像標本として収集、保存、整理するための方策を研究する。映像素材とは映像作品や映像コンテンツを制作するために撮影された映像を指す。映像素材に対して学術的な価値を付加することで学術映像標本となり得る。

4. 映像資源活用論

情報発信や映像教育に活用することを目的としたデジタルアーカイブズのあり方を追求し、メタデータとのひも付けや、コンテンツや素材の保存方法について研究する。研究成果は、次世代に向けた知の記録となることを目指す。

○2012年・2013年の研究・活動業績

<原著論文> (2件)

藤田貢崇・藤田良治・西成典子・永田浩三・小野崎敏・小出五郎、2012.足尾銅

山で撮影された写真のデータベース化.法政大学多摩研究報告、27: 39-44.
藤田貢崇・藤田良治、2013. 科学ジャーナリストの養成プログラムについて. 法政大学多摩研究報告、28: 27-36.

< 著書・図録・目録等 > (15件)

- 藤田良治、2012. 総合博物館リーフレット日本語版改訂.
- 藤田良治、2012. クラーク像と対峙した瞬間.企画展示図録 クラーク博士と札幌の植物 -W.S.クラーク博士来札・札幌. 農学校開校百三十五年記念-. p. 47.
- 藤田良治、2012.北海道大学総合博物館ミュージアムマイスター：認定コースのご案内、担当（2012、2013）
- 藤田良治、2012. 新・館 内リーフレット. 北海道大学総合博物館ニュース, 26: 4.
- 藤田良治、2012. 大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論II 基礎からわかる映像表現」. 北海道大学総合博物館ニュース, 26: 10.
- 藤田良治、2012.クラーク像を間近に見せる. 北海道大学総合博物館ニュース, 25: 3.
- 藤田良治、2012. 来館者を迎える顔. 北海道大学総合博物館ニュース, 25: 4.
- 藤田良治・湯浅万紀子、2012. 鈴木章名誉教授と小学生との体験・交流型イベント「サイエンスパーク in 北大総合博物館」. 北海道大学総合博物館ニュース, 25: 13.
- 柴田英昭、藤田良治、2013. 教材開発、研究林全天トレイル. 北海道大学環境科学院URL記載予定.
- 藤田良治、2013. ミュージアムメディアラボ開設. 総合博物館ウェブサイト拡張、<http://www.museum.hokudai.ac.jp/medialabo/index.php>.
- 藤田良治、2013. 総合博物館リーフレット英語語版改訂. デザインコーディネーター担当.
- 藤田良治、2013. 博物館映像学の研究者、「おしよろ丸」で北極海へ. 北海道大学総合博物館ニュース, 27: 7.
- 藤田良治、2013. 博物館で行う映像制作の講義（博物館コミュニケーション特論II. 北海道大学総合博物館ニュース, 27: 9.
- 藤田良治、2013. 平成26年度企画展示「学船洋上のキャンパスおしよろ丸」展イラスト募集. 北海道大学総合博物館ニュース, 26: 4.
- 藤田良治、2013. 総合博物館がキャンパス紹介映像を制作. 北海道大学総合博物館ニュース, 26: 11.

<映像作品等>

- 藤田良治、2012.ホームカミングデー2012 おかえりなさい「エルムの森」のキャンパスへ、北海道大学広報映像、クラーク会館、15'27"
- 藤田良治、2012.サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館（2012年度）開会の挨拶高橋 はるみ（北海道）、企画・撮影、北海道大学オープンコースウェア、03'12"
- 藤田良治、2012.サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館（2012年度）開会の挨拶 山口 佳三（北海道大学）、企画・撮影、北海道大学オープンコースウェア、03'48"
- 藤田良治、2012.サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館（2012年度）開会の挨拶鈴木 章（北海道大学）、企画・撮影、北海道大学オープンコースウェア、06'04"
- 藤田良治、2012.サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館（2012年度）参加体験型の実験（鈴木カップリング）山本 靖典（北海道大学大学院工学研究院）、企画・撮影、北海道大学オープンコースウェア、35'29"
- 藤田良治、2012.サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館（2012年度）実験解説 山本 靖典（北海道大学大学院工学研究院）、企画・撮影、北海道大学オープンコースウェア、06'51"
- 藤田良治、2012.サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館（2012年度）鈴木先生への質問コーナー 鈴木 章（北海道大学）、企画・撮影、北海道大学オープンコースウェア、25'24"
- 藤田良治、2012.サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館（2012年度）鈴木先生からメッセージ鈴木 章（北海道大学）、企画・撮影、北海道大学オープンコースウェア、07'01"
- 藤田良治、2012.サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館（2012年度）閉会の挨拶津曲 敏郎（北海道大学総合博物館）、企画・撮影、北海道大学オープンコースウェア、03'42"
- 藤田良治、2012.アリュレーション博物館紹介、博物館教育教材、02'05"
- FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. Sampling for water quality analysis, Research forest Whole-landscape trail, 01'46"
- FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. Gausing weir, Research forest Whole-landscape trail, 00'32"
- FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. Liner soil sampler Research forest Whole-landscape trail, 1'43"
- FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. Soil core, Research forest Whole-landscape trail, 03'42"

FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. Soil hardness meter, Reserarch forest Whole-landscape trail, 01'20"

FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013.. TDR soil moisture meter, Reserarch forest Whole-landscape trail, 01'53"

FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. Handy geoslicer, Reserarch forest Whole-landscape trail, 01'34"

FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. Soil auger, Reserarch forest Whole-landscape trail, 01'54"

FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. Soil color chart, Reserarch forest Whole-landscape trail, 01'22"

FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. Soil auger, Reserarch forest Whole-landscape trail, 01'16"

FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. Litter bag, Reserarch forest Whole-landscape trail, 01'08"

FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. View spot, Reserarch forest Whole-landscape trail, 00'55"

FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. Riparian forest, Reserarch forest Whole-landscape trail, 01'06"

FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. Litter sampling, Reserarch forest Whole-landscape trail, 01'58"

FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. Direct soil sampling, Reserarch forest Whole-landscape trail, 02'23"

FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. swamp forest, Reserarch forest Whole-landscape trail, 02'11"

FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. Start of recruitment on nurse log, Reserarch forest Whole-landscape trail, 00'31"

FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. nurse log, Reserarch forest Whole-landscape trail, 01'13"

FUJITA, Y., & H. SHIBATA, 2013. Peat sampler, Reserarch forest Whole-landscape trail, 01'35"

藤田良治・柴田英昭、2013. 量水堰、研究林全天トレイル、00'32"

藤田良治・柴田英昭、2013. ライナー採土器、研究林全天トレイル、01'43"

藤田良治・柴田英昭、2013. 採土円筒、研究林全天トレイル、03'42"

藤田良治・柴田英昭、2013. 土壌硬度計、研究林全天トレイル、01'20"

藤田良治・柴田英昭、2013. TDR土壌水分計、研究林全天トレイル、01'53"

藤田良治・柴田英昭、2013. ハンディジオスライサー、研究林全天トレイル、

01'34”

- 藤田良治・柴田英昭、2013. 検土杖、研究林全天トレイル、01'54”
- 藤田良治・柴田英昭、2013. 標準土色帳、研究林全天トレイル、01'22”
- 藤田良治・柴田英昭、2013. 土壌オーガー、研究林全天トレイル、01'16”
- 藤田良治・柴田英昭、2013. リターバッグ、01'08”
- 藤田良治・柴田英昭、2013. 展望台、研究林全天トレイル、00'55”
- 藤田良治・柴田英昭、2013. 河畔林、研究林全天トレイル、01'06”
- 藤田良治・柴田英昭、2013. リター採取、研究林全天トレイル、01'58”
- 藤田良治・柴田英昭、2013. 直接土壌採取、研究林全天トレイル、02'23”
- 藤田良治・柴田英昭、2013. 湿地林、研究林全天トレイル、02'11”
- 藤田良治・柴田英昭、2013. 倒木更新のはじまり、研究林全天トレイル、00'31”
- 藤田良治・柴田英昭、2013. 倒木更新、研究林全天トレイル、01'13”
- 藤田良治・柴田英昭、2013. ピートサンプラー、研究林全天トレイル、01'35”
- 藤田良治、2013. 第264次太平洋・父島周辺海域航海 共同利用（日本大学・帝京科学大学）北海道大学水産学部附属練習船おしよろ丸2013年12月11日～12月20日、関係者報告内部資料映像、14'55”
- 藤田良治、2013. ホームカミングデー2013 おかえりなさい「エルムの森」のキャンパスへ、北海道大学広報映像、クラーク会館、17'55”
- 藤田良治、2013. 平成25年度おしよろ丸北洋航海（北極海）ダイジェスト、関係者報告内部資料映像、03'11”
- 藤田良治、2013. むかわ町穂別地区恐竜発掘進捗報告、関係者報告内部資料映像、01'31”
- 藤田良治、2013. 総合博物館長挨拶 津曲俊郎、ミュージアムメディアラボ映像配信、01'13”
- 藤田良治、2013. 水産科学館長挨拶 矢部 衛、ミュージアムメディアラボ映像配信、01'54”
- 藤田良治、2013. 夏の企画展示「巨大ワニと恐竜の世界 ―巨大爬虫類2億3千万年の攻防―」展示映像、オープニング作成および映像改編、北海道大学総合博物館企画展示室、03'14”
- 藤田良治、2013. 北海道大学紹介映像 フロンティア基金、北海道大学広報映像、15'27”
- 藤田良治・揚妻直樹、2013. 和歌山研究林紹介 北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 森林圏ステーション 2013、ミュージアムメディアラボ・北海道大学オープンコースウェア、06'37”
- 藤田良治・揚妻直樹、2013. 和歌山研究林本館紹介 北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 森林圏ステーション 2013. ミュージアムメディア

ラボ・北海道大学オープンコースウェア、06'03”

森林圏ステーション 2013. ミュージアムメディアラボ、北海道大学オープンコースウェア、06'36”

藤田良治、2013. 平成24年度おしよろ丸北洋航海（北太平洋）アイスクリームタイム、関係者報告内部資料映像、00'21”

藤田良治、2013. 平成24年度おしよろ丸北洋航海（北太平洋）ARGOシステム、関係者報告内部資料映像、01'07”

藤田良治、2013. 平成24年度おしよろ丸北洋航海（北太平洋）CTDシステム、関係者報告内部資料映像、06'43”

藤田良治、2013. 平成24年度おしよろ丸北洋航海（北太平洋）NORPAC、関係者報告内部資料映像、01'08”

藤田良治、2013. 平成24年度おしよろ丸北洋航海（北太平洋）XCTD、関係者報告内部資料映像、01'09”

藤田良治、2013. 平成24年度おしよろ丸北洋航海（北太平洋）カメラロガーシステム、関係者報告内部資料映像、01'11”

藤田良治、2013. 平成24年度おしよろ丸北洋航海（北太平洋）トロール、関係者報告内部資料映像、04'06”

藤田良治、2013. 平成24年度おしよろ丸北洋航海（北太平洋）ダイジェスト、関係者報告内部資料映像、09'41”

藤田良治、2013. 平成24年度おしよろ丸北洋航海（北太平洋）流し網、関係者報告内部資料映像、07'43”

藤田良治、2013. “超面積”を活かした地球環境の研究と教育 -北海道大学の研究林-総合博物館、企画・撮影、北海道大学展示映像・ミュージアムメディアラボ・北海道大学オープンコースウェア、iTunes、4'06”

藤田良治、2013. 大阪大学総合学術博物館 第5回特別展巨大ワニと恐竜の世界 展示映像-1、映像改編、大阪大学総合博物館、08'12”

藤田良治、2013. 大阪大学総合学術博物館 第5回特別展巨大ワニと恐竜の世界 展示映像-2、映像改編、大阪大学総合博物館、03'13”

<学会活動>（1件）

1. サイエンス映像学会 理事・正会員（2010年から2013年）
2. 日本科学ジャーナリスト会議 正会員（2010年から2013年）
3. 博物科学会 正会員（2011から2013年）

<学会発表等>（4件）

藤田良治、2012. 「博物館映像学 ―新たな研究分野としての可能性―」. 博物

科学会【宮崎大学附属図書館】、2013年5月30日

藤田良治、2013.「学術映像標本の意義 ―北海道大学総合博物館における活用事例」.サイエンス映像学会 2013 年度大会、【法政大学 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎】、2013年8月31日

藤田良治、2014.「博物科学」「デジタルアーカイブス」、平成25年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」学芸員技術研修会、佐賀大学.【アドバイザー】

藤田良治、2014.「博物館人材教育」、平成25年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」学芸員技術研修会、西南学院大学.【アドバイザー】

<一般講演・セミナー発表> (2件)

藤田良治、2013.「博物館映像学の可能性、おしよろ丸特別講義」.太平洋・父島周辺航海上、2013年12月12日

藤田良治、2012.「博物館と映像 学船展示に向けて」おしよろ丸特別講義、北洋航海アラスカ湾

<教育活動>

学位論文主査・副査：

・理学院 自然史科学専攻 科学コミュニケーション講座担当：2012年度（修士論文指導副査2名

授業等：

1. 理学院自然史科学専攻・大学院共通科目「博物館コミュニケーション特論 I 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価」（分担）（2012, 2013）
2. 理学院自然史科学専攻・大学院共通科目「博物館コミュニケーション特論 II 基礎からわかる映像表現、博物館における映像表現」（2012、2013）
3. 理学院自然史科学専攻・大学院共通科目「博物館コミュニケーション特論 III ミュージアムグッズの開発と評価」（分担）（2012、2013）
4. 理学院自然史科学専攻・大学院共通科目「博物館コミュニケーション特論 IV 映像制作とスノーボード」（2013）
5. 学芸員養成課程科目 博物館情報・メディア論、博物館学Iib（視聴覚教育論含む）（2012）、ゲスト講義（2013）
6. 理学院専門科目 自然史科学特別講義IV 博物カンカン！ 常識を覆す博物館のみかた（主担当）（2012年）
7. 総合科目「今、大学博物館が面白い―“物”にこだわる科学」（分担）（2012年）

8. マイスターコース社会体験型科目「卒論ポスター発表会の運営」(2012、2013)

＜博物館活動＞

総合博物館関連各種委員等

1. 学術標本検討専門委員会委員 (2012, 2013)
2. ミュージアムショップ運営委員 (2012, 2013)
3. ミュージアムマイスターWG (2012, 2013)

博物館教育

1. 卒論ポスター発表会の発表指導 (2012, 2013)
2. 卒論ポスター発表会の運営指導 (2012、2013)

博物館企画展示

1. 学船 洋上のキャンパスおしよろ丸イラスト募集、プレイベント、担当 (2013)
2. 巨大ワニと恐竜の世界 ―巨大爬虫類 2 億 3 千万年の攻防―、映像制作担当 (2013)
3. クラーク博士と札幌の植物 ―W.S.クラーク博士来札・札幌農学校開学135 周年記念―、展示映像制作 (副担当) (2012)

博物館常設展示

1. 展示室映像メディアコンテンツ制作 (2013)
2. 北大の四季 ウェルカムモニター上映用コンテンツ (2012、2013)

＜学内各種委員＞ (2 件)

ホームカミングデー映像制作委員会 (2012、2013)

サステナビリティウィーク映像制作委員会 (2012)

＜社会貢献＞ (1 件)

1. サイエンス映像学会 理事 (2012、2013)

＜外部資金＞ (3 件)

【代表】学術振興会科学研究費 若手研究 (B)「映像コンテンツの制作・アーカイブ化に関する新たな学芸員養成教育プログラムの開発」(平成 23 年度-平成 24 年度)

【分担】学術振興会科学研究費 基盤研究(C)「科学教育番組を活用した i P a
d アプリの開発と実証に関する研究」(平成 24 年度-平成 27 年度)

【研究分担】公益財団法人 放送文化基金 「足尾銅山の教訓を世界が学べるた
めのデータベースの作成と発信」(平成 23 年度-平成 24 年度)

＜平成24・25年度の新聞報道記録＞

〈平成24（2012）年度の新聞報道記録〉（セミナー開催告知は除く。）

1	北海道新聞	4月 2日	「雪博士」の歩み知って
2	毎日新聞	4月10日	雪や氷の研究再評価始まる
3	北海道新聞	4月29日	「雪博士」の業績しのぶ
4	読売新聞	4月29日	先達の偉業守り伝える
5	朝日新聞	5月18日	「都ぞ弥生」歌い継ぎ100年
6	読売新聞	6月 5日	「都ぞ弥生」100年誌
7	朝日新聞	6月 5日	「貴き野心」の精神、歌い継ぐ
8	北海道新聞	6月 6日	人工雪誕生 研究史たどる
9	北海道新聞	6月 5日	教育者・中谷宇吉郎雪博士がまいた種、＜上＞
10	北海道新聞	6月 6日	教育者・中谷宇吉郎雪博士がまいた種、＜中＞
11	北海道新聞	6月 8日	教育者・中谷宇吉郎雪博士がまいた種、＜下＞
12	北海道新聞	6月10日	「都ぞ弥生」肩組み熱唱
13	北海道新聞	6月20日	ガリミムスの頭足が速いダチョウ型恐竜
14	北海道新聞	6月22日	絶滅危惧種も生育 夏前に外来植物駆除
15	朝日新聞	8月11日	南極生活 食事が大事
16	北海道新聞	9月23日	ティラノサウルス VS 巨大ワニ 陸、水辺の王者能力比較
17	北海道新聞	10月 1日	財産活用し市民講座
18	北海道新聞	10月 3日	中谷宇吉郎の生涯追う
19	北海道新聞	10月 7日	入館80万人突破
20	北海道新聞	10月 8日	北大がスキー部100年展
21	朝日新聞	10月16日	学生育て、スキー文化に貢献
22	朝日新聞	10月23日	「現象をよくみる」肝に銘じ
23	北海道新聞	10月26日	最も原始的な翼持つ恐竜特定
24	北海道新聞	10月28日	雪博士の戦時研究学ぶ
25	朝日新聞	10月30日	科学者として威厳と優しさ
26	釧路新聞	11月 4日	巨大津波の痕跡ジオツアーで指摘
27	朝日新聞	12月 2日	発掘は命がけ。でも、新発見は快感だ
28	北海道新聞	12月 9日	ノーベル賞実験「面白い」
29	北海道新聞	1月27日	恐竜の骨にびっくりチカホで出張博物館
30	北海道新聞	1月30日	中谷宇吉郎の志 後世に
31	北海道新聞	2月 1日	ボランティアが活躍
32	北海道新聞	2月 1日	運営支え自ら学習も

3 3	朝日新聞	2 月 8 日	六花に魅せられ・・・作品多彩
3 4	北海道新聞	2 月 1 5 日	昆虫の構造 生活に活用
3 5	朝日新聞	2 月 2 8 日	探求人 鳥の骨から歴史を復元

〈平成 2 5 (2 0 1 3) 年度の新聞報道記録〉(セミナー開催告知は除く。)

1	北海道新聞	4 月 1 9 日	細密画や標本で北のスマイル紹介
2	北海道新聞	5 月 1 2 日	花と昆虫深〜い関係探る
3	北海道新聞	5 月 2 5 日	北大院生企画 グッズ人気
4	北海道新聞	5 月 3 0 日	中国の化石は新種恐竜
5	北海道新聞	6 月 9 日	ワニ、恐竜の進化と共生
6	北海道新聞	6 月 1 0 日	アカウミガメの頭骨 浦島太郎はメスを助けた
7	朝日新聞	7 月 1 4 日	恐竜 つながった骨発見
8	北海道新聞	7 月 1 7 日	むかわで恐竜化石 新種か
9	朝日新聞	7 月 1 8 日	恐竜の化石を一般公開へ
1 0	北海道新聞	7 月 2 3 日	ペンライト使用し標本観察の催し
1 1	北海道新聞	7 月 3 0 日	暗闇から浮かぶ標本色合いに子供ら感心
1 2	朝日新聞	9 月 8 日	骨格出るかな 恐竜発掘開始
1 3	日本経済新聞	9 月 1 6 日	明治しのぶ木造畜舎
1 4	北海道新聞	1 0 月 9 日	恐竜展 5 万人突破
1 5	北海道新聞	1 2 月 8 日	鈴木名誉教授が特別授業
1 6	朝日新聞	1 月 3 0 日	バードの旅を追体験 北大博物館で企画展
1 7	山口新聞	3 月 1 8 日	四季風

(H26. 3. 31 迄)

IX. 予算状況 (2013年度迄)

単位 :

区 分	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
運営費交付金	54,301	50,562	47,781	53,974	49,509

千円

外部資金受入状況等

年 度	件数	金 額
2011年度	6 件	11,900
2012年度	12 件	20,100
2013年度	10 件	17,400

年 度	件数	金 額
2011年度	2 件	570
2012年度	4 件	1,650
2013年度	5 件	1,610

【科学研究費採択状況】

単位 : 千円

【科学研究費分担金一覧（他機関から受領する分）】 単位 :

千円

年度	件 名	相手方	金 額
2011	レブンアツモリソウの自生地復元に必要な植物 共生生態系の解明	独立行政法人 森林総合研究所	1,345
2012	レブンアツモリソウの自生地復元に必要な植物 共生生態系の解明	独立行政法人 森林総合研究所	1,090
2013	レブンアツモリソウの自生地復元に必要な植物 共生生態系の解明	独立行政法人 森林総合研究所	1,552

【受託研究受入状況】

単位 : 千円

年 度	件数	金 額
2011年度	0 件	0
2012年度	1 件	500
2013年度	3 件	1,240

受入年度	受入金額
2011年	729,500
2012年	836,205
2013年	772,707
合 計	2,338,412

【奨学寄付金委任経理金の受入状況】

【総合博物館支援基金】

単位 : 千円

単位 : 円